



## はじめに

このたびは、AQ7290 OTDR シリーズ AQ7292A、AQ7293A、AQ7294A、AQ7293F、AQ7293H、AQ7294H OTDR (Optical Time Domain Reflectometer)をお買い上げいただきましてありがとうございます。

この通信インターフェースユーザーズマニュアルは、次の内容を説明しています。

- USB インタフェース (USB 通信)
- イーサネットインターフェース (オプション)
- USB インタフェース (WLAN ドングル /LTE ドングル)
- 通信コマンド

ご使用前にこのマニュアルをよくお読みいただき、正しくお使いください。お読みになったあとは、ご使用時にすぐにご覧になれるところに、大切に保存してください。ご使用中に操作がわからなくなったりときなどにきっとお役に立ちます。

なお、本機器のマニュアルとして、iii ページの「マニュアルの構成」に示すマニュアルがあります。あわせてお読みください。

各国や地域の当社営業拠点の連絡先は、次のシートに記載されています。

ドキュメント No.	内容
PIM113-01Z2	国内海外の連絡先一覧

## ご注意

- 性能・機能の向上などにより、本書の内容を予告なしに変更することがあります。最新のマニュアルは、当社 Web サイトでご確認ください。
- 本書に記載の画面表示内容は実際のものと多少異なることがあります。
- 本書の内容に関しては万全を期していますが、万一ご不審の点や誤りなどお気づきのことがありましたら、お手数ですが、当社支社・支店・営業所までご連絡ください。
- 本書の内容の全部または一部を無断で転載、複製することは禁止されています。
- 本製品の TCP/IP ソフトウェア、および TCP/IP ソフトウェアに関するドキュメントは、カリフォルニア大学からライセンスされた BSD Networking Software, Release 1 をもとに当社で開発 / 作成したものです。

## 商標

- Microsoft、Windows、Windows 10、および Windows 11 は、米国 Microsoft Corporation の、米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- Adobe、Acrobat は、アドビシステムズ社の登録商標または商標です。
- LTE は、European Telecommunications Standards Institute (ETSI) の登録商標または商標です。
- 本文中の各社の登録商標または商標には、®、TM マークは表示していません。
- その他、本文中に使われている会社名、商品名は、各社の登録商標または商標です。

---

## USB インタフェースおよびイーサネットインターフェースについて

USB インタフェースによる通信機能を使用するには、パーソナルコンピュータ（以降、PC と略します）側に次のソフトウェアが必要です。

- ・通信ライブラリ (TMCTL)
- ・USB ドライバ

イーサネットインターフェースによる通信機能を使用するには、PC 側に次のソフトウェアが必要です。

- ・通信ライブラリ (TMCTL)

上記のライブラリおよびドライバは、次の Web サイトの提供ページからダウンロードできます。

<https://tmi.yokogawa.com/jp/library/>

無線ネットワークを使用する場合、USB Type-A の通信用ドングル (WLAN ドングル、LTE ドングル) を本機器に接続する必要があります。通信用ドングルはお客様にてご用意ください。

本機器で使用できる通信用ドングルの推奨品については、お買い求め先にお問い合わせください。

## 履歴

2025 年 4 月 初版発行

# マニュアルの構成

本機器のマニュアルとして、このマニュアルを含め、次のものがあります。あわせてお読みください。

## 製品に添付されているマニュアル

マニュアル名	マニュアル No.	内容
AQ7292A、AQ7293A、AQ7294A、 AQ7293F、AQ7293H、AQ7294H OTDR スタートガイド	IM AQ7290-02JA	本機器の取り扱い上の注意、基本的な操作、仕様について、説明しています。
AQ7292A、AQ7293A、AQ7294A、 AQ7293F、AQ7293H、AQ7294H OTDR	IM AQ7290-92Z1	中国向け文書
Model 739883 バッテリパックの取り扱い上の注意	IM 739883-01JA	バッテリパックを取り扱うときの注意について、説明しています。
739883 Battery Pack	IM 739883-92Z1	中国向け文書
Safety Instruction Manual	IM 00C01C01-01Z1	安全マニュアル(欧州の言語)

## 本機器の内部メモリーに収録されているマニュアル

次のマニュアルは、本機器の内部メモリーに収録されています。PC にダウンロードしてご使用ください。ダウンロードの方法は、スタートガイド (IM AQ7290-02JA) の「ユーザーズマニュアルの閲覧方法」をご覧ください。当社の Web サイトからもダウンロードできます。

マニュアル名	マニュアル No.	内容
AQ7292A、AQ7293A、AQ7294A、 AQ7293F、AQ7293H、AQ7294H OTDR ユーザーズマニュアル	IM AQ7290-01JA	通信インターフェースの機能を除く全機能とその操作方法について説明しています。
AQ7292A、AQ7293A、AQ7294A、 AQ7293F、AQ7293H、AQ7294H OTDR 通信インターフェースユーザーズマニュアル	IM AQ7290-17JA	本書です。通信インターフェースの機能について、その操作方法を説明しています。

マニュアル No. の「JA」、「Z1」は言語コードです。

# このマニュアルの利用方法

## このマニュアルの章構成

このユーザーズマニュアルは、以下に示す第 1 章～第 6 章、付録および索引で構成されています。

### 第 1 章 USB インタフェース (USB 通信)

PC をコントローラとして本機器をコントロールする USB インタフェースの機能・仕様などについて説明しています。

### 第 2 章 イーサネットインターフェース (オプション)

イーサネットインターフェースの機能・仕様などについて説明しています。

### 第 3 章 USB インタフェース (WLAN ドングル /LTE ドングル使用時)

本機器に WLAN または LTE 対応の USB ドングルを接続し、端末から WLAN や LTE を経由して本機器をコントロールする機能について説明しています。

### 第 4 章 プログラムを組む前に

コマンドを送るときの書式などについて説明しています。

### 第 5 章 コマンド

使用できる全コマンドについて 1 つずつ説明しています。

### 第 6 章 状態レジスタ / 出力キューとエラーキュー

レジスタとキューについて説明しています。

### 付録

エラーコード、旧機種 (AQ7280、AQ1210 シリーズ) のコマンドの互換性情報などについて説明しています。

### 索引

50 音順、アルファベット順の 2 種類の索引があります。

# このマニュアルで使用している記号と表記方法

## 操作説明ページで使用しているシンボルと表記法

各章で操作説明をしているページでは、説明内容を区別するために、次のようなシンボル / 表記法を使用しています。

### 操作

ここでは、初めて操作することを前提に手順を説明しています。  
設定内容を変更する場合は、すべての操作を必要としない場合があります。

### 解説

操作に関連する設定内容や限定事項について説明しています。

### Note

本機器を取り扱ううえで重要な情報が記載されています。

## 文字の表記法

### 太文字の操作キー名とソフトキー名

操作対象になるパネル上の操作キーの文字や、画面に表示されるソフトキー / メニューの文字を示します。

## 単位

k 「1000」の意味です。使用例：400 km

K 「1024」の意味です。使用例：459 K バイト (ファイルのデータサイズ)

## 構文の記号

主に第5章の構文で使用している記号を下表に示します。

なお、これは BNF(Backus-NaurForm) 記号と呼ばれるものです。詳細データについては、4.4節「データ」を参照してください。

記号	意味	例	入力例
<>	定義された値	SET:M<x>	-> SET:M2
{ }	{ } 内から1つを選択	LMTechnique {LSA TPA}	-> LMTechnique TPA
	排他的論理和		



# 目次

はじめに .....	j
マニュアルの構成 .....	iii
このマニュアルの利用方法 .....	iv
このマニュアルで使用している記号と表記方法 .....	v
<b>第 1 章 USB インタフェース (USB 通信 )</b>	
1.1 各部の名称と機能 .....	1-1
1.2 USB インタフェース (USB 通信 ) の機能と仕様 .....	1-2
1.3 USB インタフェースの接続 .....	1-3
1.4 本体の設定 (USB 通信 ) .....	1-4
<b>第 2 章 イーサネットインターフェースについて (オプション)</b>	
2.1 各部の名称と機能 .....	2-1
2.2 イーサネットの機能と仕様 .....	2-2
2.3 イーサネットによる接続 .....	2-3
2.4 本体の設定 (ネットワーク ) .....	2-4
<b>第 3 章 USB インタフェース (WLAN ドングル /LTE ドングル使用時 )</b>	
3.1 各部の名称と機能 .....	3-1
3.2 USB インタフェース (WLAN ドングル /LTE ドングル使用時 ) の機能と仕様 .....	3-2
3.3 WLAN ドングル /LTE ドングルの接続 .....	3-3
3.4 本体の設定 (WLAN ドングル /LTE ドングル使用時 ) .....	3-4
<b>第 4 章 プログラムを組む前に</b>	
4.1 メッセージ .....	4-1
4.2 命令 .....	4-4
4.3 応答 .....	4-7
4.4 データ .....	4-8
<b>第 5 章 コマンド</b>	
5.1 コマンド一覧表 .....	5-1
5.2 ACQuire グループ .....	5-13
5.3 ANALysis グループ .....	5-17
5.4 COMMunicate グループ .....	5-28
5.5 DISPlay グループ .....	5-29
5.6 FIPRobe グループ .....	5-31
5.7 FSYStem グループ .....	5-36
5.8 LABel グループ .....	5-42
5.9 LIGHTsource グループ .....	5-44
5.10 MENU グループ .....	5-45
5.11 MISC グループ .....	5-46
5.12 NETwork グループ .....	5-49
5.13 OSWitch グループ .....	5-53
5.14 PMETer グループ .....	5-54
5.15 PMONitor グループ .....	5-56
5.16 REPOrt グループ .....	5-57
5.17 SETup グループ .....	5-58
5.18 STATus グループ .....	5-59
5.19 SYSTem グループ .....	5-60

## 目次

---

5.20	VLS グループ.....	5-61
5.21	WAVedata グループ.....	5-62
5.22	共通コマンドグループ.....	5-64

## 第 6 章 状態レジスタ / 出力キューとエラーキュー

6.1	状態レジスタ .....	6-1
6.2	出力キューとエラーキュー.....	6-2

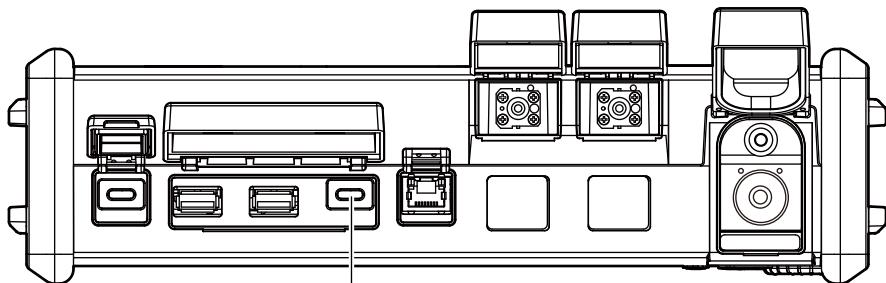
## 付録

付録 1	エラーメッセージ .....	付 -1
付録 2	旧機種 (AQ7280、AQ1210 シリーズなど) のコマンドの互換性情報 .....	付 -3
付録 3	非推奨コマンド (旧機種のコマンド) .....	付 -6

## 索引

## 1.1 各部の名称と機能

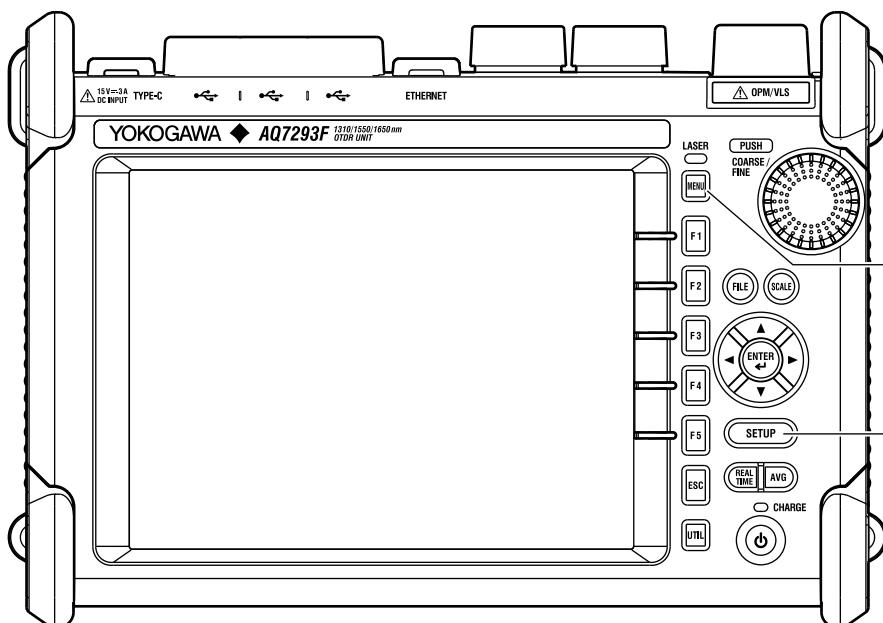
### 上面



USB ポート (Type-C)

コントローラ (PC など) と、USB ケーブルで接続するためのコネクタです。

### フロントパネル



MENU キー

システム設定をする場合で、SETUP キーを押す前に MENU 画面を表示するときに押します。

SETUP キー

USB インタフェースを選択するときに押します。

## 1.2 USB インタフェース (USB 通信) の機能と仕様

### USB インタフェースの機能と仕様

#### 受信機能

フロントパネルのキー操作による設定と同じ設定ができます。

測定 / 演算データ、パネルの設定情報、エラーコードの出力要求を受けられます。

#### 送信機能

測定 / 演算データを出力できます。

パネルの設定情報、ステータスバイトを出力できます。

発生したエラーコードを出力できます。

### USB インタフェースの仕様

電気的・機械的仕様：USB Rev. 2.0 に準拠

コネクタ：Type-C コネクタ ( レセプタクル )

ポート数：1

電源：セルフパワー

対応システム環境：Windows 10、Windows 11 で動作し、USB ポートが標準装備されている機種。  
(PC との接続には、別途デバイスドライバが必要。)

### リモート / ローカル切り替え時の動作

#### ローカル→リモート切り替え時

ローカル状態のときにコマンドを送信することにより、リモート状態になります。

- ・ リモートコントロール解除ボタン以外はキーが効かなくなります。
- ・ ローカル状態での設定は、リモート状態になっても引き継がれます。

#### リモート→ローカル切り替え時

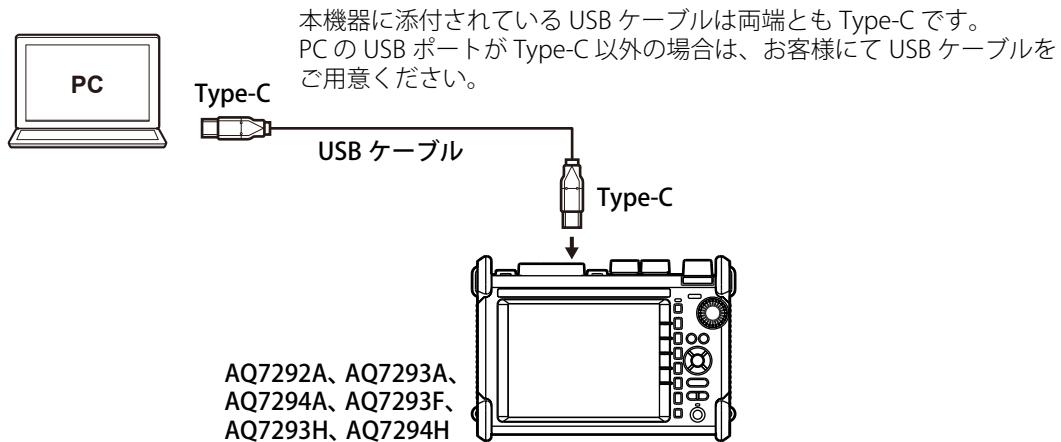
リモート状態のときに、本機器のリモートコントロール解除ボタンをタップすると、ローカル状態になります。

- ・ キー操作が可能になります。
- ・ リモート状態での設定は、ローカル状態になっても引き継がれます。

## 1.3 USB インタフェースの接続

### 接続方法

1. 本体上面のカバーを開けます。
2. USB ケーブルを Type-C のコネクタに接続します。



### 接続時の注意

- USB ケーブルは、USB コネクタに奥までしっかりと差し込んで接続してください。
- 本機器の電源を ON にしてから操作が可能になるまでの間(約 20 秒間)は、USB ケーブルを抜き差ししないでください。

## 1.4 本体の設定 (USB 通信)

### 操作

#### USB インタフェースの設定画面

1. MENU キーを押します。MENU 画面が表示されます。
2. SETUP キーを押します。システム設定画面が表示されます。

MENU 画面以外の OTDR 機能やパワーメーター機能などの画面からも SETUP キーを押してシステム設定画面を表示できます。機能によっては、SETUP キーを押して設定画面を表示したあとに、システムのソフトキーをタップする場合もあります。どの画面からシステム設定を実行しても設定が反映されます。

#### USB 機能の設定 (通信、ストレージ)



3. USB 機能をタップします。項目の選択画面が表示されます。
4. 通信を選択します。

#### リモートコントロールの解除

通信の開始後、画面に表示されるリモートコントロール解除ボタンをタップします。



## 解 説

### USB インタフェース

USB インタフェースでリモートコントロールするときは、当社の USB TMC (Test and Measurement Class) 用ドライバを PC にインストールしてください。当社の USB TMC 用ドライバの入手方法については、お買い求め先にお問い合わせいただくか、次の当社 Web サイトから USB ドライバ提供ページにアクセスし、USB TMC 用ドライバをダウンロードしてください。

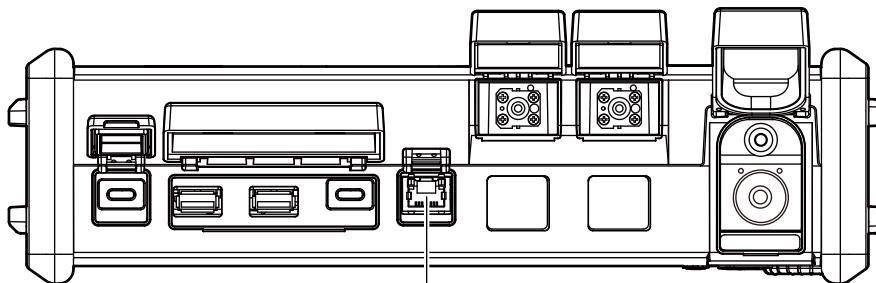
<https://tmi.yokogawa.com/jp/library/>

#### **Note**

- ・リモートコントロール中は画面表示の変更ができません。
- ・当社以外の USB TMC 用ドライバ(またはソフトウェア)は、使用しないでください。

## 2.1 各部の名称と機能

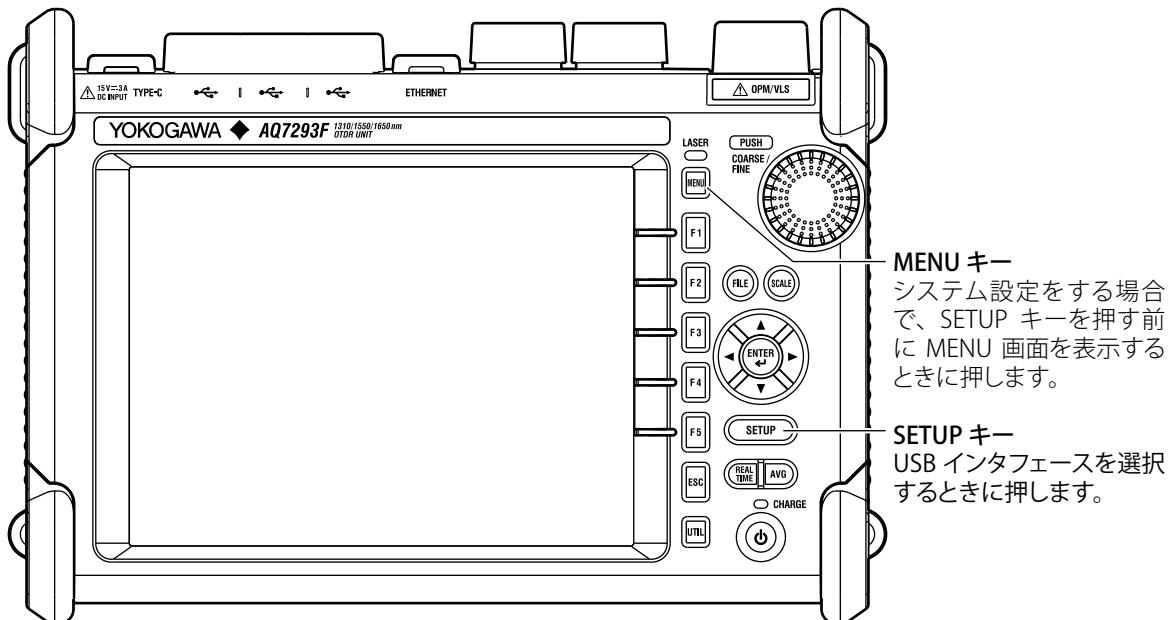
### 上面



イーサネットポート

コントローラ（PCなど）と、イーサネットケーブルで接続するためのポートです。

### フロントパネル



**MENU キー**

システム設定をする場合で、SETUP キーを押す前に MENU 画面を表示するときに押します。

**SETUP キー**

USB インタフェースを選択するときに押します。

## 2.2 イーサネットの機能と仕様

### イーサネットの機能

#### 受信機能

フロントパネルのキー操作による設定と同じ設定ができます。

測定 / 演算データ、パネルの設定情報、エラーコードの出力要求を受けられます。

#### 送信機能

測定 / 演算データを出力できます。

パネルの設定情報、ステータスバイトを出力できます。

発生したエラーコードを出力できます。

### イーサネットの仕様

電気的・機械的仕様：IEEE 802.3 準拠

伝送方式：Ethernet(1000BASE-T)

伝送速度：250 Mbps

ポート数：1

ポート番号：10001/tcp

コネクタ形状：RJ45 コネクタ

### リモート / ローカル切り替え時の動作

#### ローカル→リモート切り替え時

ネットワークの設定を有効にしたあと、ローカル状態のときにコマンドを送信することにより、リモート状態になります。

- リモートコントロール解除ボタン以外はキーが効かなくなります。
- ローカル状態での設定は、リモート状態になっても引き継がれます。

#### リモート→ローカル切り替え時

リモート状態のときに、本機器のリモートコントロール解除ボタンをタップすると、ローカル状態になります。

- キー操作が可能になります。
- リモート状態での設定は、ローカル状態になっても引き継がれます。

#### Note

USB 機能の設定で、ストレージ機能が動作していると、本機器をリモートコントロールできません。イーサネットによるリモートコントロールもできません。

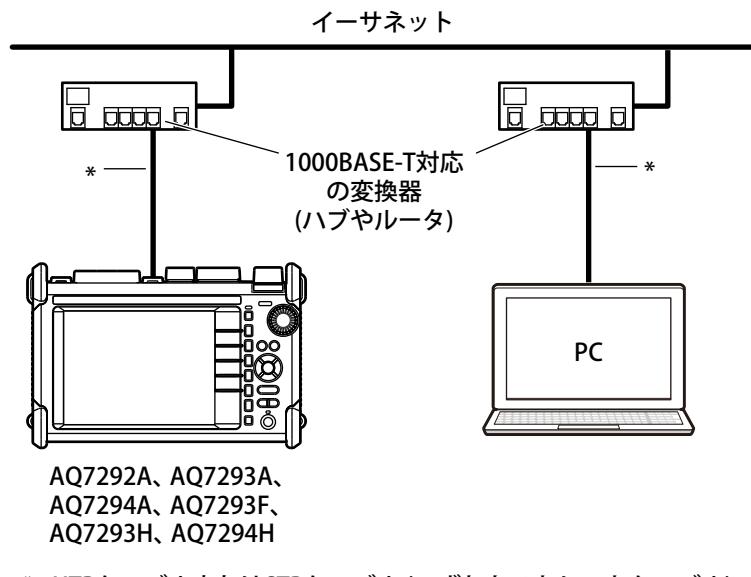
### FTP 機能

本機器には FTP 機能があります。PC から FTP のコマンドを使って、本機器のメモリーに格納しているデータを PC へ転送できます。

## 2.3 イーサネットによる接続

### 接続方法

ハブなどに接続された UTP(Unshielded Twisted-Pair) ケーブルまたは STP(Shielded Twisted-Pair) ケーブルを本機器の ETHERNET コネクタに接続します。



### 接続時の注意

- ハブを介して PC と本機器を接続する場合はストレートケーブル、PC と本機器を直接接続する場合はクロスケーブルを使用してください。
- ご使用のネットワーク環境(伝送速度)に対応したケーブルを使用してください。
- UTP ケーブル(ストレートケーブル)を使用する場合は、必ずカテゴリー 5 のものを使用してください。

## 2.4 本体の設定（ネットワーク）

ここでは、イーサネットインターフェースでリモートコントロールをするときの設定について説明しています。

### 操作

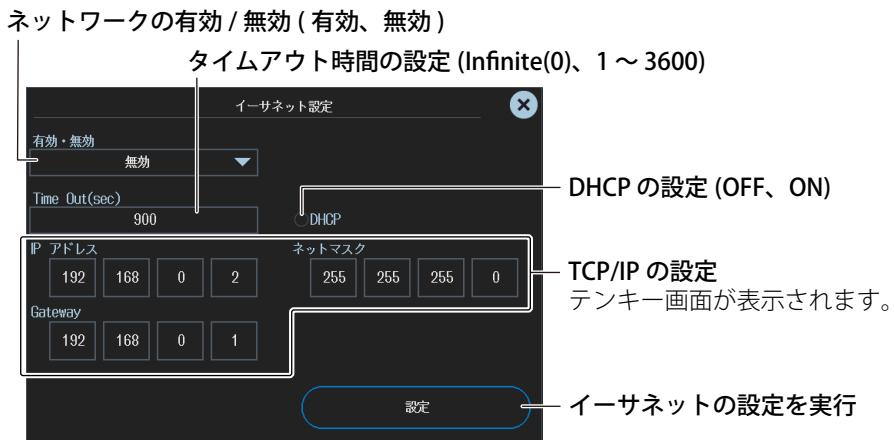
#### ネットワークの設定画面

1. MENU キーを押します。MENU 画面が表示されます。
2. SETUP キーを押します。システム設定画面が表示されます。
3. MENU 画面以外の OTDR 機能やパワーメーター機能などの画面からも SETUP キーを押してシステム設定画面を表示できます。機能によっては、SETUP キーを押して設定画面を表示したあとに、システムのソフトキーをタップする場合もあります。どの画面からシステム設定を実行しても設定が反映されます。
4. ネットワーク設定をタップします。ネットワーク設定画面が表示されます。



#### イーサネットの設定画面

4. イーサネット設定をタップします。イーサネット設定画面が表示されます。



#### Note

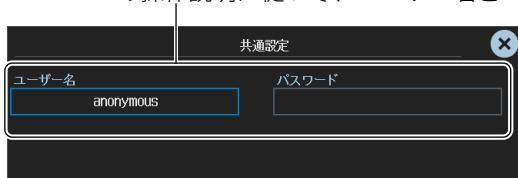
詳細は、IM AQ7290-01JA ユーザーズマニュアルの 10.7 節の解説をご覧ください。

## 共通の設定(ユーザー名、パスワード)

4. 共通設定をタップします。共通設定画面が表示されます。

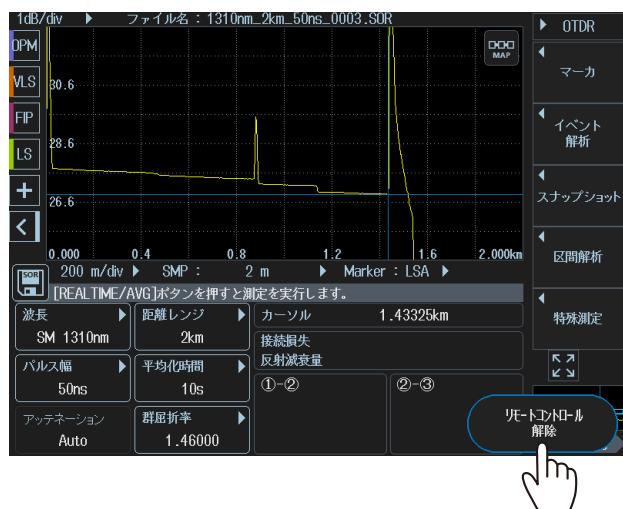
### ユーザー名とパスワードの設定

ユーザーズマニュアル(IM AQ7290-01JA)の「文字列を入力する」の操作説明に従って、ユーザー名とパスワードを入力します。



## リモートコントロールの解除

通信の開始後、画面に表示されるリモートコントロール解除ボタンをタップします。



## 解 説

### イーサネットの設定

イーサネットインターフェース機能を利用するには、以下の設定が必要です。

- ・ **ネットワークの有効 / 無効**

ユーザー名、パスワード、タイムアウト時間、およびTCP/IPの設定をしたあと、有効を選択するとネットワークを使用することができます。

- ・ **ユーザー名**

- ・ **パスワード**

- ・ **タイムアウト時間の設定**

設定した時間内に本機器にアクセスがないと、自動的に本機器とのネットワーク接続が切断されます。

- ・ **DHCP の ON/OFF**

- ・ **TCP/IP の設定**

DHCPをOFFにしたときに設定します。

IPアドレス

ネットマスク

Gateway

これらの設定方法の詳細については、AQ7290 OTDR ユーザーズマニュアル (IM AQ7290-01JA) の「10.4 ネットワーク (LAN) を使う (/LAN オプション)」をご覧ください。

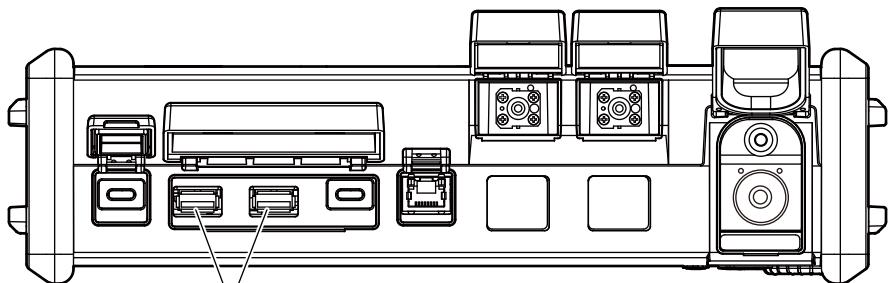
---

#### **Note**

- ・ 制御するPCと本機器の間にルーターなどが存在する場合は、タイムアウト時間を設定してください。タイムアウト時間を設定していない状態で、ルーターなどが故障すると、PCと再接続できなくなります。
  - ・ USB通信で、ストレージ機能の動作中は、本機器をリモートコントロールできません。
-

## 3.1 各部の名称と機能

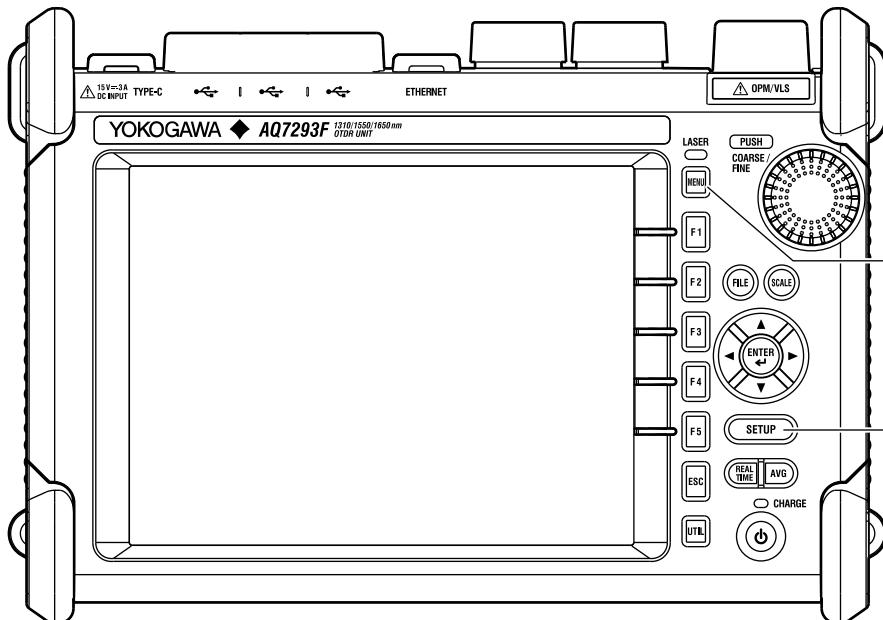
### 上面



USB ポート (Type-A)

WLAN または LTE 対応の USB ドングルを接続するためのコネクタです。

### フロントパネル



**MENU キー**

システム設定をする場合で、SETUP キーを押す前に MENU 画面を表示するときに押します。

**SETUP キー**

USB インタフェースを選択するときに押します。

## 3.2 USB インタフェース (WLAN ドングル /LTE ドングル使用時) の機能と仕様

### USB インタフェース (WLAN ドングル /LTE ドングル使用時) の機能

#### 受信機能

フロントパネルのキー操作による設定と同じ設定ができます。

測定 / 演算データ、パネルの設定情報、エラーコードの出力要求を受けられます。

#### 送信機能

測定 / 演算データを出力できます。

パネルの設定情報、ステータスバイトを出力できます。

発生したエラーコードを出力できます。

### USB インタフェース (WLAN ドングル /LTE ドングル使用時) の仕様

電気的・機械的仕様：USB Rev. 2.0 に準拠

コネクタ：Type-A コネクタ ( レセプタクル )

ポート数：2

電源：セルフパワー

### リモート / ローカル切り替え時の動作

#### ローカル→リモート切り替え時

ローカル状態のときにコマンドを送信することにより、リモート状態になります。

- ・ リモートコントロール解除ボタン以外はキーが効かなくなります。
- ・ ローカル状態での設定は、リモート状態になっても引き継がれます。

#### リモート→ローカル切り替え時

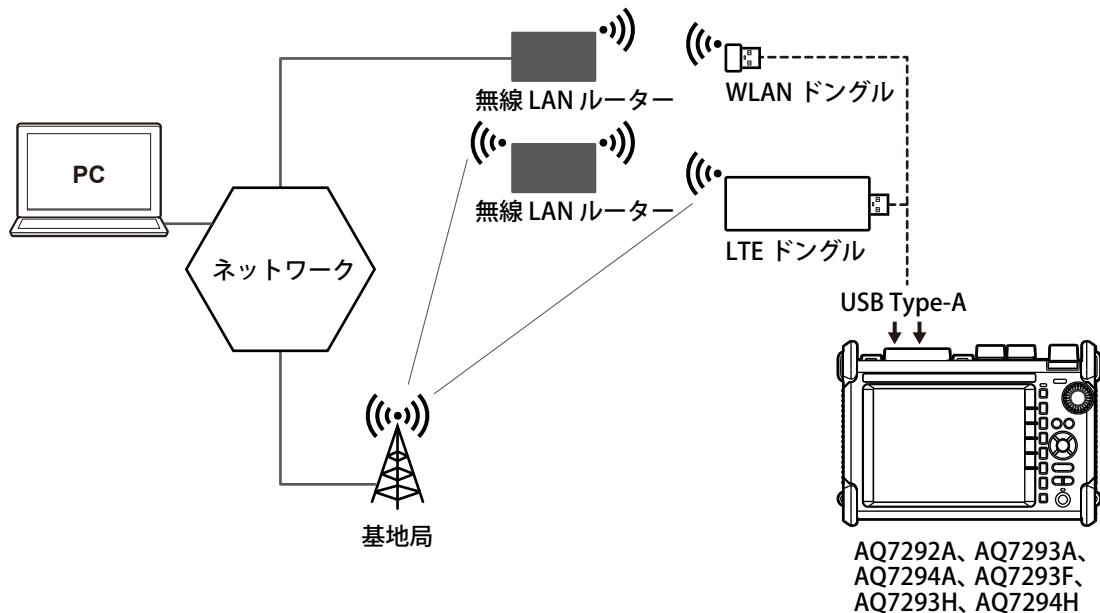
リモート状態のときに、本機器のリモートコントロール解除ボタンをタップすると、ローカル状態になります。

- ・ キー操作が可能になります。
- ・ リモート状態での設定は、ローカル状態になっても引き継がれます。

### 3.3 WLAN ドングル /LTE ドングルの接続

#### 接続方法

1. 本体上面のカバーを開けます。
2. WLAN または LTE 対応の USB ドングルを Type-A のコネクタに接続します。



#### 接続時の注意

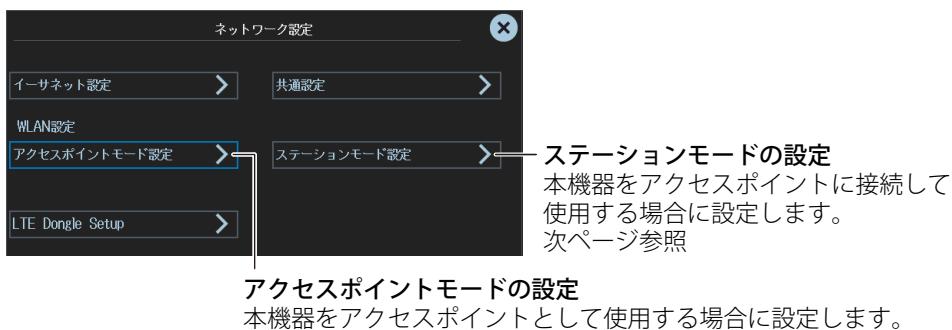
- WLAN ドングル /LTE ドングルは、USB コネクタに奥までしっかりと差し込んで接続してください。
- 本機器の電源を ON にしてから操作が可能になるまでの間（約 20 秒間）は、WLAN ドングル /LTE ドングルを抜き差ししないでください。

## 3.4 本体の設定 (WLAN ドングル/LTE ドングル使用時)

### 操作

#### ネットワークの設定画面 (WLAN ドングル使用時)

1. MENU キーを押します。MENU 画面が表示されます。
2. SETUP キーを押します。システム設定画面が表示されます。
3. ネットワーク設定をタップします。ネットワーク設定画面が表示されます。



#### Note

詳細は、IM AQ7290-01JA ユーザーズマニュアルの 10.7 節の解説をご覧ください。

#### アクセスポイントモードの設定

4. アクセスポイントモード設定をタップします。アクセスポイントモード画面が表示されます。

##### 認証パスワードの設定

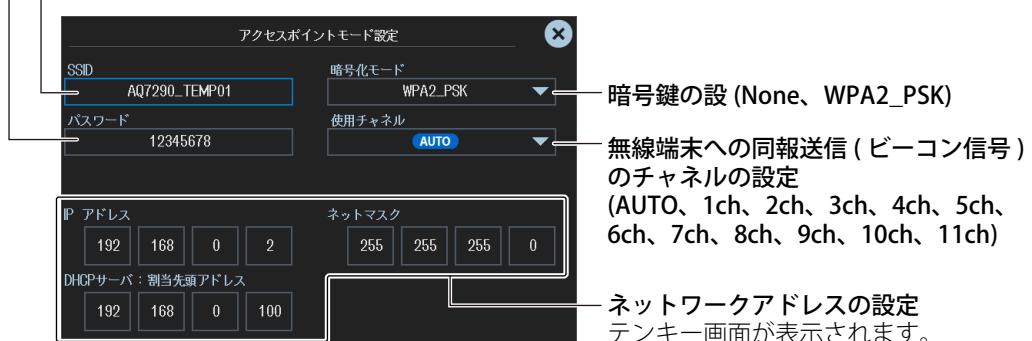
文字入力画面が表示されます。

文字列の入力方法は、ユーザーズマニュアル (IM AQ7290-01JA) をご覧ください。

##### 識別名 (SSID) の設定

文字入力画面が表示されます。

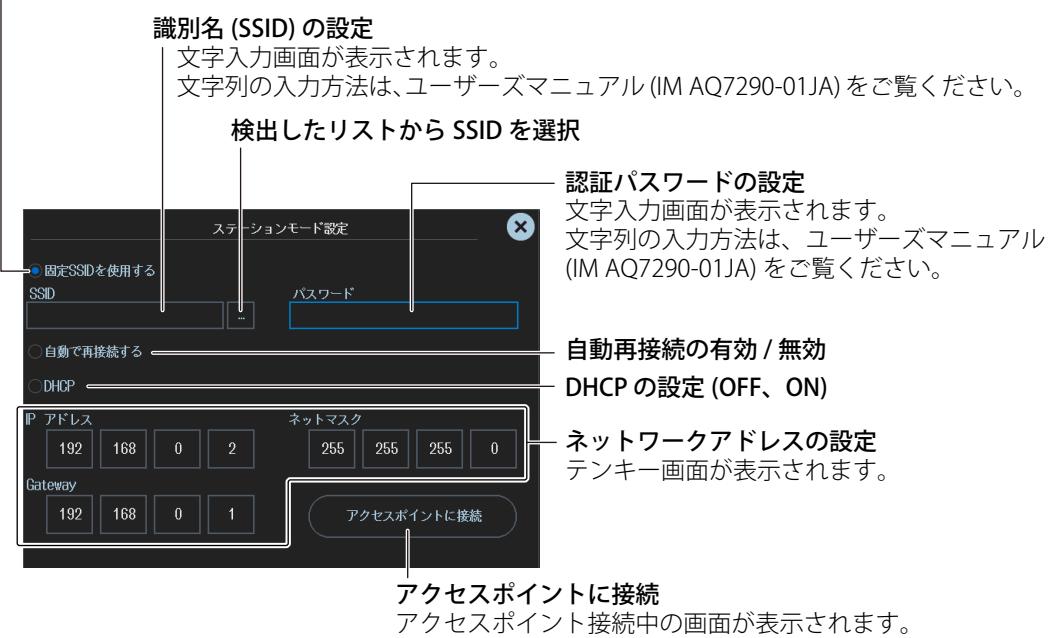
文字列の入力方法は、ユーザーズマニュアル (IM AQ7290-01JA) をご覧ください。



## ステーションモードの設定

4. ステーションモード設定をタップします。ステーションモード画面が表示されます。

### 固定の識別名 (SSID) を使用



### 検出したリストから SSID を選択

5. [...] (検出したリストから SSID を選択) をタップします。SSID を選択する画面が表示されます。



### 3.4 本体の設定 (WLAN ドングル /LTE ドングル使用時)

#### アクセスポイントに接続

6. アクセスポイントに接続をタップします。アクセスポイント接続中の画面が表示されます。

##### (④) 無線 LAN 動作中のアイコン表示

WLAN 機能停止を実行すると、無線 LAN 動作が終了してアイコンが消えます。「OTDR へ戻る」を実行しても無線動作は終了せずに、アイコンは消えません。また、無線端末側からアクセスを終了しても、無線 LAN 動作は終了しないため、そのまま再度無線端末によるアクセスができます。



### ネットワークの設定画面 (LTE ドングル使用時)

1. MENU キーを押します。MENU 画面が表示されます。
2. SETUP キーを押します。システム設定画面が表示されます。
3. ネットワーク設定をタップします。ネットワーク設定画面が表示されます。



**LTE ドングルの設定**  
LTE ドングルを使用する場合に設定します。  
次ページ参照

#### Note

詳細は、IM AQ7290-01JA ユーザーズマニュアルの 10.7 節の解説をご覧ください。

## LTE ドングルの設定

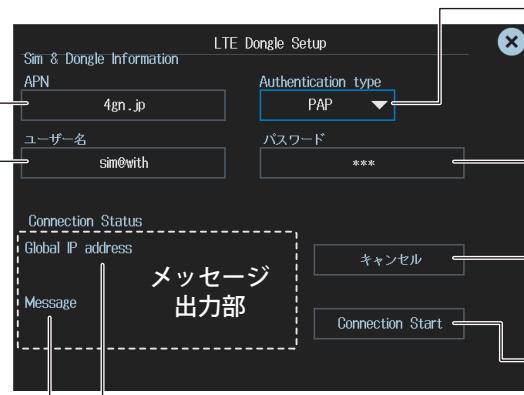
4. LTE Dongle Setup をタップします。LTE Dongle Setup 画面が表示されます。

### ユーザーの設定

SIM カード固有のユーザー名を入力してください。

### APN の設定

SIM カード固有の APN 情報を入力してください。



### Authentication type の設定 (PAP、CHAP、PAP、CHAP)

SIM カード固有の認証タイプを選択してください。

### パスワードの設定

SIM カード固有のパスワードを入力してください。

### キャンセル

LTE ドングルとの通信を切断します。

### Connection Start

LTE ドングルとの通信を開始します

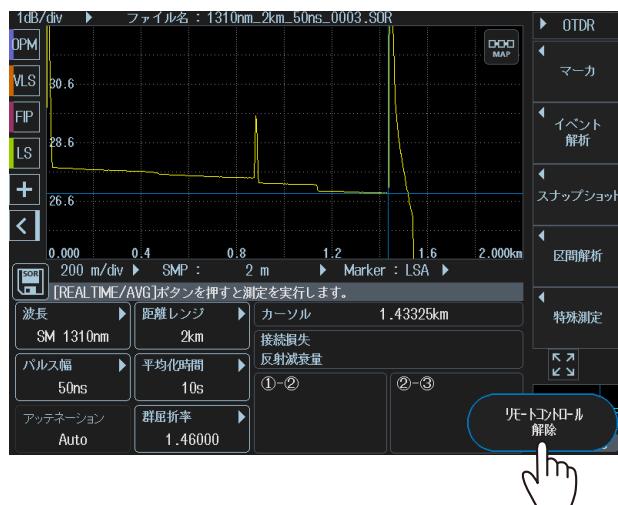
LTE 通信が確立すると、SIM カード固有の Global IP が表示されます。

表示された Global IP に対する接続により、OTDR との通信が始まります。

接続に関するメッセージを表示します。

## リモートコントロールの解除

通信の開始後、画面に表示されるリモートコントロール解除ボタンをタップします。

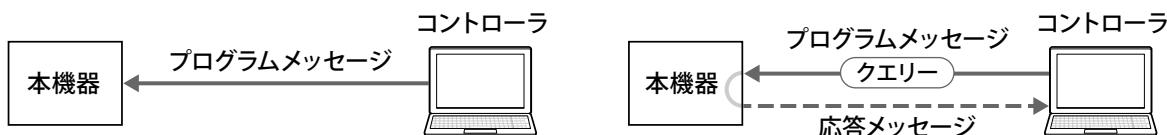


## 4.1 メッセージ

## メッセージ

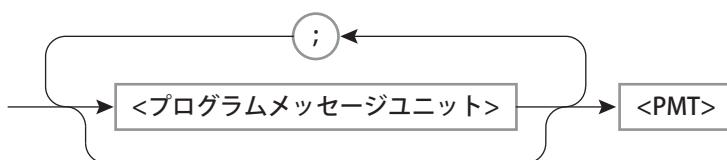
コントローラと本機器の間では、メッセージという単位で情報を送受信します。コントローラから本機器に送信するメッセージを「プログラムメッセージ」といい、コントローラが本機器から受信するメッセージを「応答メッセージ」といいます。

プログラムメッセージの中に応答を要求する命令（「クエリー」といいます）があるときは、本機器はプログラムメッセージを受信したあとに、応答メッセージを送信します。1つのプログラムメッセージに対する応答は、必ず1つの応答メッセージになります。



## プログラムメッセージ

プログラムメッセージの書式は次のとおりです。



## ＜プログラムメッセージユニット＞

プログラムメッセージは、1つ以上のプログラムメッセージユニットをつないだものです。プログラムメッセージユニットが1つの命令に相当します。本機器は受信した順序で命令を実行していきます。

プログラムメッセージユニットは「;」(セミコロン)で区切れます。

プログラムメッセージの書式については、次項を参照してください。

例 :PMEter:MODulation MOD\_CW;UNIT DB<PMT>  
  ↓                          ↓                  ↓                  ↓  
  ユニット                  ユニット          ユニット          ユニット

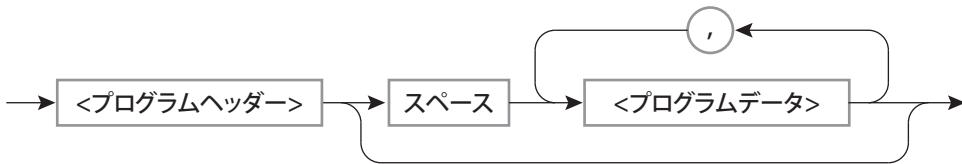
<PMT>

プログラムメッセージのターミネータです。次の3種類があります。

<b>NL ( ニューライン )</b>	LF( ラインフィード )と同じ、ASCII コード「0AH」の一文字
<b>^END</b>	IEEE488.1 で定義されている END メッセージ (EOI 信号) END メッセージと同時に送信されたデータバイトは、プログラムメッセージの最後のデータになります。
<b>NL^END</b>	END メッセージが付加された NL NL はプログラムメッセージには含まれません。

## プログラムメッセージユニットの書式

プログラムメッセージユニットの書式は次のとおりです。



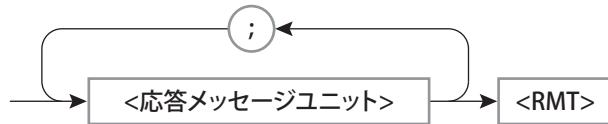
＜プログラムヘッダー＞ プログラムヘッダーは命令の種類を表します。詳しくは、4-4 ページを参照してください。

＜プログラムデータ＞ 命令を実行するときに必要な条件などがあるときは、プログラムデータを付けます。プログラムデータを付けるときは、ヘッダーとデータをスペース(ASCII コード「20H」)で区切ります。複数のデータがあるときは、データとデータの間を「,」(カンマ)で区切ります。  
詳しくは、4-8 ページを参照してください。

例 : PMETER:MODulation MOD\_CW<PMT>  
ヘッダー データ

## 応答メッセージ

応答メッセージの書式は次のとおりです。



## ＜応答メッセージユニット＞

応答メッセージは、1つ以上の応答メッセージユニットをつなぎだものです。応答メッセージユニットが1つの応答に相当します。

応答メッセージユニットは「;」(セミコロン)で区切られます。

応答メッセージの書式については、次ページを参照してください。

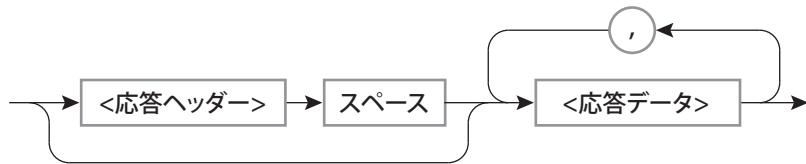
例 : PMETER:MODulation MOD\_CW;UNIT DB<PMT>  
  ↓                                  ↓                          ↓  
  ユニット                          ユニット                  ユニット

<RMT>

応答メッセージのターミネータで、NL^END です。

## 応答メッセージユニットの書式

応答メッセージユニットの書式は次のとおりです。



<応答ヘッダー> 応答データの前に応答ヘッダーが付くことがあります。ヘッダーとデータの間は、1文字のスペースで区切られます。詳しくは、4-7ページを参照してください。

<応答データ> 応答データは、応答の内容を示します。複数のデータがあるときは、データとデータの間は「,」(カンマ)で区切られます。詳しくは、4-7ページを参照してください。

例 850E-9<RMT> :PMETer:MODulation MOD\_CW<PMT>  
 データ ヘッダー データ

プログラムメッセージに複数のクエリーがある場合、応答の順序はクエリーの順序に従います。クエリーの多くは1つの応答メッセージユニットを返しますが、複数のユニットを返すものもあります。1番目のクエリーの応答は1番目のユニットですが、n番目の応答はn番目のユニットとは限りません。確実に応答を取り出したいときは、プログラムメッセージを分けてください。

## メッセージの送受信時の注意

- クエリーを含まないプログラムメッセージを送信したときは、いつでも次のプログラムメッセージを送信できます。
- クエリーを含むプログラムメッセージを送信したときは、次のプログラムメッセージを送信する前に応答メッセージを受信しなければなりません。もし、応答メッセージを受信しないか、途中までしか受信しないで次のプログラムメッセージを送信したときは、エラーになります。受信されなかった応答メッセージは捨てられます。
- コントローラが応答メッセージがないのに受信しようとしたときは、エラーになります。もし、コントローラがプログラムメッセージを送信し終わる前に応答メッセージを受信しようとすると、エラーになります。
- メッセージにユニットが複数あるプログラムメッセージを送信したときに、その中に不完全なプログラムユニットが存在すると、本機器は完全と思われるプログラムメッセージユニットを拾い上げて実行を試みますが、必ずしも成功するとは限りません。また、その中にクエリーが含まれていても、必ずしも応答が返るとは限りません。

## デッドロック状態

本機器は、送受信とも最低1024バイトのメッセージをバッファーに蓄えることができます(バイト数は、動作状態によって増減する場合があります)。このバッファーが送受信と同時にいっぱいになると、本機器は動作不能状態になります。これをデッドロック状態といいます。このときは、応答メッセージを捨てることで動作不能から回復します。

プログラムメッセージが<PMT>も含めて1024バイト以下であれば、デッドロックは発生しません。また、クエリーがないプログラムメッセージでは、デッドロックは発生しません。

## 4.2 命令

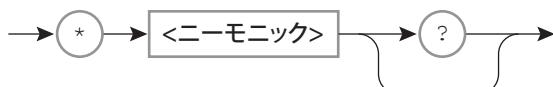
### 命令

コントローラから本機器に送信される命令(プログラムヘッダー)には、以下に示す2種類があります。それぞれプログラムヘッダーの書式が異なります。

#### 共通コマンドヘッダー

IEEE 488.2-1992 で規定されている命令を共通コマンドといいます。

共通コマンドのヘッダーの書式は次のとおりです。先頭に必ず「\*」(アスタリスク)を付けます。

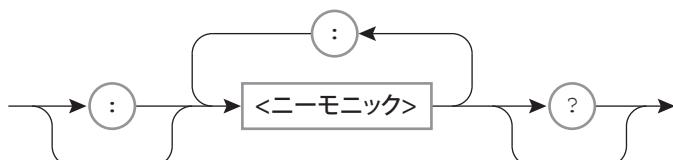


共通コマンドの例 \*CLS

#### 複合ヘッダー

共通コマンド以外の本機器固有の命令は、機能ごとに分類されて、階層化されています。

複合ヘッダーの書式は次のとおりです。下の階層を記述するときは、必ず「:」(コロン)を付けています。



複合ヘッダーの例 :PMETER:LINK:STATE

#### Note

<ニーモニック>とは、アルファベットと数字からなる文字列です。

## 命令を続けて記述する場合

### グループについて

ヘッダーが階層化された共通の複合ヘッダーを持つコマンド群をグループといいます。グループの中にさらに小さいグループが存在することもあります。

例 パワーメーターに関するグループ

- :PMETer:DREF
- :PMETer:LINK:STATE
- :PMETer:MAXMin:STATE
- :PMETer:MODulation
- :PMETer:OFFSet
- :PMETer:REFerence
- :PMETer:WAVelength:DETail

### 同じグループの命令を続けて記述する場合

本機器は、実行している命令がどの階層の命令であるかを記憶し、次に送信した命令も同じ階層に属しているものと仮定して解析しています。したがって、同じグループの命令は、共通のヘッダーの部分を省略できます。

例 :PMETer:MODulation MOD\_CW;UNIT DB<PMT>

### 違うグループの命令を続けて記述する場合

グループが違う命令を後に記述するときは、ヘッダーの先頭に「:」(コロン)を付けます(省略できません)。

例 :PMETer:MODulation MOD\_CW;:MENU:FUNCTION TOP<PMT>

### 共通コマンドを続けて記述する場合

IEEE 488.2-1992 で定義された共通コマンドは、階層には無関係です。「:」(コロン)をつける必要はありません。

例 :PMETer:MODulation MOD\_CW;\*CLS;UNIT DB<PMT>

### コマンド間を <PMT> で区切った場合

ターミネータで区切ると、2つのプログラムメッセージを送信することになります。したがって、同じグループでのコマンドを続ける場合でも、共通のヘッダーを省略できません。

例 :PMETer:MODulation MOD\_CW<PMT>:PMETer:UNIT DB<PMT>

## 上位クエリー

グループの上位のコマンドに「?」を付けたクエリーを上位クエリーといいます。最上位クエリーを実行すると、そのグループで設定できるすべての設定をまとめて受信できます。階層が3階層以上あるグループで、下の階層をすべて出力するものもあります。

例 :NETWork:CONTrol?<PMT>

-> :NETW:CONT:PASS "ABC";TIM 30;USER "anonymous"<RMT>

上位クエリーの応答は、そのまま本機器にプログラムメッセージとして送信できます。送信すると、上位クエリーを行ったときの設定を再現できます。

必ずしもそのグループのすべての情報が応答として出力されるわけではないので、注意してください。上位クエリーでは現在使われていない設定情報を返さないものもあります。

## ヘッダーの解釈の規則

本機器は、受信したヘッダーを次の規則に従って解釈します。

- 二モニックのアルファベットの大文字 / 小文字は区別しません。

例 「MINute」->「minute」「Minute」でも可

- 小文字の部分は省略できます。

例 「MINute」->「MINU」「MIN」でも可

- ヘッダーの最後の「?」(クエスチョンマーク)は、クエリーであることを示します。「?」は省略できません。

例 「MINute?」->最小の省略形は「MIN?」

- 二モニックの最後に付いている<x>(数値)を省略すると、x = 1と解釈します。

例 「M<x>」->「M」とすると「M1」の意味

## 4.3 応答

### 応答

コントローラが「?」の付いた命令であるクエリーを送信すると、本機器はそのクエリーに対する応答メッセージを返します。

### 形式

#### ヘッダー付きデータの応答

応答をそのままプログラムメッセージとして利用できるものは、命令のヘッダーを付けて返されます。

例 :PMETer:MODulation?<PMT>->:PMETer:MODulation MOD\_270HZ<RMT>

#### ヘッダーを付けない応答を返したい場合

「ヘッダー付きデータ」で返されるものでも、ヘッダーを強制的に付けないようにできます。これには、「:COMMUnicate:HEADer」命令を使用します。

### 省略形について

通常、応答のヘッダーは、小文字の部分を省略して返されます。これを省略しないフルスペルにすることもできます。フルスペルにするには、「:COMMUnicate:VERBose」命令を使用します。

## 4.4 データ

データとは、ヘッダーの後ろにスペースを空けて記述する条件や数値です。データは次のように分類されます。

分類	意味	参照ページ
<10進数>	10進数で表された数値 例：西暦年 -> :MISC:DATE:YEAR 2025	4-8
<距離>、<時間>、<波長>、<損失>	物理的な次元を持った数値 例：タイムアウト時間 -> :NETWork:CONTrol:TIMEout 30	4-9
<文字データ>	規定された文字列(二モニック)。{}内から選択 例：ファンクションモードの選択 -> :MENU:FUNCTION {TOP OTDR LIGHT OPC PMETER VLS FIP}	4-9
<Boolean>	ON/OFFを表す。「ON」「OFF」または数値で設定 例：DHCPをON -> :NETWork:DHCP ON	4-10
<文字列データ>	任意の文字列 例：ネットワークのパスワード設定 -> :NETWork:CONTrol:PASSWORD "ABC"	4-10
<ブロックデータ>	任意の8ビットの値を持つデータ 例：ファイルをOTDRから取得 :FSYStem:FILE:GET? -> #220ABCDEFHIJ1234567890	4-10

### <10進数>

<10進数>は下表のように10進数で表現された数値です。なお、これはANSI X3.42-1975で規定されているNR形式で記述します。

記号	意味	例		
<NR1>	整数	125	-1	+1000
<NR2>	固定小数点数	125.0	-.90	+001.
<NR3>	浮動小数点数	125.0E+0	-9E-1	+.1E4
<NRf>	<NR1>～<NR3>のどれでも可能			

- 本機器がコントローラから送られた10進数を受け取るときは、<NR1>～<NR3>のどの形式でも受け付けます。これを<NRf>で表します。
- 本機器からコントローラに返される応答メッセージは、<NR1>～<NR3>のどれを使用するかはクエリーごとに決められています。値の大きさによって使用する形式が変わることはありません。
- <NR3>形式の場合、「E」のあとに「+」は省略できます。「-」は省略できません。
- 設定範囲外の値を記述したときは、設定できる値でいちばん近い値になります。
- 精度以上の値を記述したときは、四捨五入します。

## ＜距離＞、＜時間＞、＜波長＞、＜損失＞

＜距離＞、＜時間＞、＜波長＞、＜損失＞は、＜10進数＞のうち物理的な次元を持ったデータです。

前述の＜NRf＞形式に＜乗数＞および＜単位＞を付けることができます。

次の書式のどれかで記述します。

書式	例
＜NRf＞<乗数><単位>	0.58UM
＜NRf＞<単位>	500m
＜NRf＞<乗数>	5M
＜NRf>	5E-3

使用できる＜乗数＞、＜単位＞は下表のとおりです。

### ＜乗数＞

記号	読み	乗数
EX	エクサ	$10^{18}$
PE	ペタ	$10^{15}$
T	テラ	$10^{12}$
G	ギガ	$10^9$
MA	メガ	$10^6$
K	キロ	$10^3$
M	ミリ	$10^{-3}$
U	マイクロ	$10^{-6}$
N	ナノ	$10^{-9}$
P	ピコ	$10^{-12}$
F	フェムト	$10^{-15}$
A	アト	$10^{-18}$

### ＜単位＞

記号	読み	意味
M	メートル	距離
S	セカンド	時間
dB	デシベル	レベル
UM	マイクロメートル	波長

- ・＜乗数＞と＜単位＞は、大文字 / 小文字の区別がありません。
- ・マイクロの「μ」は「U」で表します。
- ・メガの「M」はミリと区別するため、「MA」で表します。
- ・＜乗数＞も＜単位＞も省略したときは、デフォルトの単位になります。

## ＜文字データ＞

＜文字データ＞は、規定された文字(二モニック)のデータです。主に選択肢を表現するときに使用され、{}内の文字列からどれか1つを選んで記述します。データの解釈のしかたは、4-6ページの「ヘッダーの解釈の規則」と同様です。

書式	例
{AUTO   NORMa1}	AUTO

- ・応答メッセージでは、ヘッダーと同様に「:COMMUnicatE:VERBoSE」を使って、フルスペルで返すか、省略形で返すかを選択できます。
- ・「:COMMUnicatE:HEADer」の設定は＜文字データ＞には影響しません。

## <Boolean>

<Boolean> は、ON または OFF を示すデータです。次の書式のどれかで記述します。

書式	例
{ON OFF <NRf>}	ON OFF 1 0

- ・ <NRf> で表す場合は、整数に四捨五入した値が「0」のときが OFF、「0 以外」のときが ON になります。
- ・ 応答メッセージは必ず、ON のときは「1」、OFF のときは「0」で返されます。

## <文字列データ>

<文字列データ> は、<文字データ> のように規定された文字列ではなく、任意の綴りの文字列です。次のように、「'」(シングルクオーテーション) または「"」(ダブルクオーテーション) で囲った書式で記述します。

書式	例
<文字列データ>	'ABC' "IEEE488.2-1992"

- ・ 「""」内に文字列として「」があるときは、「""」で表します。「'」のときも同様です。
- ・ 応答メッセージは、必ず「」(ダブルクオーテーション) で囲って返されます。
- ・ <文字列データ> は任意の綴りなので、最後の「'」(シングルクオーテーション) または「」(ダブルクオーテーション) がないと、本機器は残りのプログラムメッセージユニットを <文字列データ> の一部と解釈してしまい、エラーが正しく検出できない場合があります。

## <ブロックデータ>

<ブロックデータ> は、任意の 8 ビットの値を持つデータです。書式は次のとおりです。

書式	例
#N<N 行の 10 進数 ><データバイトの並び>	#800000010ABCDEFGHIJ

- ・ #N
  - <ブロックデータ> であることを表します。「N」は次に続くデータバイト数を表す ASCII コードの文字数(桁)を示します。
- ・ <N 行の 10 進数>
  - データのバイト数を表します(例: 00000010 = 10 バイト)。
- ・ <データバイトの並び>
  - 実際のデータを表します(例: ABCDEFGHIJ)。
- ・ データは 8 ビットでとり得る値(0 ~ 255) です。したがって、「NL」を示す ASCII コード「0AH」もデータになることがありますので、コントローラ側では注意が必要です。

## 5.1 コマンド一覧表

コマンド	機能	ページ
<b>ACQuire グループ</b>		
:ACQuire:ADSave	平均化測定実行後、ファイルへのデータ自動保存を設定 / 問い合わせします。	5-13
:ACQuire:AESearch	平均化測定実行後の自動イベント検出を設定 / 問い合わせします。	5-13
:ACQuire:ATTenuation	アッテネーションを設定 / 問い合わせします。	5-13
:ACQuire:AUTO:ATTenuation?	アッテネーションを自動に設定したときのアッテネーションの値を問い合わせます。	5-13
:ACQuire:AUTO:DRAnge?	距離レンジを自動に設定したときの距離レンジの値を問い合わせます。	5-13
:ACQuire:AUTO:PWIDth?	パルス幅を自動に設定したときのパルス幅を問い合わせます。	5-13
:ACQuire:AVERage:COUNT?	現在の平均化実処理回数を問い合わせます。	5-13
:ACQuire:AVERage:INDEX	平均化回数を設定 / 問い合わせします。	5-13
:ACQuire:AVERage:MODE	平均化方法を設定 / 問い合わせします。	5-14
:ACQuire:AVERage:START	平均化測定を実行します。	5-14
:ACQuire:AVERage:STOP	平均化測定を停止します。	5-14
:ACQuire:AVERage:TIME	平均化時間を設定 / 問い合わせします。	5-14
:ACQuire:AVERage:TYPE	平均化単位を設定 / 問い合わせします。	5-14
:ACQuire:DRAnge	距離レンジを設定 / 問い合わせします。	5-14
:ACQuire:OFFSet	横軸の測定開始位置を設定 / 問い合わせします。	5-14
:ACQuire:PLUGcheck	光プラグの接続チェックを設定 / 問い合わせします。	5-14
:ACQuire:PWIDth	パルス幅を設定 / 問い合わせします。	5-15
:ACQuire:REALtime:START	リアルタイム測定を実行します。	5-15
:ACQuire:REALtime:STOP	リアルタイム測定を停止します。	5-15
:ACQuire:REALtime:MODE	リアルタイム測定中の平均化方法を設定 / 問い合わせします。	5-15
:ACQuire:RESUlt:INDEX?	測定後の実平均化回数を問い合わせます。	5-15
:ACQuire:RESUlt:TIME?	測定後の実平均化時間を問い合わせます。	5-15
:ACQuire:SELECTION:ATTenuation?	選択できるアッテネーション値を問い合わせます。	5-15
:ACQuire:SELECTION:DRAnge?	選択できる距離レンジ値一覧を問い合わせます。	5-15
:ACQuire:SELECTION:PWIDth?	選択できるパルス幅一覧を問い合わせます。	5-15
:ACQuire:SELECTION:SMPinterval?	選択できるサンプリング間隔を問い合わせます。	5-16
:ACQuire:SELECTION:WAVelength?	選択できる測定波長を問い合わせます。	5-16
:ACQuire:SMPinterval:DATA	サンプリング間隔を設定 / 問い合わせします。	5-16
:ACQuire:SMPinterval:VALue?	サンプリング間隔を問い合わせします。	5-16
:ACQuire:WAVelength	測定波長を設定 / 問い合わせします。	5-16
<b>ANALysis グループ</b>		
:ANALysis:ASEarch:EXECute	自動検出を実行します。	5-17
:ANALysis:ASEarch:NUMBER?	自動検出イベントの数を問い合わせます。	5-17
:ANALysis:BCoefficient	カレント波長の後方散乱光レベルを設定 / 問い合わせします。	5-17

## 5.1 コマンド一覧表

コマンド	機能	ページ
:ANALysis:CUMLoss	累積損失タイプを設定 / 問い合わせします。	5-17
:ANALysis:CURSor:DECibel?	カーソル dB( デシベル ) 値を問い合わせます。	5-17
:ANALysis:CURSor:DELETE	カーソルの消去を実行します。	5-17
:ANALysis:CURSor:DISTance	カーソル位置を設定 / 問い合わせします。	5-17
:ANALysis:CURSor:INDex	カーソル位置をデータ番号で設定 / 問い合わせします。	5-17
:ANALysis:CURSor:LINK	カーソルリンクを設定 / 問い合わせします。	5-17
:ANALysis:DUMMy:DISTance:START	ダミーファイバーの開始位置を設定 / 問い合わせします。	5-17
:ANALysis:DUMMy:DISTance:END	ダミーファイバーの終了位置を設定 / 問い合わせします。	5-17
:ANALysis:DUMMy:END	ダミーファイバーイベント番号の終了イベントを設定します。	5-18
:ANALysis:DUMMy:MODE	ダミーファイバーの設定方法を設定 / 問い合わせします。	5-18
:ANALysis:DUMMy:START	ダミーファイバーイベント番号の開始イベントを設定します。	5-18
:ANALysis:DUNit	距離単位を設定 / 問い合わせします。	5-18
:ANALysis:EMARker:LMTechnique	近似法 ( イベント ) を設定 / 問い合わせします。	5-18
:ANALysis:EMARker:SET:M1	カレントイベントのマーカー M1 を設定 / 問い合わせします。	5-18
:ANALysis:EMARker:SET:M2	カレントイベントのマーカー M2 を設定 / 問い合わせします。	5-18
:ANALysis:EMARker:SET:M3	カレントイベントのマーカー M3 を設定 / 問い合わせします。	5-18
:ANALysis:EMARker:SET:Y2	カレントイベントのマーカー Y2 を設定 / 問い合わせします。	5-18
:ANALysis:ENABLE:FEB2sploss	2 分岐スプリッタ損失しきい値の Pass/Fail 判定 ON/OFF を設定 / 問い合わせします。	5-18
:ANALysis:ENABLE:FEB4sploss	4 分岐スプリッタ損失しきい値の Pass/Fail 判定 ON/OFF を設定 / 問い合わせします。	5-19
:ANALysis:ENABLE:FEB8sploss	8 分岐スプリッタ損失しきい値の Pass/Fail 判定 ON/OFF を設定 / 問い合わせします。	5-19
:ANALysis:ENABLE:FEB16sploss	16 分岐スプリッタ損失しきい値の Pass/Fail 判定 ON/OFF を設定 / 問い合わせします。	5-19
:ANALysis:ENABLE:FEB32sploss	32 分岐スプリッタ損失しきい値の Pass/Fail 判定 ON/OFF を設定 / 問い合わせします。	5-19
:ANALysis:ENABLE:FEB64sploss	64 分岐スプリッタ損失しきい値の Pass/Fail 判定 ON/OFF を設定 / 問い合わせします。	5-19
:ANALysis:ENABLE:FECLoss	コネクタ損失しきい値の Pass/Fail 判定 ON/OFF を設定 / 問い合わせします。	5-19
:ANALysis:ENABLE:FERLoss	反射減衰量しきい値の Pass/Fail 判定 ON/OFF を設定 / 問い合わせします。	5-19
:ANALysis:ENABLE:FESLoss	接続損失しきい値の Pass/Fail 判定 ON/OFF を設定 / 問い合わせします。	5-19
:ANALysis:ENABLE:FETLoss	総損失しきい値の Pass/Fail 判定 ON/OFF を設定 / 問い合わせします。	5-20
:ANALysis:ENABLE:FEULoss	dB/km しきい値の Pass/Fail 判定 ON/OFF を設定 / 問い合わせします。	5-20
:ANALysis:ENDLoss	END 点のロス表示を設定 / 問い合わせします。	5-20
:ANALysis:EVENT:CURRent:BRANch?	カレントイベントのスプリッタ分岐数を取得します。	5-20
:ANALysis:EVENT:CURRent:CUMLoss?	カレントイベントの累積損失を問い合わせます。	5-20
:ANALysis:EVENT:CURRent:DISTance?	カレントイベントの距離を問い合わせます。	5-20
:ANALysis:EVENT:CURRent:INDex	カレントイベントを移動します。	5-20
:ANALysis:EVENT:CURRent:IOR?	カレントイベントの区間屈折率を問い合わせます。	5-20
:ANALysis:EVENT:CURRent:LOSS?	カレントイベントの接続損失を問い合わせます。	5-20

コマンド	機能	ページ
:ANALysis:EVENT:CURRent:RETurnloss?	カレントイベントの反射減衰量を問い合わせます。	5-20
:ANALysis:EVENT:CURRent:TYPE?	カレントイベントのイベントタイプを問い合わせます。	5-21
:ANALysis:EVENT:CURRent:UNITloss?	カレントイベントの dB/km を問い合わせます。	5-21
:ANALysis:EVENT:DElete	カレントイベントの削除を実行します。	5-21
:ANALysis:EVENT:FIX:MODE	イベント固定モードを設定 / 問い合わせします。	5-21
:ANALysis:EVENT:FIX:STATE	イベント固定の設定 / 問い合わせします。	5-21
:ANALysis:EVENT:INSert	カーソル位置にイベント挿入を実行します。	5-21
:ANALysis:EVENT:IOR	カレントイベントの区間屈折率を設定 / 問い合わせします。	5-21
:ANALysis:FEDetection	フォルトイベントの表示を設定 / 問い合わせします。	5-21
:ANALysis:FESplitter:BRANCH<x>	フォルトイベントのスプリッタ分岐数を設定 / 問い合わせします。	5-21
:ANALysis:FESplitter:DEtection	フォルトイベントのネットワーク構成 ON/OFF を設定 / 問い合わせします。	5-21
:ANALysis:FESplitter:STAGE	フォルトイベントのスプリッタ段数を設定 / 問い合わせします。	5-21
:ANALysis:FMARker:DElete	マーカーの消去を実行します。	5-22
:ANALysis:FMARker:LEFT:DISTance?	マーカー 1-2 間の距離を問い合わせます。	5-22
:ANALysis:FMARker:LEFT:LOSS?	マーカー 1-2 間の損失を問い合わせます。	5-22
:ANALysis:FMARker:LEFT:UNITloss?	マーカー 1-2 間の傾きを問い合わせます。	5-22
:ANALysis:FMARker:LMTechnique	近似法 (マーカー) を設定 / 問い合わせします。	5-22
:ANALysis:FMARker:LOSS?	接続損失を問い合わせます。	5-22
:ANALysis:FMARker:REFlection:SATurated?	反射量の飽和を問い合わせます。	5-22
:ANALysis:FMARker:REFlection:VALue?	反射量を問い合わせます。	5-22
:ANALysis:FMARker:RETurnloss:SATurated?	反射減衰量の飽和を問い合わせます。	5-22
:ANALysis:FMARker:RETurnloss:VALue?	反射減衰量を問い合わせます。	5-22
:ANALysis:FMARker:RIGHT:DISTance?	マーカー 2-3 間の距離を問い合わせます。	5-22
:ANALysis:FMARker:RIGHT:LOSS?	マーカー 2-3 間の損失を問い合わせます。	5-22
:ANALysis:FMARker:RIGHT:UNITloss?	マーカー 2-3 間の傾きを問い合わせます。	5-22
:ANALysis:FMARker:SET:M<x>	マーカーを設定 / 問い合わせします。	5-23
:ANALysis:FMARker:SET:Y<x>	補助マーカーを設定 / 問い合わせします。	5-23
:ANALysis:IOR	カレント波長の群屈折率を設定 / 問い合わせします。	5-23
:ANALysis:MACRobending:DISPLAY	マクロベンディング表示の ON/OFF を設定 / 問い合わせします。	5-23
:ANALysis:MACRobending:THRehold	マクロベンディングのしきい値の設定 / 問い合わせします。	5-23
:ANALysis:REFerence:DElete	距離原点の消去を実行します。	5-23
:ANALysis:REFerence:DISTance	距離原点の設定を実行 / 位置を問い合わせします。	5-23
:ANALysis:SECTION:BASelevel?	区間データの基準点の dB 値を問い合わせます。	5-23
:ANALysis:SECTION:DElete	区間解析データのクリアを実行します。	5-23
:ANALysis:SECTION:DISTance?	区間データの距離を問い合わせます。	5-23
:ANALysis:SECTION:END	区間データの終了位置を設定 / 問い合わせします。	5-23
:ANALysis:SECTION:LMTechnique	区間解析の近似法を設定 / 問い合わせします。	5-23
:ANALysis:SECTION:LOSS?	区間データの損失を問い合わせます。	5-24

## 5.1 コマンド一覧表

コマンド	機能	ページ
:ANALysis:SECTion:REFerence	区間データの基準点を設定します。	5-24
:ANALysis:SECTion:RETurnloss:SATurated?	区間データの反射減衰量の飽和を問い合わせます。	5-24
:ANALysis:SECTion:RETurnloss:VALue?	区間データの反射減衰量を問い合わせます。	5-24
:ANALysis:SECTion:STARt	区間データの開始位置を設定 / 問い合わせします。	5-24
:ANALysis:SNAPshot:FIX	スナップショットを設定 / 問い合わせします。	5-24
:ANALysis:THRehold:B2SPloss	2分岐スプリッタ損失のしきい値を設定 / 問い合わせします。	5-24
:ANALysis:THRehold:B4SPloss	4分岐スプリッタ損失のしきい値を設定 / 問い合わせします。	5-24
:ANALysis:THRehold:B8SPloss	8分岐スプリッタ損失のしきい値を設定 / 問い合わせします。	5-24
:ANALysis:THRehold:B16Sploss	16分岐スプリッタ損失のしきい値を設定 / 問い合わせします。	5-24
:ANALysis:THRehold:B32Sploss	32分岐スプリッタ損失のしきい値を設定 / 問い合わせします。	5-25
:ANALysis:THRehold:B64Sploss	64分岐スプリッタ損失のしきい値を設定 / 問い合わせします。	5-25
:ANALysis:THRehold:EOFiber	ファイバー終端のしきい値を設定 / 問い合わせします。	5-25
:ANALysis:THRehold:FEB2sploss	フォルトイベントの2分岐スプリッタ損失しきい値を設定 / 問い合わせします。	5-25
:ANALysis:THRehold:FEB4sploss	フォルトイベントの4分岐スプリッタ損失しきい値を設定 / 問い合わせします。	5-25
:ANALysis:THRehold:FEB8sploss	フォルトイベントの8分岐スプリッタ損失しきい値を設定 / 問い合わせします。	5-25
:ANALysis:THRehold:FEB16sploss	フォルトイベントの16分岐スプリッタ損失しきい値を設定 / 問い合わせします。	5-25
:ANALysis:THRehold:FEB32sploss	フォルトイベントの32分岐スプリッタ損失しきい値を設定 / 問い合わせします。	5-25
:ANALysis:THRehold:FEB64sploss	フォルトイベントの64分岐スプリッタ損失しきい値を設定 / 問い合わせします。	5-26
:ANALysis:THRehold:FECLoss	フォルトイベントのコネクタ損失しきい値を設定 / 問い合わせします。	5-26
:ANALysis:THRehold:FERLoss	フォルトイベントの反射減衰量しきい値を設定 / 問い合わせします。	5-26
:ANALysis:THRehold:FESLoss	フォルトイベントの接続損失しきい値を設定 / 問い合わせします。	5-26
:ANALysis:THRehold:FESPloss	フォルトイベントのスプリッタ損失しきい値を設定 / 問い合わせします。	5-26
:ANALysis:THRehold:FETLoss	フォルトイベントの総損失しきい値を設定 / 問い合わせします。	5-26
:ANALysis:THRehold:FEULoss	フォルトイベントのdB/km しきい値を設定 / 問い合わせします。	5-26
:ANALysis:THRehold:RLOSS	反射減衰量のしきい値を設定 / 問い合わせします。	5-26
:ANALysis:THRehold:SLOSS	接続損失のしきい値を設定 / 問い合わせします。	5-27
:ANALysis:THRehold:SPLOSS	スプリッタ損失のしきい値を設定 / 問い合わせします。	5-27
:ANALysis:TOTal:DISTance?	測定結果の総距離を問い合わせします。	5-27
:ANALysis:TOTal:LOSS?	測定結果の総損失を問い合わせします。	5-27
:ANALysis:TOTal:RETurnloss?	測定結果の総反射減衰量を問い合わせします。	5-27
:ANALysis:TOTal:UNITloss?	測定結果の総距離に対するdB/km を問い合わせします。	5-27
:ANALysis:TOTLoss	総損失モードを設定 / 問い合わせします。	5-27
:ANALysis:TOTRloss	総反射減衰量モードを設定 / 問い合わせします。	5-27

コマンド	機能	ページ
<b>COMMUnicatE グループ</b>		
:COMMUnicatE?	通信に関するすべての設定値を問い合わせます。	5-28
:COMMUnicatE:HEADer	クエリーに対する応答を、ヘッダーを付けて返送するか (例 ACQuire:DRAnge 5000)、付けないで返送するか (例 5000) を設定 / 問い合わせします。	5-28
:COMMUnicatE:VERBose	クエリーに対する応答を、フルスペルで返送するか (例 ACQuire:DRAnge 5000)、省略形で返送するか (例 ACQ:DRAN 5000) を設定 / 問い合わせします。	5-28
<b>DISPlay グループ</b>		
:DISPlay:ALINe	近似直線の表示を設定 / 問い合わせします。	5-29
:DISPlay:COLor	画面色を設定 / 問い合わせします。	5-29
:DISPlay:CURSor:DBValue	カーソル dB 値を設定 / 問い合わせします。	5-29
:DISPlay:CURSor:SECond	2 次カーソル表示を設定 / 問い合わせします。	5-29
:DISPlay:CURSor:TYPE	カーソルの表示形式を設定 / 問い合わせします。	5-29
:DISPlay:DECibel:UPPer	表示開始レベルを設定 / 問い合わせします。	5-29
:DISPlay:DIGit:DECibel	dB 表示桁を設定 / 問い合わせします。	5-29
:DISPlay:DIGit:DISTance	距離表示桁を設定 / 問い合わせします。	5-29
:DISPlay:DISTance:LEFT	表示開始距離を設定 / 問い合わせします。	5-29
:DISPlay:DIVide:DECibel	縦軸の拡大率を設定 / 問い合わせします。	5-30
:DISPlay:DIVide:DISTance	横軸の拡大率を設定 / 問い合わせします。	5-30
:DISPlay:INITialize:SCALe	表示スケールの初期化を実行します。	5-30
:DISPlay:MARKer:INformation	マーカー情報の表示を設定 / 問い合わせします。	5-30
<b>FIPRobe グループ</b>		
:FIPRobe:PASSfail:CLADDing:DEF1:EN ABle	ファイバー検査プローブの Cladding 部における 2 μm 以下の 汚れを判定する / 判定しないを、設定 / 問い合わせします。	5-31
:FIPRobe:PASSfail:CLADDing:DEF1:TH Reshold	ファイバー検査プローブの Cladding 部における 2 μm 以下の 汚れを判定する際のしきい値を設定 / 問い合わせします。	5-31
:FIPRobe:PASSfail:CLADDing:DEF2:EN ABle	ファイバー検査プローブの Cladding 部における 2 μm ~ 5 μm の汚れを判定する / 判定しないを、設定 / 問い合わせ します。	5-31
:FIPRobe:PASSfail:CLADDing:DEF2:TH Reshold	ファイバー検査プローブの Cladding 部における 2 μm ~ 5 μm の汚れを判定する際のしきい値を設定 / 問い合わせし ます。	5-31
:FIPRobe:PASSfail:CLADDing:DEF3:EN ABle	ファイバー検査プローブの Cladding 部における 5 μm より大 きい汚れを判定する / 判定しないを、設定 / 問い合わせしま す。	5-31
:FIPRobe:PASSfail:CLADDing:DEF3:TH Reshold	ファイバー検査プローブの Cladding 部における 5 μm より大 きい汚れを判定する際のしきい値を設定 / 問い合わせします。	5-31
:FIPRobe:PASSfail:CLADDing:SCR1:EN ABle	ファイバー検査プローブの Cladding 部における 3 μm 以下の 傷を判定する / 判定しないを、設定 / 問い合わせします。	5-32
:FIPRobe:PASSfail:CLADDing:SCR1:TH Reshold	ファイバー検査プローブの Cladding 部における 3 μm 以下の 傷を判定する際のしきい値を設定 / 問い合わせします。	5-32
:FIPRobe:PASSfail:CLADDing:SCR2:EN ABle	ファイバー検査プローブの Cladding 部における 3 μm より大 きい傷を判定する / 判定しないを、設定 / 問い合わせします。	5-32

## 5.1 コマンド一覧表

コマンド	機能	ページ
:FIPRobe:PASSfail:CLADding:SCR2:THReshold	ファイバー検査プローブの Cladding 部における 3 μm より大きい傷を判定する際のしきい値を設定 / 問い合わせします。	5-32
:FIPRobe:PASSfail:CONTACT:DEF:ENABLE	ファイバー検査プローブの Contact 部における 10 μm より大きい汚れを判定する / 判定しないを、設定 / 問い合わせします。	5-32
:FIPRobe:PASSfail:CONTACT:DEF:THRESHOLD	ファイバー検査プローブの Contact 部における 10 μm より大きい汚れを判定する際のしきい値を設定 / 問い合わせします。	5-32
:FIPRobe:PASSfail:CONTACT:SCR:ENABLE	ファイバー検査プローブの Contact 部における傷を判定する / 判定しないを、設定 / 問い合わせします。	5-33
:FIPRobe:PASSfail:CONTACT:SCR:THRESHOLD	ファイバー検査プローブの Contact 部における傷を判定する際のしきい値を設定 / 問い合わせします。	5-33
:FIPRobe:PASSfail:CORE:DEF1:ENABLE	ファイバー検査プローブの Core 部における 3 μm 以下の汚れを判定する / 判定しないを、設定 / 問い合わせします。	5-33
:FIPRobe:PASSfail:CORE:DEF1:THRESHOLD	ファイバー検査プローブの Core 部における 3 μm 以下の汚れを判定する際のしきい値を設定 / 問い合わせします。	5-33
:FIPRobe:PASSfail:CORE:DEF2:ENABLE	ファイバー検査プローブの Core 部における 3 μm より大きい汚れを判定する / 判定しないを、設定 / 問い合わせします。	5-33
:FIPRobe:PASSfail:CORE:DEF2:THRESHOLD	ファイバー検査プローブの Core 部における 3 μm より大きい汚れを判定する際のしきい値を設定 / 問い合わせします。	5-33
:FIPRobe:PASSfail:CORE:DEFAny:ENABLE	ファイバー検査プローブの Core 部における汚れを判定する / 判定しないを、設定 / 問い合わせします。	5-33
:FIPRobe:PASSfail:CORE:DEFAny:THRESHOLD	ファイバー検査プローブの Core 部における汚れを判定する際のしきい値を設定 / 問い合わせします。	5-33
:FIPRobe:PASSfail:CORE:SCR1:ENABLE	ファイバー検査プローブの Core 部における 3 μm 以下の傷を判定する / 判定しないを、設定 / 問い合わせします。	5-34
:FIPRobe:PASSfail:CORE:SCR1:THRESHOLD	ファイバー検査プローブの Core 部における 3 μm 以下の傷を判定する際のしきい値を設定 / 問い合わせします。	5-34
:FIPRobe:PASSfail:CORE:SCR2:ENABLE	ファイバー検査プローブの Core 部における 3 μm より大きい傷を判定する / 判定しないを、設定 / 問い合わせします。	5-34
:FIPRobe:PASSfail:CORE:SCR2:THRESHOLD	ファイバー検査プローブの Core 部における 3 μm より大きい傷を判定する際のしきい値を設定 / 問い合わせします。	5-34
:FIPRobe:PASSfail:CORE:SCRAny:ENABLE	ファイバー検査プローブの Core 部における傷を判定する / 判定しないを、設定 / 問い合わせします。	5-34
:FIPRobe:PASSfail:CORE:SCRAny:THRESHOLD	ファイバー検査プローブの Core 部における傷を判定する際のしきい値を設定 / 問い合わせします。	5-34
:FIPRobe:PASSfail:EXECUTE	ファイバー検査プローブの合否判定を実行します。	5-34
:FIPRobe:PASSfail:FIBERTYPE	ファイバー検査プローブの光ファイバーケーブルの種類を設定 / 問い合わせします。	5-34
:FIPRobe:PASSfail:STANDARD	ファイバー検査プローブの合否判定に使用する規格を設定 / 問い合わせします。	5-35
:FIPRobe:STATE	ファイバー検査プローブの画像状態を設定 / 問い合わせします。	5-35

## FSYstem グループ

:FSYstem:DATE?	ファイルの日付を取得します。	5-36
:FSYstem:EXIST?	指定されたフォルダー / ファイルが存在するかどうかを問い合わせます。	5-36
:FSYstem:FILE:COPY	ファイルをコピーします。	5-36
:FSYstem:FILE:DELETE	ファイルを削除します。	5-36

コマンド	機能	ページ
:FSYStem:FILE:GET?	ファイルを OTDR から取得します。(ファイル受信)	5-37
:FSYStem:FILE:MOVE	ファイルを移動します。	5-37
:FSYStem:FILE:RENAme	ファイル名を変更します。	5-37
:FSYStem:FILE:SEND	ファイルを OTDR に送信します。	5-37
:FSYStem:FOLDer:COPY	フォルダーをコピーします。	5-38
:FSYStem:FOLDer:DELetE	フォルダーを削除します。	5-38
:FSYStem:FOLDer:MAKE	フォルダーを作成します。	5-38
:FSYStem:FOLDer:MOVE	フォルダーを移動させます。	5-38
:FSYStem:FOLDer:RENAme	フォルダ名を変更します。	5-39
:FSYStem:FREE?	ドライブの空き容量を確認します。	5-39
:FSYStem:LIST?	指定したパスのフォルダー / ファイルの一覧情報を取得します。	5-39
:FSYStem:LOAD	OTDR 内のファイルを OTDR に読み込みます。	5-39
:FSYStem:PARAm:DESTination:PATH	ファイル操作時の宛先となるフォルダーパスを絶対パスで指定します。	5-39
:FSYStem:PARAm:NAME	ファイル操作時の対象となるフォルダー / ファイルの名前を指定します。	5-40
:FSYStem:PARAm:PATH	ファイル操作時の対象となるフォルダー / ファイルが所属するフォルダーパスを絶対パスで指定します。	5-40
:FSYStem:SAVE	カレント波形のデータ (SOR、CSV、BMP、PDF、… ) を OTDR に保存します。	5-40
:FSYStem:SIZE?	ファイルのサイズを取得します。	5-40
:FSYStem:WAVE:GET?	カレント波形のデータ (SOR、CSV、BMP、PDF、… ) を取得します。(データ受信)	5-41
:FSYStem:WAVE:TYPE	OTDR のカレント波形を通信コマンド経由で取得する際の、ファイル形式を設定します。	5-41
:FSYStem:WAVE:VALid?	測定波形データが存在する / 存在しないを確認します。	5-41

## LABel グループ

:LABel:CABLE:CODE	ケーブルコードを設定 / 問い合わせします。	5-42
:LABel:CABLE:ID	ケーブル ID を設定 / 問い合わせします。	5-42
:LABel:COMPany	会社名を設定 / 問い合わせします。	5-42
:LABel:DFLag:CURRent	カレントデータフラグを設定 / 問い合わせします。	5-42
:LABel:DIRection	測定方向を設定 / 問い合わせします。	5-42
:LABel:FIBer:ID	ファイバー ID を設定 / 問い合わせします。	5-42
:LABel:FIBer:TYPE	ファイバータイプを設定 / 問い合わせします。	5-42
:LABel:ID:USEfile	ファイバー ID としてファイル ID を使うか、ファイバー ID はファイル ID とは別に使うかを設定 / 問い合わせします。	5-42
:LABel:LABel	ラベルを設定 / 問い合わせします。	5-43
:LABel:LOCATION:ORIGINating	開始位置ラベルを設定 / 問い合わせします。	5-43
:LABel:LOCATION:TERMinating	終了位置ラベルを設定 / 問い合わせします。	5-43
:LABel:OPERator	氏名を設定 / 問い合わせします。	5-43

## 5.1 コマンド一覧表

コマンド	機能	ページ
<b>LIGHTsource グループ</b>		
:LIGHTsource:ABORT	光源の設定 OFF を実行します。試験光の発光を停止します。	5-44
:LIGHTsource:EXECute	光源の設定 ON を実行します。試験光の発光を開始します。	5-44
:LIGHTsource:MODulation	光源の変調周波数を設定 / 問い合わせします。	5-44
:LIGHTsource:STATE	光源の設定 ON/OFF を実行します。試験光の発光を停止 / 開始します。	5-44
:LIGHTsource:WAVelength	光源の波長を設定 / 問い合わせします。	5-44
<b>MENU グループ</b>		
:MENU:ERRor:CLEar	エラーダイアログを消去します。	5-45
:MENU:FUNCTION	ファンクションモードを設定 / 問い合わせします。	5-45
:MENU:MARKer	マーカーモードを設定 / 問い合わせします。	5-45
<b>MISC グループ</b>		
:MISC:ALARmsound	警告音を設定 / 問い合わせします。	5-46
:MISC:BACKlightoff	バッテリ動作時の自動バックライトオフ設定を設定 / 問い合わせします。	5-46
:MISC:BRIGHTness:AC	AC アダプタ接続時の LCD 輝度を設定 / 問い合わせします。	5-46
:MISC:BRIGHTness:BATTery	バッテリ動作時の LCD 輝度を設定 / 問い合わせします。	5-46
:MISC:DATE:DAY	日を設定 / 問い合わせします。	5-46
:MISC:DATE:GET?	日付、時刻を問い合わせます。	5-46
:MISC:DATE:HOUR	時を設定 / 問い合わせします。	5-46
:MISC:DATE:MINute	分を設定 / 問い合わせします。	5-46
:MISC:DATE:MODE	日付の表示タイプを設定 / 問い合わせします。	5-46
:MISC:DATE:MONTH	月を設定 / 問い合わせします。	5-47
:MISC:DATE:SECond	秒を設定 / 問い合わせします。	5-47
:MISC:DATE:SET	日付、時刻の変更を実行します。	5-47
:MISC:DATE:YEAR	年を設定 / 問い合わせします。	5-47
:MISC:LANGuage	言語を設定 / 問い合わせします。	5-47
:MISC:POWersave:BATTery	バッテリ動作時のパワーセーブを設定 / 問い合わせします。	5-48
:MISC:RLOSSmode	反射表示を設定 / 問い合わせします。	5-48
<b>NETWork グループ</b>		
:NETWork:CONTrol:PASSWORD	パスワードを設定 / 問い合わせします。	5-49
:NETWork:CONTrol:TIMEout	タイムアウト時間を設定 / 問い合わせします。	5-49
:NETWork:CONTrol:USERname	ユーザー名を設定 / 問い合わせします。	5-49
:NETWork:DHCP	DHCP の ON/OFF を設定 / 問い合わせします。	5-49
:NETWork:GATEway	ゲートウェイを設定 / 問い合わせします。	5-49
:NETWork:IPADDRESS	IP アドレスを設定 / 問い合わせします。	5-49
:NETWork:NETMask	ネットマスクを設定 / 問い合わせします。	5-50
:NETWork:STATE	イーサネット通信の ON/OFF を設定 / 問い合わせします。	5-50
:NETWork:WLAN:ACCESSpoint:SSID	ネットワークの WLAN アプリケーションの識別名 (SSID) を設定 / 問い合わせします。	5-50

コマンド	機能	ページ
:NETWork:WLAN:ACCesspoint:ENCrypt	ネットワークの WLAN アプリケーションの暗号化モードを設定 / 問い合わせします。	5-50
:NETWork:WLAN:ACCesspoint:PASSwo rd	ネットワークの WLAN アプリケーションのパスワードを設定 / 問い合わせします。	5-50
:NETWork:WLAN:ACCesspoint:CHannel	ネットワークの WLAN アプリケーションのチャンネルを設定 / 問い合わせします。	5-50
:NETWork:WLAN:ACCesspoint:IPADDre ss	ネットワークの WLAN アプリケーションの IP アドレスを設定 / 問い合わせします。	5-50
:NETWork:WLAN:ACCesspoint:NETMask	ネットワークの WLAN アプリケーションのネットマスクを設定 / 問い合わせします。	5-50
:NETWork:WLAN:ACCesspoint:DHCPSta rtaddr	ネットワークの WLAN アプリケーションの DHCP サーバが割り振る IP アドレスの開始アドレスを設定 / 問い合わせします。	5-51
:NETWork:WLAN:ACCesspoint:STATE	ネットワークの WLAN アプリケーションの使用を設定 / 問い合わせします。	5-51
:NETWork:WLAN:COMMON:FWVersion?	WLAN モジュールの FW バージョンを問い合わせます。	5-51
:NETWork:WLAN:COMMON:HWVersion?	WLAN モジュールの HW バージョンを問い合わせます。	5-51
:NETWork:WLAN:COMMON:MACaddress?	WLAN モジュールの MAC アドレスを問い合わせます。	5-51
:NETWork:WLAN:STATION:AUToconnect	ネットワークの自動再接続の ON/OFF を設定 / 問い合わせします。	5-51
:NETWork:WLAN:STATION:CONNect	ネットワークの WLAN ステーションモードを起動します。	5-51
:NETWork:WLAN:STATION:DHCPS	WLAN ステーションモードの DHCP の ON/OFF を設定 / 問い合わせします。	5-51
:NETWork:WLAN:STATION:DISConnect	WLAN ステーションモードを停止します。	5-51
:NETWork:WLAN:STATION:GATEway	WLAN ステーションモードのゲートウェイを設定 / 問い合わせします。	5-51
:NETWork:WLAN:STATION:IPADDress	WLAN ステーションモードの IP アドレスを設定 / 問い合わせします。	5-51
:NETWork:WLAN:STATION:NETMask	WLAN ステーションモードのネットマスクを設定 / 問い合わせします。	5-52
:NETWork:WLAN:STATION:PASSword	WLAN ステーションモードのパスワードを設定 / 問い合わせします。	5-52
:NETWork:WLAN:STATION:SSID	WLAN ステーションモードの SSID を設定 / 問い合わせします。	5-52
:NETWork:WLAN:STATION:STATE?	WLAN ステーションモードの状態を問い合わせます。	5-52
:NETWork:WLAN:STATION:USEFixedssid	WLAN ステーションモードの固定 SSID の ON/OFF を設定 / 問い合わせします。	5-52

## OSWitch グループ

:OSWitch:ENABLE?	光スイッチが本機器に接続されているかを問い合わせます。	5-53
:OSWitch:LINK:ENABLE	光スイッチの連携を設定 / 問い合わせします。	5-53
:OSWitch:LINK:NUMBER<x>	光スイッチの連携チャンネルを設定 / 問い合わせします。	5-53
:OSWitch:CHANnel:NUMBER?	本機器に接続されている光スイッチのチャンネル数 (入出力ポート) を問い合わせます。	5-53
:OSWitch:CHANnel:SElect	本機器に接続されている光スイッチのチャンネル番号を設定 / 問い合わせします。	5-53

## 5.1 コマンド一覧表

コマンド	機能	ページ
<b>PMETer グループ</b>		
:PMETer:AVERage:TIMes	パワーメーターの平均化回数を設定 / 問い合わせします。	5-54
:PMETer:DREF	パワーメーターの Dref を実行します。	5-54
:PMETer:LINK:STATE	光源パワーメーター設定連動機能を設定 / 問い合わせします。	5-54
:PMETer:MAXMin?	パワーメーターの最大値、最小値に関するすべての設定値を問い合わせます。	5-54
:PMETer:MAXMin:MAX?	最大値を問い合わせます。	5-54
:PMETer:MAXMin:MIN?	最小値を問い合わせます。	5-54
:PMETer:MAXMin:STATE	MAX、MIN 表示の ON/OFF を設定 / 問い合わせします。	5-54
:PMETer:MEASurement:DATA?	パワーメーターの測定結果を問い合わせます。	5-54
:PMETer:MODulation	パワーメーターの変調を設定 / 問い合わせします。	5-54
:PMETer:OFFSet	パワーメーターのオフセットを設定 / 問い合わせします。	5-54
:PMETer:REFerence	パワーメーターの基準値を設定 / 問い合わせします。	5-54
:PMETer:THreshold:LOWER	パワーメーターの下限しきい値を設定 / 問い合わせします。	5-55
:PMETer:THreshold:UPPER	パワーメーターの上限しきい値の設定 / 問い合わせします。	5-55
:PMETer:UNIT	パワーメーター表示単位を設定 / 問い合わせします。	5-55
:PMETer:WAVelength:DETail	パワーメーターの波長設定が詳細に設定されている場合の波長を設定 / 問い合わせします。	5-55
:PMETer:ZEROset	パワーメーターのゼロセットを実行します。	5-55
<b>PMONitor グループ</b>		
:PMONitor:DREF	パワーモニターの Dref を実行します。	5-56
:PMONitor:MAX?	パワーモニターのスケール最大値を問い合わせます。	5-56
:PMONitor:MEASurement:DATA?	パワーモニターの測定結果を問い合わせます。	5-56
:PMONitor:MIN?	パワーモニターのスケール最小値を問い合わせます。	5-56
:PMONitor:OFFSet	パワーモニターのオフセットを設定 / 問い合わせします。	5-56
:PMONitor:REFerence	パワーモニターのリファレンスを設定 / 問い合わせします。	5-56
:PMONitor:THreshold:LOWER	パワーモニターのしきい値下限値を設定 / 問い合わせします。	5-56
:PMONitor:THreshold:UPPER	パワーモニターのしきい値上限値を設定 / 問い合わせします。	5-56
:PMONitor:UNIT	パワーモニターの表示単位を設定 / 問い合わせします。	5-56
:PMONitor:WAVelength	パワーモニターの波長を設定 / 問い合わせします。	5-56
:PMONitor:ZEROset	パワーモニターのゼロセットを実行します。	5-56
<b>REPOrt グループ</b>		
:REPOrt:EXECute	レポート作成を実行します。	5-57
:REPOrt:SET:EVENT:CONDITION	レポート設定のイベント検出条件を設定 / 問い合わせをします。	5-57
:REPOrt:SET:EVENT:LIST	レポート設定のイベントリストを設定 / 問い合わせをします。	5-57
:REPOrt:SET:FIBer	レポート設定のファイバー端面画像を設定 / 問い合わせをします。	5-57
:REPOrt:SET:JUDGE	レポート設定の Pass Fail 判定条件を設定 / 問い合わせをします。	5-57
:REPOrt:SET:MAP	レポート設定の MAP 表示の設定 / 問い合わせをします。	5-57
:REPOrt:SET:MEASure:CONDITION	レポート設定の測定条件を設定 / 問い合わせをします。	5-57
:REPOrt:SET:MEASure:INFO	レポート設定の測定情報を設定 / 問い合わせをします。	5-57

コマンド	機能	ページ
:REPORt:SET:MEASure:RESULT	レポート設定の測定結果を設定 / 問い合わせします。	5-57
:REPORt:SET:OVERview	レポート設定のオーバービューを設定 / 問い合わせします。	5-57
:REPORt:SET:WAVE	レポート設定の波形を設定 / 問い合わせします。	5-57

### SETup グループ

:SETup:ALLinit	すべての設定値を工場出荷状態に戻し、内蔵メモリーを フォーマットします。	5-58
:SETup:INITialize	すべての設定値を工場出荷時の状態に戻します。	5-58

### STATus グループ

:STATus?	通信のステータス機能に関する設定をすべて問い合わせま す。	5-59
:STATus:CONDITION?	状態レジスタの内容を問い合わせます。	5-59
:STATus:ERRor?	発生したエラーのコードとメッセージの内容 (エラーキュー の先頭) を問い合わせます。	5-59
:STATus:QENable	エラー以外のメッセージをエラーキューに格納するかしない かを設定 / 問い合わせします。	5-59
:STATus:QMESSage	:STATus:ERRor? の応答にメッセージ内容を付けるか付けない かを設定 / 問い合わせします。	5-59

### SYSTem グループ

:SYSTem:REBoot	システムを再起動します。	5-60
:SYSTem:SAVE	システム設定を保存します。	5-60
:SYSTem:SHUTdown	本機器をシャットダウンします。	5-60

### VLS グループ

:VLS:ABORT	可視光源の発光を停止します。	5-61
:VLS:EXECute	可視光源の発光を開始します。	5-61
:VLS:MODulation	可視光源の変調周波数を設定 / 問い合わせします。	5-61
:VLS:STATE	可視光源の発光を開始 / 停止します	5-61

### WAvedata グループ

:WAvedata:DISPlay:SEND:ASCII?	表示波形データをアスキー形式で問い合わせます。	5-62
:WAvedata:DISPlay:SEND:BINary?	表示波形データをバイナリ形式 (unit 配列) で問い合わせま す。	5-62
:WAvedata:DISPlay:SEND:BINUshort?	表示波形データをバイナリ形式 (ushort 配列) で問い合わせ ます。	5-62
:WAvedata:LENGTH?	波形データ数を問い合わせます。	5-62
:WAvedata:OLDType:DISPlay:SEND?	表示波形データを Dot4 形式で問い合わせます。	5-62
:WAvedata:OLDType:SEND?	波形データを Dot4 形式で問い合わせます。	5-62
:WAvedata:SEND:ASCII?	波形データをアスキー形式で問い合わせます。	5-62
:WAvedata:SEND:BINary?	波形データをバイナリ形式 (uint 配列) で問い合わせます。	5-62
:WAvedata:SEND:BINUshort?	波形データをバイナリ形式 (ushort 配列) で問い合わせます。	5-63
:WAvedata:SEND:SIZE	波形データの取得数を設定 / 問い合わせします。	5-63
:WAvedata:SEND:START	波形データの開始距離を設定 / 問い合わせします。	5-63

## 5.1 コマンド一覧表

コマンド	機能	ページ
<b>共通コマンドグループ</b>		
*CLS (Clear Status)	ステータスバイトレジスタにサマリーが反映されるすべてのイベントステータスレジスタをクリアします。	5-64
*ESE (Standard Event Status Enable)	標準イベントイネーブルレジスタを設定/問い合わせします。	5-64
*ESR? (Standard Event Status Register)	標準イベントステータスレジスタの値を問い合わせ、同時にクリアします。	5-64
*IDN? (Identification)	機器のタイプとファームウェアバージョンを問い合わせます。	5-64
*OPT? (Option)	オプション情報を問い合わせます。	5-64
*RST (Reset)	デバイスリセットを実行し、本機器を既知の状態(初期状態)に戻します。	5-64
*SRE (Service Request Enable)	サービスリクエストイネーブルレジスタを設定/問い合わせします。	5-65
*STB? (Read Status Byte)	ステータスバイトレジスタの現在値を問い合わせます。	5-65
*TST? (Self Test)	本機器のセルフテストを実行します。	5-65

## 5.2 ACQuire グループ

ACQuire グループは、波形の取り込みに関するグループです。フロントパネルでの操作と同じ設定、および設定内容の問い合わせができます。

- ・リモートコントロールで測定条件を変更するときは、測定停止中に行ってください。
- ・リアルタイム測定中または平均化測定中は、測定条件を変更できません。測定中は、:ACQuire:REALtime:STOP または :ACQuire:AVERage:STOP だけが有効です。

### :ACQuire:ADSave

機能	平均化測定実行後、ファイルへのデータ自動保存を設定 / 問い合わせします。
構文	:ACQuire:ADSave <Boolean>
例	:ACQuire:ADSave?
解説	:ACQUIRE:ADSAVE ON :ACQUIRE:ADSAVE? -> :ACQUIRE:ADSAVE 1 自動保存を ON に設定すると、自動保存モードは“ユーザー定義”になります。

### :ACQuire:AESearch

機能	平均化測定実行後の自動イベント検出を設定 / 問い合わせします。
構文	:ACQuire:AESearch <Boolean>
例	:ACQuire:AESearch? :ACQUIRE:AESEARCH OFF :ACQUIRE:AESEARCH? -> :ACQUIRE:AESEARCH 0

### :ACQuire:ATTenuation

機能	アッテネーションを設定 / 問い合わせします。
構文	:ACQuire:ATTenuation {<NRf> AUTO} :ACQuire:ATTenuation? <NRf> = 0.00 ~ 35.00(2.5 dB ステップ)
例	:ACQUIRE:ATTENUATION 2.5 :ACQUIRE:ATTENUATION AUTO :ACQUIRE:ATTENUATION? -> :ACQUIRE:ATTENUATION 25.00
解説	・ 波長、距離レンジ、パルス幅によって設定できる範囲が異なります。 ・ 平均化方法が高反射の場合は設定できません。 ・ 距離レンジが自動の場合は設定できません。

### :ACQuire:AUto:ATTenuation?

機能	アッテネーションを自動に設定したときのアッテネーションの値を問い合わせます。
構文	:ACQuire:AUto:ATTenuation?
例	:ACQUIRE:AUto:ATTenuation? -> :ACQUIRE:AUto:ATTenuation 0.00

### :ACQuire:AUto:DRange?

機能	距離レンジを自動に設定したときの距離レンジの値を問い合わせます。
構文	:ACQuire:AUto:DRange?
例	:ACQUIRE:AUto:DRange? -> :ACQUIRE:AUto:DRange 20000
解説	単位は m(メートル)です。

### :ACQuire:AUto:PWIDth?

機能	パルス幅を自動に設定したときのパルス幅を問い合わせます。
構文	:ACQuire:AUto:PWIDth?
例	:ACQUIRE:AUto:PWIDth? -> :ACQUIRE:AUto:PWIDth 100E-09
解説	単位は s(秒)です。

### :ACQuire:AVERage:COUNT?

機能	現在の平均化実処理回数を問い合わせます。
構文	:ACQuire:AVERage:COUNT?
例	:ACQUIRE:AVERage:COUNT? -> :ACQUIRE:AVERage:COUNT 0

### :ACQuire:AVERage:INDEX

機能	平均化回数を設定 / 問い合わせします。
構文	:ACQuire:AVERage:INDEX {AUTO E2_10 E2_11 ..... E2_20}
例	:ACQuire:AVERage:INDEX? AUTO : 自動 E2_10 : 2E+10 E2_11 : 2E+11 : : : E2_20 : 2E+20 :ACQUIRE:AVERage:INDEX AUTO :ACQUIRE:AVERage:INDEX E2_12 :ACQUIRE:AVERage:INDEX? -> :ACQUIRE:AVERage:INDEX E2_15

## 5.2 ACQuire グループ

### :ACQuire:AVERage:MODE

機能 平均化方法を設定 / 問い合わせします。  
 構文 :ACQuire:AVERage:MODE {HIREFLECTION|HISPEED}  
 :ACQuire:AVERage:MODE?  
 HIREFLECTION : 高反射  
 HISPEED : 高速  
 例 :ACQUIRE:AVERAGE:MODE HIREFLECTION  
 :ACQUIRE:AVERAGE:MODE?  
 -> :ACQUIRE:AVERAGE:MODE HISPEED

### :ACQuire:AVERage:START

機能 平均化測定を実行します。  
 構文 :ACQuire:AVERage:STARt  
 例 :ACQUIRE:AVERAGE:START  
 解説 平均化測定が停止中のときだけ使用できます。

### :ACQuire:AVERage:STOP

機能 平均化測定を停止します。  
 構文 :ACQuire:AVERage:STOP  
 例 :ACQUIRE:AVERAGE:STOP  
 解説 平均化測定中のときだけ使用できます。

### :ACQuire:AVERage:TIME

機能 平均化時間を設定 / 問い合わせします。  
 構文 :ACQuire:AVERage:TIME {<NRf>|AUTO}  
 :ACQuire:AVERage:TIME?  
 <NRf> = 5, 10, 20, 30, 60, 180, 300, 600,  
 1200, 1800 (s)  
 AUTO : 自動  
 5 : 5 s  
 10 : 10 s  
 20 : 20 s  
 30 : 30 s  
 60 : 1 min  
 180 : 3 min  
 300 : 5 min  
 600 : 10 min  
 1200 : 20 min  
 1800 : 30 min  
 例 :ACQUIRE:AVERAGE:TIME AUTO  
 :ACQUIRE:AVERAGE:TIME 1200  
 :ACQUIRE:AVERAGE:TIME?  
 -> :ACQUIRE:AVERAGE:TIME 60

### :ACQuire:AVERage:TYPE

機能 平均化単位を設定 / 問い合わせします。  
 構文 :ACQuire:AVERage:TYPE {TIMES|DURATION}  
 :ACQuire:AVERage:TYPE?  
 TIMES : 回数  
 DURATION : 時間  
 例 :ACQUIRE:AVERAGE:TYPE TIMES  
 :ACQUIRE:AVERAGE:TYPE DURATION  
 :ACQUIRE:AVERAGE:TYPE?  
 -> :ACQ:AVER:TYPE DURATION

### :ACQuire:DRAnge

機能 距離レンジを設定 / 問い合わせします。  
 構文 :ACQuire:DRAnge {<NRf>|AUTO}  
 :ACQuire:DRAnge?  
 <NRf> = 100 m ~ 512000 m(0.1 km ~ 512 km)  
 AUTO : 自動  
 100 : 100 m  
 200 : 200 m  
 500 : 500 m  
 1000 : 1 km  
 2000 : 2 km  
 5000 : 5 km  
 10000 : 10 km  
 20000 : 20 km  
 30000 : 30 km  
 50000 : 50 km  
 100000 : 100 km  
 200000 : 200 km  
 300000 : 300 km  
 400000 : 400 km  
 512000 : 512 km  
 例 :ACQUIRE:DRANGE 500  
 :ACQUIRE:DRANGE 500M  
 :ACQUIRE:DRANGE 5000  
 :ACQUIRE:DRANGE 100KM  
 :ACQUIRE:DRANGE?  
 -> :ACQUIRE:DRANGE 1000  
 解説 波長の設定によって設定できる値が異なります。  
 距離の単位は m( メートル ) または km( キロ  
 メートル ) で設定できます。単位を省略すると、  
 m( メートル ) で設定されます。

### :ACQuire:OFFSet

機能 横軸の測定開始位置を設定 / 問い合わせします。  
 構文 :ACQuire:OFFSet {<NRf>}  
 :ACQuire:OFFSet?  
 例 :ACQUIRE:OFFSET 1000  
 :ACQUIRE:OFFSET?  
 -> :ACQUIRE:OFFSET 999.99265E+00  
 解説 単位は m( メートル ) です。

### :ACQuire:PLUGcheck

機能 光プラグの接続チェックを設定 / 問い合わせしま  
 す。  
 構文 :ACQuire:PLUGcheck {Boolean}  
 :ACQuire:PLUGcheck?  
 例 :ACQUIRE:PLUGCHECK ON  
 :ACQUIRE:PLUGCHECK?  
 -> :ACQUIRE:PLUGCHECK 1

**:ACQuire:PWIDth**

機能 パルス幅を設定 / 問い合わせします。  
 構文 :ACQuire:PWIDth {<NRf>|AUTO}  
 :ACQuire:PWIDth?  
 <NRf> = 3 ns ~ 20 μs(3E-9 ~ 20E-6)

AUTO : 自動  
 3E-09 : 3 ns  
 10E-09 : 10 ns  
 20E-09 : 20 ns  
 30E-09 : 30 ns  
 50E-09 : 50 ns  
 100E-09 : 100 ns  
 200E-09 : 200 ns  
 300E-09 : 300 ns  
 500E-09 : 500 ns  
 1E-06 : 1 μs  
 2E-06 : 2 μs  
 5E-06 : 5 μs  
 10E-06 : 10 μs  
 20E-06 : 20 μs

例 :ACQUIRE:PWIDTH AUTO  
 :ACQUIRE:PWIDTH 3E-9  
 :ACQUIRE:PWIDTH 3NS  
 :ACQUIRE:PWIDTH 10US  
 :ACQUIRE:PWIDTH 10E-6  
 :ACQUIRE:PWIDTH?  
 -> :ACQ:PWID 10.0E-06

解説 • 波長、距離レンジによって設定できる値が異なります。  
 • 距離レンジが自動の場合は設定できません。

**:ACQuire:REALtime:START**

機能 リアルタイム測定を実行します。  
 構文 :ACQuire:REALtime:START  
 例 :ACQUIRE:REALTIME:START  
 解説 測定が停止中のときだけ使用できます。

**:ACQuire:REALtime:STOP**

機能 リアルタイム測定を停止します。  
 構文 :ACQuire:REALtime:STOP  
 例 :ACQUIRE:REALTIME:STOP  
 解説 リアルタイム測定中のときだけ使用できます。

**:ACQuire:REALtime:MODE**

機能 リアルタイム測定中の平均化方法を設定 / 問い合わせします。  
 構文 :ACQuire:REALtime:MODE {HIREFLECTION|HISPEED}  
 :ACQuire:REALtime:MODE?  
 HIREFLECTION : 高反射  
 HISPEED : 高速  
 例 :ACQUIRE:REALTIME:MODE HIREFLECTION  
 :ACQUIRE:REALTIME:MODE?  
 -> :ACQUIRE:REALTIME:  
 MODE HIREFLECTION

**:ACQuire:RESUlt:INDEX?**

機能 測定後の実平均化回数を問い合わせます。  
 構文 :ACQuire:RESUlt:INDEX?  
 例 :ACQUIRE:RESULT:INDEX?  
 -> :ACQUIRE:RESULT:INDEX 13312  
 解説 単位は回です。  
 • 平均化回数 / 時間を "Auto" で指定した場合は、測定が自動で停止した時点での平均化回数を返します。  
 • "Auto" 以外の場合は、設定された値と基本的には一致します。測定を中断した場合などに一致しないことがあります。

**:ACQuire:RESUlt:TIME?**

機能 測定後の実平均化時間を問い合わせます。  
 構文 :ACQuire:RESUlt:TIME?  
 例 :ACQUIRE:RESULT:TIME?  
 -> :ACQUIRE:RESULT:TIME 30  
 解説 単位は秒です。  
 • 平均化回数 / 時間を "Auto" で指定した場合は、測定が自動で停止した時点での平均化時間を返します。  
 • "Auto" 以外の場合は、設定された値と基本的には一致します。測定を中断した場合などに一致しないことがあります。

**:ACQuire:SELECTION:ATTenuation?**

機能 選択できるアッテネーション値を問い合わせます。  
 構文 :ACQuire:SELECTION:ATTenuation?  
 例 :ACQUIRE:SELECTION:ATTENUATION?  
 -> :ACQUIRE:SELECTION:  
 ATTENUATION 0.00,2.50,5.00,...,27.50  
 解説 単位は dB です。

**:ACQuire:SELECTION:DRAngE?**

機能 選択できる距離レンジ値一覧を問い合わせます。  
 構文 :ACQuire:SELECTION:DRAngE?  
 例 :ACQUIRE:SELECTION:DRAngE?  
 -> :ACQUIRE:SELECTION:DRAngE 100,  
 200,500,1000,...,512000  
 解説 単位は m( メートル ) です。

**:ACQuire:SELECTION:PWIDth?**

機能 選択できるパルス幅一覧を問い合わせます。  
 構文 :ACQuire:SELECTION:PWIDth?  
 例 :ACQUIRE:SELECTION:PWIDth?  
 -> :ACQUIRE:SELECTION:PWIDTH 3E-9,  
 10E-9,...,20E-6  
 解説 単位は s( 秒 ) です。

## 5.2 ACQuire グループ

### **:ACQuire:SELECTION:SMPinterval?**

機能 選択できるサンプリング間隔を問い合わせます。  
構文 :ACQuire:SELECTION:SMPinterval?  
例 :ACQUIRE:SELECTION:SMPINTERVAL?  
-> :ACQUIRE:SELECTION:  
SMPINTERVAL 0.05,0.10,0.20,...,4.00

### **:ACQuire:SELECTION:WAVelength?**

機能 選択できる測定波長を問い合わせます。  
構文 :ACQuire:SELECTION:WAVelength?  
例 :ACQUIRE:SELECTION:WAVELLENGTH?  
-> 1.310E-6,1.550E-6  
解説 形名によって選択できる波長が異なります。

### **:ACQuire:SMPinterval:DATA**

機能 サンプリング間隔を設定 / 問い合わせします。  
構文 :ACQuire:SMPinterval:DATA {<NRf>}  
例 :ACQuire:SMPinterval:DATA?  
<NRf> = 0.02 m ~ 32 m  
NORMAL : 標準  
HI : 高分解能  
0.02 : 2 cm  
0.05 : 5 cm  
0.10 : 10 cm  
0.20 : 20 cm  
0.50 : 50 cm  
1.00 : 1 m  
2.00 : 2 m  
4.00 : 4 m  
8.00 : 8 m  
16.00 : 16 m  
32.00 : 32 m  
-> :ACQUIRE:SMPINTERVAL:DATA 2.0  
:ACQUIRE:SMPINTERVAL:DATA NORMAL  
:> :ACQUIRE:SMPINTERVAL:DATA?  
-> :ACQUIRE:SMPINTERVAL:DATA HI  
解説 距離レンジが自動の場合は NORMAL と HI 以外は設定できません。

### **:ACQuire:SMPinterval:VALue?**

機能 サンプリング間隔を問い合わせします。  
構文 :ACQuire:SMPinterval:VALue?  
例 :ACQUIRE:SMPINTERVAL:VALUE?  
-> :ACQUIRE:SMPINTERVAL:VALUE 8.0

### **:ACQuire:WAVelength**

機能 測定波長を設定 / 問い合わせします。  
構文 :ACQuire:WAVelength <NRf>  
例 :ACQuire:WAVelength?  
<NRf> = 0.850 μm ~ 1.650 μm  
(850E-9 ~ 1650E-9)  
1310E-09 : 1310 nm  
1550E-09 : 1550 nm  
-> :ACQUIRE:WAVELLENGTH 0.85UM  
:> :ACQUIRE:WAVELLENGTH 1650E-9  
:> :ACQUIRE:WAVELLENGTH 1.650E-6  
:> :ACQUIRE:WAVELLENGTH?  
-> :ACQUIRE:WAVELLENGTH 1550E-09  
解説 形名によって設定できる波長が異なります。

## 5.3 ANALysis グループ

ANALysis グループは、波形の解析に関するグループです。

フロントパネルでの操作と同じ設定、および設定内容の問い合わせができます。

### **:ANALysis:ASEarch:EXECute**

機能 自動検出を実行します。  
構文 :ANALysis:ASEarch:EXECute  
例 :ANALYSIS:ASEARCH:EXECUTE  
解説 実行後は、:STATus:CONDition? コマンドで取得した値の AS フラグが 0 になってから、各イベント結果を取得してください。

### **:ANALysis:ASEarch:NUMber?**

機能 自動検出イベントの数を問い合わせます。  
構文 :ANALysis:ASEarch:NUMber?  
例 :ANALYSIS:ASEARCH:NUMBER?  
-> :ANALYSIS:ASEARCH:NUMBER 2

### **:ANALysis:BCOeffcient**

機能 カレント波長の後方散乱光レベルを設定 / 問い合わせします。  
構文 :ANALysis:BCOeffcient <NRf>  
:ANALysis:BCOeffcient?  
<NRf> = -64.99 ~ -10.00 (0.01 ステップ)  
例 :ANALYSIS:BCOEFFICIENT -25.00  
:ANALYSIS:BCOEFFICIENT?  
-> :ANALYSIS:BCOEFFICIENT -50.00

### **:ANALysis:CUMLoss**

機能 累積損失タイプを設定 / 問い合わせします。  
構文 :ANALysis:CUMLoss {TYPE1|TYPE2|TYPE3}  
:ANALysis:CUMLoss?  
TYPE1: タイプ 1  
TYPE2: タイプ 2  
TYPE3: タイプ 3  
例 :ANALYSIS:CUMLOSS TYPE2  
:ANALYSIS:CUMLOSS?  
-> :ANALYSIS:CUMLOSS TYPE2

### **:ANALysis:CURSor:DECibel?**

機能 カーソル dB(デシベル) 値を問い合わせます。  
構文 :ANALysis:CURSor:DECibel?  
例 :ANALYSIS:CURSOR:DECIBEL?  
-> :ANALYSIS:CURSOR:DECIBEL 32.878

### **:ANALysis:CURSor:DElete**

機能 カーソルの消去を実行します。  
構文 :ANALysis:CURSor:DElete  
例 :ANALYSIS:CURSOR:DELETE

### **:ANALysis:CURSor:DISTance**

機能 カーソル位置を設定 / 問い合わせします。  
構文 :ANALysis:CURSor:DISTance <NRf>  
:ANALysis:CURSor:DISTance?  
<NRf> = 0 ~ 距離レンジ (m)  
例 :ANALYSIS:CURSOR:DISTANCE 10.00  
:ANALYSIS:CURSOR:DISTANCE?  
-> :ANALYSIS:CURSOR:  
DISTANCE 11.529900E+00  
解説 距離レンジ、距離原点、群屈折率に依存します。

### **:ANALysis:CURSor:INDEX**

機能 カーソル位置をデータ番号で設定 / 問い合わせします。  
構文 :ANALysis:CURSor:INDEX <NRf>  
:ANALysis:CURSor:INDEX?  
<NRf> = 0 ~ 最大データ点数  
例 :ANALYSIS:CURSOR:INDEX 1000  
:ANALYSIS:CURSOR:INDEX?  
-> :ANALYSIS:CURSOR:INDEX 1000  
解説 測定データ点数に依存します。

### **:ANALysis:CURSor:LINK**

機能 カーソルリンクを設定 / 問い合わせします。  
構文 :ANALysis:CURSor:LINK <Boolean>  
:ANALysis:CURSor:LINK?  
例 :ANALYSIS:CURSOR:LINK ON  
:ANALYSIS:CURSOR:LINK?  
-> :ANALYSIS:CURSOR:LINK 1

### **:ANALysis:DUMMy:DISTance:START**

機能 ダミーファイバーの開始位置を設定 / 問い合わせします。  
構文 :ANALysis:DUMMy:DISTance:START <NRf>  
:ANALysis:DUMMy:DISTance:START?  
<NRf> = 0 ~ 999999 (cm)  
例 :ANALYSIS:DUMMY:DISTANCE:START 100000  
:ANALYSIS:DUMMY:DISTANCE:START?  
-> :ANALYSIS:DUMMY:DISTANCE:  
START 100000

### **:ANALysis:DUMMy:DISTance:END**

機能 ダミーファイバーの終了位置を設定 / 問い合わせします。  
構文 :ANALysis:DUMMy:DISTance:END <NRf>  
:ANALysis:DUMMy:DISTance:END?  
<NRf> = 0 ~ 999999 (cm)  
例 :ANALYSIS:DUMMY:DISTANCE:END 100000  
:ANALYSIS:DUMMY:DISTANCE:END?  
-> :ANALYSIS:DUMMY:DISTANCE:END 10000

### 5.3 ANALysis グループ

#### :ANALysis:DUMMy:END

機能 ダミーファイバーイベント番号の終了イベントを設定します。

構文 :ANALysis:DUMMy:END <NRf>  
      :ANALysis:DUMMy:END?  
      <NRf> = 0 ~ 2

例 :ANALYSIS:DUMMy:END 0  
      :ANALYSIS:DUMMy:END?  
      -> :ANALYSIS:DUMMy:END 1

#### :ANALysis:DUMMy:MODE

機能 ダミーファイバーの設定方法を設定 / 問い合わせします。

構文 :ANALysis:DUMMy:MODE {NUMB|DIST}  
      ANALysis:DUMMy:MODE?  
      NUMB : イベント番号  
      DIST : 位置

例 :ANALYSIS:DUMMy:MODE DIST  
      :ANALYSIS:DUMMy:MODE?  
      -> :ANALYSIS:DUMMy:MODE DIST

#### :ANALysis:DUMMy:START

機能 ダミーファイバーイベント番号の開始イベントを設定します。

構文 :ANALysis:DUMMy:START <NRf>  
      :ANALysis:DUMMy:START?  
      <NRf> = 0 ~ 2

例 :ANALYSIS:DUMMy:START 0  
      :ANALYSIS:DUMMy:START?  
      -> :ANALYSIS:DUMMy:START 1

#### :ANALysis:DUNit

機能 距離単位を設定 / 問い合わせします。

構文 :ANALysis:DUNit {KM|MILE|KF}  
      :ANALysis:DUNit?  
      KM : km( キロメートル )  
      MILE : mile( マイル )  
      KF : kf( キロフィート )

例 :ANALYSIS:DUNIT KM  
      :ANALYSIS:DUNIT?  
      -> :ANALYSIS:DUNIT MILE

解説 日本語の場合は、mile、kfは設定できません。

#### :ANALysis:EMarker:LMTechnique

機能 近似法( イベント )を設定 / 問い合わせします。

構文 :ANALysis:EMarker:LMTechnique {LSA|TPA}  
      :ANALysis:EMarker:LMTechnique?  
      LSA : 最小二乗法  
      TPA : 2 点法

例 :ANALYSIS:EMARKER:LMTECHNIQUE LSA  
      :ANALYSIS:EMARKER:LMTECHNIQUE?  
      -> :ANALYSIS:EMARKER:LMTECHNIQUE TPA

#### :ANALysis:EMarker:SET:M1

機能 カレントイベントのマーカー M1 を設定 / 問い合わせします。

構文 :ANALysis:EMarker:SET:M1  
      :ANALysis:EMarker:SET:M1?

例 :ANALYSIS:EMARKER:SET:M1  
      :ANALYSIS:EMARKER:SET:M1?  
      -> :ANALYSIS:EMARKER:SET:  
      M1 5.0471900E+03

解説 マーカーはカーソル位置に設定されます。

#### :ANALysis:EMarker:SET:M2

機能 カレントイベントのマーカー M2 を設定 / 問い合わせします。

構文 :ANALysis:EMarker:SET:M2  
      :ANALysis:EMarker:SET:M2?

例 :ANALYSIS:EMARKER:SET:M2  
      :ANALYSIS:EMARKER:SET:M2?  
      -> :ANALYSIS:EMARKER:SET:  
      M2 7.2463500E+03

解説 マーカーはカーソル位置に設定されます。

#### :ANALysis:EMarker:SET:M3

機能 カレントイベントのマーカー M3 を設定 / 問い合わせします。

構文 :ANALysis:EMarker:SET:M3  
      :ANALysis:EMarker:SET:M3?

例 :ANALYSIS:EMARKER:SET:M3  
      :ANALYSIS:EMARKER:SET:M3?  
      -> :ANALYSIS:EMARKER:SET:  
      M3 9.0471600E+03

解説 マーカーはカーソル位置に設定されます。

#### :ANALysis:EMarker:SET:Y2

機能 カレントイベントのマーカー Y2 を設定 / 問い合わせします。

構文 :ANALysis:EMarker:SET:Y2  
      :ANALysis:EMarker:SET:Y2?

例 :ANALYSIS:EMARKER:SET:Y2  
      :ANALYSIS:EMARKER:SET:Y2?  
      -> :ANALYSIS:EMARKER:SET:  
      Y2 7.3777700E+03

解説 マーカーはカーソル位置に設定されます。

#### :ANALysis:ENABLE:FEB2sploss

機能 2 分岐スプリッタ損失しきい値の Pass/Fail 判定 ON/OFF を設定 / 問い合わせします。

構文 :ANALysis:ENABLE:FEB2sploss <Boolean>  
      :ANALysis:ENABLE:FEB2sploss?

例 :ANALYSIS:ENABLE:FEB2SPLOSS ON  
      :ANALYSIS:ENABLE:FEB2SPLOSS?  
      -> :ANALYSIS:ENABLE:FEB2SPLOSS 1

解説 設定後は、:STATus:CONDition? コマンドで取得した値の AS フラグが 0 になってから各イベント結果を取得してください。

<b>:ANALysis:ENABLE:FEB4sploss</b>	
機能	4 分岐スプリッタ損失しきい値の Pass/Fail 判定 ON/OFF を設定 / 問い合わせします。
構文	:ANALysis:ENABLE:FEB4sploss <Boolean>
例	:ANALysis:ENABLE:FEB4sploss? :ANALYSIS:ENABLE:FEB4SPLOSS ON :ANALYSIS:ENABLE:FEB4SPLOSS? -> :ANALYSIS:ENABLE:FEB4SPLOSS 1
解説	設定後は、:STATus:CONDition? コマンドで取得した値の AS フラグが 0 になってから各イベント結果を取得してください。
<b>:ANALysis:ENABLE:FEB8sploss</b>	
機能	8 分岐スプリッタ損失しきい値の Pass/Fail 判定 ON/OFF を設定 / 問い合わせします。
構文	:ANALysis:ENABLE:FEB8sploss <Boolean>
例	:ANALysis:ENABLE:FEB8sploss? :ANALYSIS:ENABLE:FEB8SPLOSS ON :ANALYSIS:ENABLE:FEB8SPLOSS? -> :ANALYSIS:ENABLE:FEB8SPLOSS 1
解説	設定後は、:STATus:CONDition? コマンドで取得した値の AS フラグが 0 になってから各イベント結果を取得してください。
<b>:ANALysis:ENABLE:FEB16sploss</b>	
機能	16 分岐スプリッタ損失しきい値の Pass/Fail 判定 ON/OFF を設定 / 問い合わせします。
構文	:ANALysis:ENABLE: FEB16sploss <Boolean>
例	:ANALysis:ENABLE:FEB16sploss? :ANALYSIS:ENABLE:FEB16SPLOSS ON :ANALYSIS:ENABLE:FEB16SPLOSS? -> :ANALYSIS:ENABLE:FEB16SPLOSS 1
解説	設定後は、:STATus:CONDition? コマンドで取得した値の AS フラグが 0 になってから各イベント結果を取得してください。
<b>:ANALysis:ENABLE:FEB32sploss</b>	
機能	32 分岐スプリッタ損失しきい値の Pass/Fail 判定 ON/OFF を設定 / 問い合わせします。
構文	:ANALysis:ENABLE: FEB32sploss <Boolean>
例	:ANALysis:ENABLE:FEB32sploss? :ANALYSIS:ENABLE:FEB32SPLOSS ON :ANALYSIS:ENABLE:FEB32SPLOSS? -> :ANALYSIS:ENABLE:FEB32SPLOSS 1
解説	設定後は、:STATus:CONDition? コマンドで取得した値の AS フラグが 0 になってから各イベント結果を取得してください。

<b>:ANALysis:ENABLE:FEB64sploss</b>	
機能	64 分岐スプリッタ損失しきい値の Pass/Fail 判定 ON/OFF を設定 / 問い合わせします。
構文	:ANALysis:ENABLE: FEB64sploss <Boolean>
例	:ANALysis:ENABLE:FEB64sploss? :ANALYSIS:ENABLE:FEB64SPLOSS ON :ANALYSIS:ENABLE:FEB64SPLOSS? -> :ANALYSIS:ENABLE:FEB64SPLOSS 1
解説	設定後は、:STATus:CONDition? コマンドで取得した値の AS フラグが 0 になってから各イベント結果を取得してください。
<b>:ANALysis:ENABLE:FECLoss</b>	
機能	コネクタ損失しきい値の Pass/Fail 判定 ON/OFF を設定 / 問い合わせします。
構文	:ANALysis:ENABLE:FECLoss <Boolean>
例	:ANALysis:ENABLE:FECLoss? :ANALYSIS:ENABLE:FECLoss ON :ANALYSIS:ENABLE:FECLoss? -> :ANALYSIS:ENABLE:FECLoss 1
解説	設定後は、:STATus:CONDition? コマンドで取得した値の AS フラグが 0 になってから各イベント結果を取得してください。
<b>:ANALysis:ENABLE:FERLoss</b>	
機能	反射減衰量しきい値の Pass/Fail 判定 ON/OFF を設定 / 問い合わせします。
構文	:ANALysis:ENABLE:FERLoss <Boolean>
例	:ANALysis:ENABLE:FERLoss? :ANALYSIS:ENABLE:FERLOSS ON :ANALYSIS:ENABLE:FERLOSS? -> :ANALYSIS:ENABLE:FERLOSS 1
解説	設定後は、:STATus:CONDition? コマンドで取得した値の AS フラグが 0 になってから各イベント結果を取得してください。
<b>:ANALysis:ENABLE:FESLoss</b>	
機能	接続損失しきい値の Pass/Fail 判定 ON/OFF を設定 / 問い合わせします。
構文	:ANALysis:ENABLE:FESLoss <Boolean>
例	:ANALysis:ENABLE:FESLoss? :ANALYSIS:ENABLE:FESLOSS ON :ANALYSIS:ENABLE:FESLOSS? -> :ANALYSIS:ENABLE:FESLOSS 1
解説	設定後は、:STATus:CONDition? コマンドで取得した値の AS フラグが 0 になってから各イベント結果を取得してください。

### 5.3 ANALysis グループ

#### :ANALysis:ENABLE:FETLoss

機能	総損失しきい値の Pass/Fail 判定 ON/OFF を設定 / 問い合わせします。
構文	:ANALysis:ENABLE:FETLoss <Boolean>
例	:ANALysis:ENABLE:FETLoss? :ANALYSIS:ENABLE:FETLOSS ON :ANALYSIS:ENABLE:FETLOSS? -> :ANALYSIS:ENABLE:FETLOSS 1
解説	設定後は、:STATus:CONDition? コマンドで取得した値の AS フラグが 0 になってから各イベント結果を取得してください。

#### :ANALysis:ENABLE:FEULoss

機能	dB/km しきい値の Pass/Fail 判定 ON/OFF を設定 / 問い合わせします。
構文	:ANALysis:ENABLE:FEULoss <Boolean>
例	:ANALYSIS:ENABLE:FEULoss? :ANALYSIS:ENABLE:FEULLOSS ON :ANALYSIS:ENABLE:FEULLOSS? -> :ANALYSIS:ENABLE:FEULLOSS 1
解説	設定後は、:STATus:CONDition? コマンドで取得した値の AS フラグが 0 になってから各イベント結果を取得してください。

#### :ANALysis:ENDLoss

機能	END 点のロス表示を設定 / 問い合わせします。
構文	:ANALysis:ENDLoss <Boolean>
例	:ANALysis:ENDLoss? 0 : END 点のロスを表示しません 1 : END 点のロスを表示します
解説	:ANALYSIS:ENDLOSS 1 :ANALYSIS:ENDLOSS? -> :ANALYSIS:ENDLOSS 1

#### :ANALysis:EVENT:CURRent:BRANch?

機能	カレントイベントのスプリッタ分岐数を取得します。
構文	:ANALysis:EVENT:CURRent:BRANch?
例	:ANALYSIS:EVENT:CURRENT:BRANCH?
解説	-> :ANALYSIS:EVENT:CURRENT:BRANCH 2 :ANALysis:EVENT:CURRent:INDex コマンドであらかじめインデックス番号を設定したあと、本コマンドを使います。

#### :ANALysis:EVENT:CURRent:CUMLoss?

機能	カレントイベントの累積損失を問い合わせます。
構文	:ANALysis:EVENT:CURRent:CUMLoss?
例	:ANALYSIS:EVENT:CURRENT:CUMLOSS?
解説	-> :ANALYSIS:EVENT:CURRENT: CUMLOSS 1.810 :ANALysis:EVENT:CURRent:INDex コマンドであらかじめインデックス番号を設定したあと、本コマンドを使います。

#### :ANALysis:EVENT:CURRent:DISTance?

機能	カレントイベントの距離を問い合わせます。
構文	:ANALysis:EVENT:CURRent:DISTance?
例	:ANALYSIS:EVENT:CURRENT:DISTANCE?
解説	-> :ANALYSIS:EVENT:CURRENT: DISTANCE 987.000 :ANALysis:EVENT:CURRent:INDex コマンドであらかじめインデックス番号を設定したあと、本コマンドを使います。

#### :ANALysis:EVENT:CURRent:INDex

機能	カレントイベントを移動します。
構文	:ANALysis:EVENT:CURRent:INDex <NRf>
例	<NRf> = イベント番号 (-1 ~ 100) 1 ~ 100 : イベント番号 -1 : S 点、R 点 0 : E 点 -2 : O 点 -3 : T 点
解説	:ANALYSIS:EVENT:CURRENT:INDEX 5 指定した番号のイベントがカレントイベントになります。

#### :ANALysis:EVENT:CURRent:IOR?

機能	カレントイベントの区間屈折率を問い合わせます。
構文	:ANALysis:EVENT:CURRent:IOR?
例	:ANALYSIS:EVENT:CURRENT:IOR?
解説	-> :ANALYSIS:EVENT:CURRENT:IOR 1.46000 :ANALysis:EVENT:CURRent:INDex コマンドであらかじめインデックス番号を設定したあと、本コマンドを使います。

#### :ANALysis:EVENT:CURRent:LOSS?

機能	カレントイベントの接続損失を問い合わせます。
構文	:ANALysis:EVENT:CURRent:LOSS?
例	:ANALYSIS:EVENT:CURRENT:LOSS?
解説	-> :ANALYSIS:EVENT:CURRENT:LOSS 2.000 :ANALysis:EVENT:CURRent:INDex コマンドであらかじめインデックス番号を設定したあと、本コマンドを使います。

#### :ANALysis:EVENT:CURRent:RETurnloss?

機能	カレントイベントの反射減衰量を問い合わせます。
構文	:ANALysis:EVENT:CURRent:RETurnloss?
例	:ANALYSIS:EVENT:CURRENT:RETURNLOSS?
解説	-> :ANALYSIS:EVENT:CURRENT: RETURNLOSS 2.000 :ANALysis:EVENT:CURRent:INDex コマンドであらかじめインデックス番号を設定したあと、本コマンドを使います。

**:ANALysis:EVENT:CURRent:TYPE?**

機能 カレントイベントのイベントタイプを問い合わせます。

構文 :ANALysis:EVENT:CURRent:TYPE?

例 REFlectance : 反射  
SPPlus : 正損失  
SMINus : 負損失  
SPLITter : スプリッタ  
BENDING : マクロベンディング  
DREFlectance : 連続反射  
DSPLITter : 連続スプリッタ

解説 :ANALysis:EVENT:CURRENT:TYPE?  
-> :ANALYSIS:EVENT:CURRENT:  
    TYPE REFLECTANCE  
カレントイベント:CURRent:INDex コマンドであらかじめインデックス番号を設定したあと、本コマンドを使います。

**:ANALysis:EVENT:CURRent:UNITloss?**

機能 カレントイベントの dB/km を問い合わせます。

構文 :ANALysis:EVENT:CURRent:UNITloss?

例 :ANALYSIS:EVENT:CURRENT:UNITLOSS?  
-> :ANALYSIS:EVENT:CURRENT:  
    UNITLOSS 2.000

解説 :ANALysis:EVENT:CURRent:INDex コマンドであらかじめインデックス番号を設定したあと、本コマンドを使います。

**:ANALysis:EVENT:DELetE**

機能 カレントイベントの削除を実行します。

構文 :ANALysis:EVENT:DELetE

例 :ANALYSIS:EVENT:DELETE

**:ANALysis:EVENT:FIX:MODE**

機能 イベント固定モードを設定 / 問い合わせします。

構文 :ANALysis:EVENT:FIX:MODE <MODE1|  
    MODE2>

例 :ANALysis:EVENT:FIX:MODE?  
    MODE1: モード 1(追加モード)  
    MODE2: モード 2(マスターモード)  
-> :ANALYSIS:EVENT:FIX:MODE MODE1  
    :ANALYSIS:EVENT:FIX:MODE?  
    -> :ANALYSIS:EVENT:FIX:MODE MODE1

**:ANALysis:EVENT:FIX:STATE**

機能 イベント固定の設定 / 問い合わせします。

構文 :ANALysis:EVENT:FIX:STATe <Boolean>

例 :ANALysis:EVENT:FIX:STATe?  
    0: イベント固定は無効  
    1: イベント固定は有効  
-> :ANALYSIS:EVENT:FIX:STATE 1  
    :ANALYSIS:EVENT:FIX:STATe?  
    -> :ANALYSIS:EVENT:FIX:STATE 1

**:ANALysis:EVENT:INSeRt**

機能 カーソル位置にイベント挿入を実行します。

構文 :ANALysis:EVENT:INSeRt

例 :ANALYSIS:EVENT:INSERT

**:ANALysis:EVENT:IOR**

機能 カレントイベントの区間屈折率を設定 / 問い合わせします。

構文 :ANALysis:EVENT:IOR <NRf>

例 :ANALysis:EVENT:IOR?  
<NRf> = 1.30000 ~ 1.79999(0.00001 ステップ)  
-> :ANALYSIS:EVENT:IOR 1.47  
    :ANALYSIS:EVENT:IOR?  
    -> :ANALYSIS:EVENT:IOR 1.46000

**:ANALysis:FEDEtection**

機能 フォルトイベントの表示を設定 / 問い合わせします。

構文 :ANALysis:FEDEtection <Boolean>

例 :ANALYSIS:FEDETECTION ON  
    :ANALYSIS:FEDETECTION?  
    -> :ANALYSIS:FEDETECTION 1

**:ANALysis:FESplitter:BRANch<x>**

機能 フォルトイベントのスプリッタ分岐数を設定 / 問い合わせします。

構文 :ANALysis:FESplitter:  
    BRANch<x> {UNKNOWN|2|4|8|16|32|64}  
    :ANALysis:FESplitter:BRANch<x>?  
<x> = 1, 2

例 :ANALysis:FESplitter:BRANch1 32  
    :ANALYSIS:FESPLITTER:BRANCH1?  
    -> :ANALysis:FESplitter:BRANch1 32

**:ANALysis:FESplitter:DETecition**

機能 フォルトイベントのネットワーク構成 ON/OFF を設定 / 問い合わせします。

構文 :ANALysis:ESplitter:  
    DEtection <Boolean>

例 :ANALysis:ESplitter:DETEction?  
    :ANALYSIS:ESPLITTER:DETECTION ON  
    :ANALYSIS:ESPLITTER:DETECTION?  
    -> :ANALYSIS:ESPLITTER:DETECTION 1

**:ANALysis:FESplitter:STAge**

機能 フォルトイベントのスプリッタ段数を設定 / 問い合わせします。

構文 :ANALysis:FESplitter:STAge {0|1|2}

例 :ANALysis:FESplitter:STAge?  
    :ANALYSIS:FESPLITTER:STAGE 1  
    :ANALYSIS:FESPLITTER:STAGE?  
    -> :ANALYSIS:FESPLITTER:STAGE 1

### 5.3 ANALysis グループ

#### :ANALysis:FMARker:DELetE

機能 マーカーの消去を実行します。  
構文 :ANALysis:FMARker:DELetE  
例 :ANALYSIS:FMARKER:DELETE

#### :ANALysis:FMARker:LEFT:DISTance?

機能 マーカー 1-2 間の距離を問い合わせます。  
構文 :ANALysis:FMARker:LEFT:DISTance?  
例 :ANALYSIS:FMARKER:LEFT:DISTANCE?  
-> :ANALYSIS:FMARKER:LEFT:  
DISTANCE 490.20000E+00

#### :ANALysis:FMARker:LEFT:LOSS?

機能 マーカー 1-2 間の損失を問い合わせます。  
構文 :ANALysis:FMARker:LEFT:LOSS?  
例 :ANALysis:FMARker:LEFT:LOSS?  
-> :ANALYSIS:FMARKER:LEFT:  
LOSS 137.00000E-03

#### :ANALysis:FMARker:LEFT:UNITloss?

機能 マーカー 1-2 間の傾きを問い合わせます。  
構文 :ANALysis:FMARker:LEFT:UNITloss?  
例 :ANALYSIS:FMARKER:LEFT:UNITLOSS?  
-> :ANALYSIS:FMARKER:LEFT:  
UNITLOSS 279.00000E-03

#### :ANALysis:FMARker:LMTechnique

機能 近似法 (マーカー) を設定 / 問い合わせます。  
構文 :ANALysis:FMARker:LMTechnique {LSA|  
TPA}  
:ANALysis:FMARker:LMTechnique?  
例 LSA : 最小二乗法  
TPA : 2 点法  
-> :ANALYSIS:FMARKER:LMTECHNIQUE LSA  
:ANALYSIS:FMARKER:LMTECHNIQUE?  
-> :ANALYSIS:FMARKER:LMTECHNIQUE TPA

#### :ANALysis:FMARker:LOSS?

機能 接続損失を問い合わせます。  
構文 :ANALysis:FMARker:LOSS?  
例 :ANALYSIS:FMARKER:LOSS?  
-> :ANALYSIS:FMARKER:  
LOSS 162.00000E-03

#### :ANALysis:FMARker:REFlection:SATurated?

機能 反射量の飽和を問い合わせます。  
構文 :ANALysis:FMARker:REFlection:  
SATurated?  
例 0 : 飽和無し  
1 : 飽和有り  
-> :ANALYSIS:FMARKER:REFLECTION:  
SATURATED?  
-> :ANALYSIS:FMARKER:REFLECTION:  
SATURATED 0

#### :ANALysis:FMARker:REFlection:VALue?

機能 反射量を問い合わせます。  
構文 :ANALysis:FMARker:REFlection:VALue?  
例 :ANALYSIS:FMARKER:REFLECTION:VALUE?  
-> :ANALYSIS:FMARKER:REFLECTION:  
VALUE 1.0640000E+00

#### :ANALysis:FMARker:RETurnloss:SATurated?

機能 反射減衰量の飽和を問い合わせます。  
構文 :ANALysis:FMARker:RETurnloss:  
SATurated?  
例 0 : 飽和無し  
1 : 飽和有り  
-> :ANALYSIS:FMARKER:RETURNLOSS:  
SATURATED?  
-> :ANALYSIS:FMARKER:RETURNLOSS:  
SATURATED 1

#### :ANALysis:FMARker:RETurnloss:VALue?

機能 反射減衰量を問い合わせます。  
構文 :ANALysis:FMARker:RETurnloss:VALue?  
例 :ANALYSIS:FMARKER:RETURNLOSS:VALUE?  
-> :ANALYSIS:FMARKER:RETURNLOSS:  
VALUE 47.003000E+00

#### :ANALysis:FMARker:RIGHT:DISTance?

機能 マーカー 2-3 間の距離を問い合わせます。  
構文 :ANALysis:FMARker:RIGHT:DISTance?  
例 :ANALYSIS:FMARKER:RIGHT:DISTANCE?  
-> :ANALYSIS:FMARKER:RIGHT:  
DISTANCE 232.95000E+00

#### :ANALysis:FMARker:RIGHT:LOSS?

機能 マーカー 2-3 間の損失を問い合わせます。  
構文 :ANALysis:FMARker:RIGHT:LOSS?  
例 :ANALYSIS:FMARKER:RIGHT:LOSS?  
-> :ANALYSIS:FMARKER:RIGHT:  
LOSS -159.00000E-03

#### :ANALysis:FMARker:RIGHT:UNITloss?

機能 マーカー 2-3 間の傾きを問い合わせます。  
構文 :ANALysis:FMARker:RIGHT:UNITloss?  
例 :ANALYSIS:FMARKER:RIGHT:UNITLOSS?  
-> :ANALYSIS:FMARKER:RIGHT:  
UNITLOSS -683.00000E-03

**:ANALysis:FMARker:SET:M<x>**

機能 マーカーを設定 / 問い合わせします。  
 構文 :ANALysis:FMARker:SET:M<x>  
      :ANALysis:FMARker:SET:M<x>?  
      <x> = 1, 2, 3  
 例   :ANALYSIS:FMARKER:SET:M1  
      :ANALYSIS:FMARKER:SET:M1?  
      -> :ANALYSIS:FMARKER:SET:  
          M1 7.2648300E+03

**:ANALysis:FMARker:SET:Y<x>**

機能 補助マーカーを設定 / 問い合わせします。  
 構文 :ANALysis:FMARker:SET:Y<x>  
      :ANALysis:FMARker:SET:Y<x>?  
      <x> = 1, 2, 3  
 例   :ANALYSIS:FMARKER:SET:Y2  
      :ANALYSIS:FMARKER:SET:Y2?  
      -> :ANALYSIS:FMARKER:SET:  
          Y2 6.1786000E+03

**:ANALysis:IOR**

機能 カレント波長の群屈折率を設定 / 問い合わせします。  
 構文 :ANALysis:IOR <NRf>  
      :ANALysis:IOR?  
      <NRf> = 1.30000 ~ 1.79999 (0.00001 ステップ)  
 例   :ANALYSIS:IOR 1.48000  
      :ANALYSIS:IOR?  
      -> :ANALYSIS:IOR 1.48000

**:ANALysis:MACRobending:DISPLAY**

機能 マクロベンディング表示の ON/OFF を設定 / 問い合わせします。  
 構文 :ANALysis:MACRobending:  
      DISPLAY <Boolean>  
 例   :ANALYSIS:MACROBENDING:DISPLAY ON  
      :ANALYSIS:MACROBENDING:DISPLAY?  
      -> :ANALYSIS:MACROBENDING:DISPLAY 1

**:ANALysis:MACRobending:THreshold**

機能 マクロベンディングのしきい値の設定 / 問い合わせをします。  
 構文 :ANALysis:MACRobending:  
      THreshold <NRf>  
      <NRf> = 0.001 ~ 99.999 (0.001 ステップ)  
 例   :ANALYSIS:MACROBENDING:THRESHOLD 0.1  
      :ANALYSIS:MACROBENDING:THRESHOLD?  
      -> :ANALYSIS:MACROBENDING:  
          THRESHOLD 100.00000E-03

**:ANALysis:REFerence:DElete**

機能 距離原点の消去を実行します。  
 構文 :ANALysis:REFerence:DElete  
 例   :ANALYSIS:REFERENCE:DELETE

**:ANALysis:REFerence:DIStance**

機能 距離原点の設定を実行 / 位置を問い合わせします。  
 構文 :ANALysis:REFerence:DIStance  
      :ANALysis:REFerence:DIStance?  
 例   :ANALYSIS:REFERENCE:DIStance  
      :ANALYSIS:REFERENCE:DIStance?  
      -> :ANALYSIS:REFERENCE:  
          DIStance 39.999710E+03  
 解説 問い合わせ時は、OTDR の口元を基準として m 単位で返します。

**:ANALysis:SECTion:BASelevel?**

機能 区間データの基準点の dB 値を問い合わせます。  
 構文 :ANALysis:SECTion:BASelevel?  
 例   :ANALYSIS:SECTION:BASELEVEL?  
      -> :ANALYSIS:SECTION:  
          BASELEVEL 34.268000E+00

**:ANALysis:SECTion:DElete**

機能 区間解析データのクリアを実行します。  
 構文 :ANALysis:SECTion:DElete  
 例   :ANALYSIS:SECTION:DELETE

**:ANALysis:SECTion:DIStance?**

機能 区間データの距離を問い合わせます。  
 構文 :ANALysis:SECTion:DIStance?  
 例   :ANALYSIS:SECTION:DIStance?  
      -> :ANALYSIS:SECTION:  
          DIStance 80.262240E+03

**:ANALysis:SECTion:END**

機能 区間データの終了位置を設定 / 問い合わせします。  
 構文 :ANALysis:SECTion:END <NRf>  
      <NRf> = 終了位置  
      :ANALysis:SECTion:END?  
 例   :ANALYSIS:SECTION:END  
      :ANALYSIS:SECTION:END?  
      -> :ANALYSIS:SECTION:  
          END 119.99912E+03

**:ANALysis:SECTion:LMTechnique**

機能 区間解析の近似法を設定 / 問い合わせします。  
 構文 :ANALysis:SECTion:  
      LMTechnique {LSA|TPA}  
      :ANALysis:SECTion:LMTechnique?  
      LSA : 最小二乗法  
      TPA : 2 点法  
 例   :ANALYSIS:SECTION:LMTECHNIQUE LSA  
      :ANALYSIS:SECTION:LMTECHNIQUE?  
      -> :ANALYSIS:SECTION:LMTECHNIQUE LSA

### 5.3 ANALysis グループ

#### :ANALysis:SECTION:LOSS?

機能 区間データの損失を問い合わせます。  
 構文 :ANALysis:SECTION:LOSS?  
 例 :ANALYSIS:SECTION:LOSS?  
 -> :ANALYSIS:SECTION:  
 LOSS 7.9300000E+00

#### :ANALysis:SECTION:REFerence

機能 区間データの基準点を設定します。  
 構文 :ANALysis:SECTION:REFerence  
 例 :ANALYSIS:SECTION:REFERENCE

#### :ANALysis:SECTION:RETurnloss:SATurated?

機能 区間データの反射減衰量の飽和を問い合わせます。  
 構文 :ANALysis:SECTION:RETurnloss:  
 SATurated?  
 例 :ANALYSIS:SECTION:RETURNLOSS:  
 SATURATED?  
 -> :ANALYSIS:SECTION:RETURNLOSS:  
 SATURATED 1

#### :ANALysis:SECTION:RETurnloss:VALue?

機能 区間データの反射減衰量を問い合わせます。  
 構文 :ANALysis:SECTION:RETurnloss:VALue?  
 例 :ANALYSIS:SECTION:RETURNLOSS:VALUE?  
 -> :ANALYSIS:SECTION:RETURNLOSS:  
 VALUE 48.250000E+00

#### :ANALysis:SECTION:START

機能 区間データの開始位置を設定 / 問い合わせします。  
 構文 :ANALysis:SECTION:START <NRf>  
 <NRf> =開始位置  
 例 :ANALysis:SECTION:START?  
 :ANALYSIS:SECTION:START  
 :ANALYSIS:SECTION:START?  
 -> :ANALYSIS:SECTION:  
 START 39.736870E+03

#### :ANALysis:SNAPshot:FIX

機能 スナップショットを設定 / 問い合わせします。  
 構文 :ANALysis:SNAPshot:FIX <Boolean>  
 :ANALysis:SNAPshot:FIX?  
 0:スナップショットは無効  
 1:スナップショットは有効  
 例 :ANALYSIS:SNAPSHOT:FIX 1  
 :ANALYSIS:SNAPSHOT:FIX?  
 -> :ANALYSIS:SNAPSHOT:FIX 1  
 解説 • 1を設定すると、現在の波形でスナップショットが設定されます。  
 • 0を設定するとスナップショットがクリアされます。

#### :ANALysis:THreshold:B2SPloss

機能 2分岐スプリッタ損失のしきい値を設定 / 問い合わせします。  
 構文 :ANALysis:THreshold:B2SPloss <NRf>  
 :ANALysis:THreshold:B2SPloss?  
 <NRf> = 1.0 ~ (4分岐しきい値)  
 例 :ANALYSIS:THRESHOLD:B2SPLOSS 1.0  
 :ANALYSIS:THRESHOLD:B2SPLOSS?  
 -> :ANALYSIS:THRESHOLD:B2SPLOSS 3.0  
 解説 設定後は、:STATus:CONDition? コマンドで取得した値の AS フラグが 0 になってから各イベント結果を取得してください。

#### :ANALysis:THreshold:B4SPloss

機能 4分岐スプリッタ損失のしきい値を設定 / 問い合わせします。  
 構文 :ANALysis:THreshold:B4SPloss <NRf>  
 :ANALysis:THreshold:B4SPloss?  
 <NRf> = (2分岐しきい値) ~ (8分岐しきい値)  
 例 :ANALYSIS:THRESHOLD:B4SPLOSS 1.0  
 :ANALYSIS:THRESHOLD:B4SPLOSS?  
 -> :ANALYSIS:THRESHOLD:B4SPLOSS 6.0  
 解説 設定後は、:STATus:CONDition? コマンドで取得した値の AS フラグが 0 になってから各イベント結果を取得してください。

#### :ANALysis:THreshold:B8SPloss

機能 8分岐スプリッタ損失のしきい値を設定 / 問い合わせします。  
 構文 :ANALysis:THreshold:B8SPloss <NRf>  
 :ANALysis:THreshold:B8SPloss?  
 <NRf> = (4分岐しきい値) ~ (16分岐しきい値)  
 例 :ANALYSIS:THRESHOLD:B8SPLOSS 1.0  
 :ANALYSIS:THRESHOLD:B8SPLOSS?  
 -> :ANALYSIS:THRESHOLD:B8SPLOSS 9.0  
 解説 設定後は、:STATus:CONDition? コマンドで取得した値の AS フラグが 0 になってから各イベント結果を取得してください。

#### :ANALysis:THreshold:B16Sploss

機能 16分岐スプリッタ損失のしきい値を設定 / 問い合わせします。  
 構文 :ANALysis:THreshold:B16Sploss <NRf>  
 :ANALysis:THreshold:B16Sploss?  
 <NRf> = (8分岐しきい値) ~ (32分岐しきい値)  
 例 :ANALYSIS:THRESHOLD:B16SPLOSS 1.0  
 :ANALYSIS:THRESHOLD:B16SPLOSS?  
 -> :ANALYSIS:THRESHOLD:B16SPLOSS 12.0  
 解説 設定後は、:STATus:CONDition? コマンドで取得した値の AS フラグが 0 になってから各イベント結果を取得してください。

**:ANALysis:THreshold:B32Sploss**

機能	32分岐スプリッタ損失のしきい値を設定 / 問い合わせします。
構文	:ANALysis:THreshold:B32Sploss <NRf> :ANALysis:THreshold:B32Sploss? <NRf> = (16分岐しきい値)～(64分岐しきい値)
例	:ANALYSIS:THRESHOLD:B32SPLOSS 1.0 :ANALYSIS:THRESHOLD:B32SPLOSS? -> :ANALYSIS:THRESHOLD:B32SPLOSS 15.0
解説	設定後は、:STATus:CONDition? コマンドで取得した値のASフラグが0になってから各イベント結果を取得してください。

**:ANALysis:THreshold:B64Sploss**

機能	64分岐スプリッタ損失のしきい値を設定 / 問い合わせします。
構文	:ANALysis:THreshold:B64Sploss <NRf> :ANALysis:THreshold:B64Sploss? <NRf> = (64分岐しきい値)～20.0
例	:ANALYSIS:THRESHOLD:B64SPLOSS 1.0 :ANALYSIS:THRESHOLD:B64SPLOSS? -> :ANALYSIS:THRESHOLD:B64SPLOSS 18.0
解説	設定後は、:STATus:CONDition? コマンドで取得した値のASフラグが0になってから各イベント結果を取得してください。

**:ANALysis:THreshold:EOFiber**

機能	ファイバー終端のしきい値を設定 / 問い合わせします。
構文	:ANALysis:THreshold:EOFiber <NRf> :ANALysis:THreshold:EOFiber? <NRf> = 3～65
例	:ANALYSIS:THRESHOLD:EOFIBER 5 :ANALYSIS:THRESHOLD:EOFIBER? -> :ANALYSIS:THRESHOLD:EOFIBER 10
解説	設定後は、:STATus:CONDition? コマンドで取得した値のASフラグが0になってから各イベント結果を取得してください。

**:ANALysis:THreshold:FEB2sploss**

機能	フォルトイベントの2分岐スプリッタ損失しきい値を設定 / 問い合わせします。
構文	:ANALysis:THreshold:FEB2sploss <NRf> :ANALysis:THreshold:FEB2sploss? <NRf> = 1.0～30.0
例	:ANALYSIS:THRESHOLD:FEB2SPLOSS 1.0 :ANALYSIS:THRESHOLD:FEB2SPLOSS? -> :ANALYSIS:THRESHOLD: FEB2SPLOSS 20.0
解説	設定後は、:STATus:CONDition? コマンドで取得した値のASフラグが0になってから各イベント結果を取得してください。

**:ANALysis:THreshold:FEB4sploss**

機能	フォルトイベントの4分岐スプリッタ損失しきい値を設定 / 問い合わせします。
構文	:ANALysis:THreshold:FEB4sploss <NRf> :ANALysis:THreshold:FEB4sploss? <NRf> = 1.0～30.0
例	:ANALYSIS:THRESHOLD:FEB4SPLOSS 1.0 :ANALYSIS:THRESHOLD:FEB4SPLOSS? -> :ANALYSIS:THRESHOLD: FEB4SPLOSS 20.0
解説	設定後は、:STATus:CONDition? コマンドで取得した値のASフラグが0になってから各イベント結果を取得してください。

**:ANALysis:THreshold:FEB8sploss**

機能	フォルトイベントの8分岐スプリッタ損失しきい値を設定 / 問い合わせします。
構文	:ANALysis:THreshold:FEB8sploss <NRf> :ANALysis:THreshold:FEB8sploss? <NRf> = 1.0～30.0
例	:ANALYSIS:THRESHOLD:FEB8SPLOSS 1.0 :ANALYSIS:THRESHOLD:FEB8SPLOSS? -> :ANALYSIS:THRESHOLD: FEB8SPLOSS 20.0
解説	設定後は、:STATus:CONDition? コマンドで取得した値のASフラグが0になってから各イベント結果を取得してください。

**:ANALysis:THreshold:FEB16sploss**

機能	フォルトイベントの16分岐スプリッタ損失しきい値を設定 / 問い合わせします。
構文	:ANALysis:THreshold:FEB16sploss <NRf> :ANALysis:THreshold:FEB16sploss? <NRf> = 1.0～30.0
例	:ANALYSIS:THRESHOLD:FEB16SPLOSS 1.0 :ANALYSIS:THRESHOLD:FEB16SPLOSS? -> :ANALYSIS:THRESHOLD: FEB16SPLOSS 20.0
解説	設定後は、:STATus:CONDition? コマンドで取得した値のASフラグが0になってから各イベント結果を取得してください。

**:ANALysis:THreshold:FEB32sploss**

機能	フォルトイベントの32分岐スプリッタ損失しきい値を設定 / 問い合わせします。
構文	:ANALysis:THreshold:FEB32sploss <NRf> :ANALysis:THreshold:FEB32sploss? <NRf> = 1.0～30.0
例	:ANALYSIS:THRESHOLD:FEB32SPLOSS 1.0 :ANALYSIS:THRESHOLD:FEB32SPLOSS? -> :ANALYSIS:THRESHOLD: FEB32SPLOSS 20.0
解説	設定後は、:STATus:CONDition? コマンドで取得した値のASフラグが0になってから各イベント結果を取得してください。

### 5.3 ANALysis グループ

#### **:ANALysis:THreshold:FEB64sploss**

機能	フォルトイイベントの 64 分岐スプリッタ損失しきい値を設定 / 問い合わせします。
構文	:ANALysis:THreshold:FEB64sploss <NRf> :ANALysis:THreshold:FEB64sploss? <NRf> = 1.0 ~ 30.0
例	:ANALYSIS:THRESHOLD:FEB64SPLOSS 1.0 :ANALYSIS:THRESHOLD:FEB64SPLOSS? -> :ANALYSIS:THRESHOLD: FEB64SPLOSS 20.0
解説	設定後は、:STATus:CONDition? コマンドで取得した値の AS フラグが 0 になってから各イベント結果を取得してください。

#### **:ANALysis:THreshold:FECLoss**

機能	フォルトイイベントのコネクタ損失しきい値を設定 / 問い合わせします。
構文	:ANALysis:THreshold:FECLoss <NRf> :ANALysis:THreshold:FECLoss? <NRf> = 0.01 ~ 9.99
例	:ANALYSIS:THRESHOLD:FECLOSS 0.01 :ANALYSIS:THRESHOLD:FECLOSS? -> :ANALYSIS:THRESHOLD:FECLOSS 1.23
解説	設定後は、:STATus:CONDition? コマンドで取得した値の AS フラグが 0 になってから各イベント結果を取得してください。

#### **:ANALysis:THreshold:FERLoss**

機能	フォルトイイベントの反射減衰量しきい値を設定 / 問い合わせします。
構文	:ANALysis:THreshold:FERLoss <NRf> :ANALysis:THreshold:FERLoss? <NRf> = 20 ~ 70
例	:ANALYSIS:THRESHOLD:FERLOSS 50 :ANALYSIS:THRESHOLD:FERLOSS? -> :ANALYSIS:THRESHOLD:FERLOSS 30
解説	設定後は、:STATus:CONDition? コマンドで取得した値の AS フラグが 0 になってから各イベント結果を取得してください。

#### **:ANALysis:THreshold:FESLoss**

機能	フォルトイイベントの接続損失しきい値を設定 / 問い合わせします。
構文	:ANALysis:THreshold:FESLoss <NRf> :ANALysis:THreshold:FESLoss? <NRf> = 0.01 ~ 9.99
例	:ANALYSIS:THRESHOLD:FESLOSS 0.01 :ANALYSIS:THRESHOLD:FESLOSS? -> :ANALYSIS:THRESHOLD:FESLOSS 1.23
解説	設定後は、:STATus:CONDition? コマンドで取得した値の AS フラグが 0 になってから各イベント結果を取得してください。

#### **:ANALysis:THreshold:FESLoss**

機能	フォルトイイベントのスプリッタ損失しきい値を設定 / 問い合わせします。
構文	:ANALysis:THreshold:FESLoss <NRf> :ANALysis:THreshold:FESLoss? <NRf> = 1.0 ~ 30.0
例	:ANALYSIS:THRESHOLD:FESLOSS 1.0 :ANALYSIS:THRESHOLD:FESLOSS? -> :ANALYSIS:THRESHOLD:FESLOSS 20.0
解説	設定後は、:STATus:CONDition? コマンドで取得した値の AS フラグが 0 になってから各イベント結果を取得してください。

#### **:ANALysis:THreshold:FETLoss**

機能	フォルトイイベントの総損失しきい値を設定 / 問い合わせします。
構文	:ANALysis:THreshold:FETLoss <NRf> :ANALysis:THreshold:FETLoss? <NRf> = 1 ~ 65
例	:ANALYSIS:THRESHOLD:FETLOSS 1 :ANALYSIS:THRESHOLD:FETLOSS? -> :ANALYSIS:THRESHOLD:FETLOSS 65
解説	設定後は、:STATus:CONDition? コマンドで取得した値の AS フラグが 0 になってから各イベント結果を取得してください。

#### **:ANALysis:THreshold:FEULoss**

機能	フォルトイイベントの dB/km しきい値を設定 / 問い合わせします。
構文	:ANALysis:THreshold:FEULoss <NRf> :ANALysis:THreshold:FEULoss? <NRf> = 0.01 ~ 9.99
例	:ANALYSIS:THRESHOLD:FEULoss 0.01 :ANALYSIS:THRESHOLD:FEULoss? -> :ANALYSIS:THRESHOLD:FEULoss 1.23
解説	設定後は、:STATus:CONDition? コマンドで取得した値の AS フラグが 0 になってから各イベント結果を取得してください。

#### **:ANALysis:THreshold:RLOSSs**

機能	反射減衰量のしきい値を設定 / 問い合わせします。
構文	:ANALysis:THreshold:RLOSSs <NRf> :ANALysis:THreshold:RLOSSs? <NRf> = 20 ~ 70
例	:ANALYSIS:THRESHOLD:RLOSS 50 :ANALYSIS:THRESHOLD:RLOSS? -> :ANALYSIS:THRESHOLD:RLOSS 30
解説	設定後は、:STATus:CONDition? コマンドで取得した値の AS フラグが 0 になってから各イベント結果を取得してください。

**:ANALysis:THreshold:SLOSS**

機能 接続損失のしきい値を設定 / 問い合わせします。  
 構文 :ANALysis:THreshold:SLOSS <NRf>  
 :ANALysis:THreshold:SLOSS?  
 <NRf> = 0.01 ~ 9.99  
 例 :ANALYSIS:THRESHOLD:SLOSS 0.01  
 :ANALYSIS:THRESHOLD:SLOSS?  
 -> :ANALYSIS:THRESHOLD:SLOSS 1.23  
 解説 設定後は、:STATus:CONDition? コマンドで取得した値の AS フラグが 0 になってから各イベント結果を取得してください。

**:ANALysis:THreshold:SPLOSS**

機能 スブリッタ損失のしきい値を設定 / 問い合わせします。  
 構文 :ANALysis:THreshold:SPLOSS <NRf>  
 :ANALysis:THreshold:SPLOSS?  
 <NRf> = 1.0 ~ 20.0  
 例 :ANALYSIS:THRESHOLD:SPLOSS 1.0  
 :ANALYSIS:THRESHOLD:SPLOSS?  
 -> :ANALYSIS:THRESHOLD:SPLOSS 20.0  
 解説 設定後は、:STATus:CONDition? コマンドで取得した値の AS フラグが 0 になってから各イベント結果を取得してください。

**:ANALysis:TOTal:DISTance?**

機能 測定結果の総距離を問い合わせします。  
 構文 :ANALysis:TOTal:DISTance?  
 例 :ANALYSIS:TOTAL:DISTANCE?  
 -> :ANALYSIS:TOTAL:  
 DISTANCE 49.490000E+03  
 解説 :ANALysis:ASEarch:EXECute によるイベントの自動検出を実行してから使用してください。

**:ANALysis:TOTal:LOSS?**

機能 測定結果の総損失を問い合わせします。  
 構文 :ANALysis:TOTal:LOSS?  
 例 :ANALYSIS:TOTAL:LOSS?  
 -> :ANALYSIS:TOTAL:LOSS 1.271000E+01  
 解説 :ANALysis:ASEarch:EXECute によるイベントの自動検出を実行してから使用してください。

**:ANALysis:TOTal:RETurnloss?**

機能 測定結果の総反射減衰量を問い合わせします。  
 構文 :ANALysis:TOTal:RETurnloss?  
 例 :ANALYSIS:TOTAL:RETURNLOSS?  
 -> :ANALYSIS:TOTAL:  
 RETURNLOSS 63.22200E+00  
 解説 :ANALysis:ASEarch:EXECute によるイベントの自動検出を実行してから使用してください。

**:ANALysis:TOTal:UNITloss?**

機能 測定結果の総距離に対する dB/km を問い合わせします。  
 構文 :ANALysis:TOTal:UNITloss?  
 例 :ANALYSIS:TOTAL:UNITLOSS?  
 -> :ANALYSIS:TOTAL:  
 UNITLOSS 17.417000E+00  
 解説 :ANALysis:ASEarch:EXECute によるイベントの自動検出を実行してから使用してください。

**:ANALysis:TOTLoss**

機能 総損失モードを設定 / 問い合わせします。  
 構文 :ANALysis:TOTLoss {ACCUMULATE|TPA}  
 :ANALysis:TOTLoss?  
 ACCUMULATE : 累積損失  
 TPA : S/E 2 点間損失  
 例 :ANALYSIS:TOTLOSS TPA  
 :ANALYSIS:TOTLOSS?  
 -> :ANALYSIS:TOTLOSS TPA

**:ANALysis:TOTRloss**

機能 総反射減衰量モードを設定 / 問い合わせします。  
 構文 :ANALysis:TOTRloss {INCLUDE \_ END|  
 EXCLUDE \_ END}  
 :ANALysis:TOTRloss?  
 INCLUDE \_ END : END 点を含みます  
 EXCLUDE \_ END : END 点を含みません  
 例 :ANALYSIS:TOTRLOSS EXCLUDE \_ END  
 :ANALYSIS:TOTRLOSS?  
 -> :ANALYSIS:TOTRLOSS EXCLUDE \_ END

## 5.4 COMMunicate グループ

COMMunicate グループは、通信に関するグループです。このグループに相当するフロントパネルキーはありません。

### **:COMMunicate?**

機能 通信に関するすべての設定値を問い合わせます。  
構文 :COMMunicate?  
例 :COMMUNICATE?  
-> :COMMUNICATE:HEADER 1;VERBOSE 0

### **:COMMunicate:HEADER**

機能 クエリーに対する応答を、ヘッダーを付けて返送するか(例 ACQuire:DRANge 5000)、付けないで返送するか(例 5000)を設定/問い合わせします。  
構文 :COMMunicate:HEADER <Boolean>  
:COMMunicate:HEADER?  
例 :COMMUNICATE:HEADER ON  
:COMMUNICATE:HEADER?  
->:COMMUNICATE:HEADER 1

### **:COMMunicate:VERBOSE**

機能 クエリーに対する応答を、フルスペルで返送するか(例 ACQuire:DRANge 5000)、省略形で返送するか(例 ACQ:DRAN 5000)を設定/問い合わせします。  
構文 :COMMunicate:VERBOSE <Boolean>  
:COMMunicate:VERBOSE?  
例 :COMMUNICATE:VERBOSE ON  
:COMMUNICATE:VERBOSE?  
->:COMMUNICATE:VERBOSE 1

## 5.5 DISPLAY グループ

DISPLAY グループは、画面表示に関するグループです。

フロントパネルでの操作と同じ設定、および設定内容の問い合わせができます。

### :DISPLAY:ALINE

機能 近似直線の表示を設定 / 問い合わせします。  
構文 :DISPLAY:ALINE <Boolean>  
:DISPLAY:ALINE?  
例 :DISPLAY:ALINE ON  
:DISPLAY:ALINE? -> :DISPLAY:ALINE 1

### :DISPLAY:COLor

機能 画面色を設定 / 問い合わせします。  
構文 :DISPLAY:COLor {COLOR1|COLOR2}  
:DISPLAY:COLor?  
COLOR1: カラー 1(ダークテーマ)  
COLOR2: カラー 2(ライトテーマ)  
例 :DISPLAY:COLOR COLOR1  
:DISPLAY:COLOR?  
-> :DISPLAY:COLOR COLOR1

### :DISPLAY:CURSor:DBValue

機能 カーソル dB 値を設定 / 問い合わせします。  
構文 :DISPLAY:CURSor:DBValue <Boolean>  
:DISPLAY:CURSor:DBValue?  
例 :DISPLAY:CURSOR:DBVALUE ON  
:DISPLAY:CURSOR:DBVALUE?  
-> :DISPLAY:CURSOR:DBVALUE 1

### :DISPLAY:CURSor:SECond

機能 2 次カーソル表示を設定 / 問い合わせします。  
構文 :DISPLAY:CURSor:SECond <Boolean>  
:DISPLAY:CURSor:SECond?  
例 :DISPLAY:CURSOR:SECOND ON  
:DISPLAY:CURSOR:SECOND?  
-> :DISPLAY:CURSOR:SECOND 1

### :DISPLAY:CURSor:TYPE

機能 カーソルの表示形式を設定 / 問い合わせします。  
構文 :DISPLAY:CURSor:TYPE {CROSS|LINE}  
:DISPLAY:CURSor:TYPE?  
CROSS: 十字 (+)  
LINE: ライン ()  
例 :DISPLAY:CURSOR:TYPE LINE  
:DISPLAY:CURSOR:TYPE?  
-> :DISPLAY:CURSOR:TYPE CROSS

### :DISPLAY:DECibel:UPPer

機能 表示開始レベルを設定 / 問い合わせします。  
構文 :DISPLAY:DECibel:UPPer <NRf>  
:DISPLAY:DECibel:UPPer?  
<NRf> = 1.6 ~ 70 (dB)  
例 :DISPLAY:DECIBEL:UPPER 60  
:DISPLAY:DECIBEL:UPPER?  
-> :DISPLAY:DECIBEL:UPPER 50.0  
解説 縦軸の拡大率によって指定できる範囲が異なります。

### :DISPLAY:DIGit:DECibel

機能 dB 表示桁を設定 / 問い合わせします。  
構文 :DISPLAY:DIGit:DECibel {DIGIT1|  
DIGIT2|DIGIT3}  
:DISPLAY:DIGit:DECibel?  
DIGIT1: \*\*\*  
DIGIT2: \*\*\*  
DIGIT3: \*\*\*  
例 :DISPLAY:DIGIT:DECIBEL DIGIT3  
:DISPLAY:DIGIT:DECIBEL?  
-> :DISPLAY:DIGIT:DECIBEL DIGIT3

### :DISPLAY:DIGit:DISTance

機能 距離表示桁を設定 / 問い合わせします。  
構文 :DISPLAY:DIGit:DISTance {DIGIT3|  
DIGIT4|DIGIT5}  
:DISPLAY:DIGit:DISTance?  
DIGIT3: \*\*\*  
DIGIT4: \*\*\*  
DIGIT5: \*\*\*  
例 :DISPLAY:DIGIT:DISTANCE DIGIT5  
:DISPLAY:DIGIT:DISTANCE?  
-> :DISPLAY:DIGIT:DISTANCE DIGIT5

### :DISPLAY:DISTance:LEFT

機能 表示開始距離を設定 / 問い合わせします。  
構文 :DISPLAY:DISTance:LEFT <NRf>  
:DISPLAY:DISTance:LEFT?  
例 :DISPLAY:DISTANCE:LEFT 1000  
:DISPLAY:DISTANCE:LEFT?  
-> :DISPLAY:DISTANCE:  
LEFT 498.97000E+00  
解説 横軸の拡大率によって設定できる範囲が異なります。

## 5.5 DISPLAY グループ

### **:DISPLAY:DIVide:DECibel**

機能 縦軸の拡大率を設定 / 問い合わせします。  
構文 :DISPLAY:DIVide:DECibel <NRf>  
:DISPLAY:DIVide:DECibel?  
<NRf> = 0.2 ~ 7.5 (0.2, 0.5, 1.0, 2.0, 5.0, 7.5) (dB)  
例 :DISPLAY:DIVIDE:DECIBEL 5.0  
:DISPLAY:DIVIDE:DECIBEL?  
-> :DISPLAY:DIVIDE:DECIBEL 1.0  
解説 単位は dB( デシベル ) です。

### **:DISPLAY:DIVide:DISTance**

機能 横軸の拡大率を設定 / 問い合わせします。  
構文 :DISPLAY:DIVide:DISTance <NRf>  
:DISPLAY:DIVide:DISTance?  
<NRf> = 1 m ~ 40 km  
例 :DISPLAY:DIVIDE:DISTANCE 2000  
:DISPLAY:DIVIDE:DISTANCE?  
-> :DISPLAY:DIVIDE:DISTANCE 10.0E+03  
解説 距離レンジによって設定できる範囲が異なります。  
100k レンジ : 50 m ~ 10 km  
50k レンジ : 20 m ~ 5 km  
20k レンジ : 10 m ~ 2 km  
10k レンジ : 5 m ~ 1 km  
5k レンジ : 5 m ~ 500 m  
2k レンジ : 2 m ~ 200 m  
1k レンジ : 1 m ~ 100 m  
500m レンジ : 1 m ~ 50 m

### **:DISPLAY:INITialize:SCALe**

機能 表示スケールの初期化を実行します。  
構文 :DISPLAY:INITialize:SCale  
例 :DISPLAY:INITIALIZE:SCALE

### **:DISPLAY:MARKer:INFormation**

機能 マーカー情報の表示を設定 / 問い合わせします。  
構文 :DISPLAY:MARKer:INFomation <Boolean>  
:DISPLAY:MARKer:INFomation?  
例 :DISPLAY:MARKER:INFOMATION ON  
:DISPLAY:MARKER:INFOMATION?  
-> :DISPLAY:MARKER:INFOMATION 1

## 5.6 FIPRobe グループ

FIPRobe グループは、ファイバー端面の Pass/Fail 判定に関するグループです。フロントパネルでの操作と同じ設定・実行、および設定内容の問い合わせができます。本機能は、/FST オプション搭載時に有効です。

### :FIPRobe:PASSfail:CLADding:DEF1:ENABLE

機能 ファイバー検査プローブの Cladding 部における 2 μm 以下の汚れを判定する / 判定しないを、設定 / 問い合わせします。

構文 :FIPRobe:PASSfail:CLADding:DEF1:  
ENABLE <Boolean>

例 :FIPROBE:PASSFAIL:CLADDING:DEF1:  
ENABLE ON  
:FIPROBE:PASSFAIL:CLADDING:DEF1:  
ENABLE?  
-> :FIPROBE:PASSFAIL:CLADDING:DEF1:  
ENABLE 1

### :FIPRobe:PASSfail:CLADding:DEF1:THRESHOLD

機能 ファイバー検査プローブの Cladding 部における 2 μm 以下の汚れを判定する際のしきい値を設定 / 問い合わせします。

構文 :FIPRobe:PASSfail:CLADding:DEF1:  
THreshold <NRf>  
<NRf> = 0 ~ 100

例 :FIPROBE:PASSFAIL:CLADDING:DEF1:  
THRESHOLD 0  
:FIPROBE:PASSFAIL:CLADDING:DEF1:  
THRESHOLD?  
-> :FIPROBE:PASSFAIL:CLADDING:DEF1:  
THRESHOLD 0

### :FIPRobe:PASSfail:CLADding:DEF2:ENABLE

機能 ファイバー検査プローブの Cladding 部における 2 μm ~ 5 μm の汚れを判定する / 判定しないを、設定 / 問い合わせします。

構文 :FIPRobe:PASSfail:CLADding:DEF2:  
ENABLE <Boolean>

例 :FIPROBE:PASSFAIL:CLADDING:DEF2:  
ENABLE ON  
:FIPROBE:PASSFAIL:CLADDING:DEF2:  
ENABLE?  
-> :FIPROBE:PASSFAIL:CLADDING:DEF2:  
ENABLE 1

### :FIPRobe:PASSfail:CLADding:DEF2:THRESHOLD

機能 ファイバー検査プローブの Cladding 部における 2 μm ~ 5 μm の汚れを判定する際のしきい値を設定 / 問い合わせします。

構文 :FIPRobe:PASSfail:CLADding:DEF2:  
THreshold <NRf>  
<NRf> = 0 ~ 100

例 :FIPROBE:PASSFAIL:CLADDING:DEF2:  
THRESHOLD 0  
:FIPROBE:PASSFAIL:CLADDING:DEF2:  
THRESHOLD?  
-> :FIPROBE:PASSFAIL:CLADDING:DEF2:  
THRESHOLD 0

### :FIPRobe:PASSfail:CLADding:DEF3:ENABLE

機能 ファイバー検査プローブの Cladding 部における 5 μm より大きい汚れを判定する / 判定しないを、設定 / 問い合わせします。

構文 :FIPRobe:PASSfail:CLADding:DEF3:  
ENABLE <Boolean>

例 :FIPROBE:PASSFAIL:CLADDING:DEF3:  
ENABLE ON  
:FIPROBE:PASSFAIL:CLADDING:DEF3:  
ENABLE?  
-> :FIPROBE:PASSFAIL:CLADDING:DEF3:  
ENABLE 1

### :FIPRobe:PASSfail:CLADding:DEF3:THRESHOLD

機能 ファイバー検査プローブの Cladding 部における 5 μm より大きい汚れを判定する際のしきい値を設定 / 問い合わせします。

構文 :FIPRobe:PASSfail:CLADding:DEF3:  
THreshold <NRf>  
<NRf> = 0 ~ 100

例 :FIPROBE:PASSFAIL:CLADDING:DEF3:  
THRESHOLD 0  
:FIPROBE:PASSFAIL:CLADDING:DEF3:  
THRESHOLD?  
-> :FIPROBE:PASSFAIL:CLADDING:DEF3:  
THRESHOLD 0

## 5.6 FIPRobe グループ

### :FIPRobe:PASSfail:CLADding:SCR1:ENABLE

機能	ファイバー検査プローブの Cladding 部における 3 μm 以下の傷を判定する / 判定しないを、設定 / 問い合わせします。
構文	:FIPRobe:PASSfail:CLADding:SCR1: ENABLE <Boolean>
例	:FIPROBE:PASSFAIL:CLADDING:SCR1: ENABLE ON :FIPROBE:PASSFAIL:CLADDING:SCR1: ENABLE? -> :FIPROBE:PASSFAIL:CLADDING:SCR1: ENABLE 1

### :FIPRobe:PASSfail:CLADding:SCR1:THRESHOLD

機能	ファイバー検査プローブの Cladding 部における 3 μm 以下の傷を判定する際のしきい値を設定 / 問い合わせします。
構文	:FIPRobe:PASSfail:CLADding:SCR1: THreshold <NRf> <NRf> = 0 ~ 100
例	:FIPROBE:PASSFAIL:CLADDING:SCR1: THRESHOLD 0 :FIPROBE:PASSFAIL:CLADDING:SCR1: THRESHOLD? -> :FIPROBE:PASSFAIL:CLADDING:SCR1: THRESHOLD 0

### :FIPRobe:PASSfail:CLADding:SCR2:ENABLE

機能	ファイバー検査プローブの Cladding 部における 3 μm より大きい傷を判定する / 判定しないを、設定 / 問い合わせします。
構文	:FIPRobe:PASSfail:CLADding:SCR2: ENABLE <Boolean>
例	:FIPROBE:PASSFAIL:CLADDING:SCR2: ENABLE ON :FIPROBE:PASSFAIL:CLADDING:SCR2: ENABLE? -> :FIPROBE:PASSFAIL:CLADDING:SCR2: ENABLE 1

### :FIPRobe:PASSfail:CLADding:SCR2:THRESHOLD

機能	ファイバー検査プローブの Cladding 部における 3 μm より大きい傷を判定する際のしきい値を設定 / 問い合わせします。
構文	:FIPRobe:PASSfail:CLADding:SCR2: THreshold <NRf> <NRf> = 0 ~ 100
例	:FIPROBE:PASSFAIL:CLADDING:SCR2: THRESHOLD 0 :FIPROBE:PASSFAIL:CLADDING:SCR2: THRESHOLD? -> :FIPROBE:PASSFAIL:CLADDING:SCR2: THRESHOLD 0

### :FIPRobe:PASSfail:CONTACT:DEF:ENABLE

機能	ファイバー検査プローブの Contact 部における 10 μm より大きい汚れを判定する / 判定しないを、設定 / 問い合わせします。
構文	:FIPRobe:PASSfail:CONTACT:DEF: ENABLE <Boolean>
例	:FIPROBE:PASSFAIL:CONTACT:DEF: ENABLE ON :FIPROBE:PASSFAIL:CONTACT:DEF: ENABLE? -> :FIPROBE:PASSFAIL:CONTACT:DEF: ENABLE 1

### :FIPRobe:PASSfail:CONTACT:DEF:THRESHOLD

機能	ファイバー検査プローブの Contact 部における 10 μm より大きい汚れを判定する際のしきい値を設定 / 問い合わせします。
構文	:FIPRobe:PASSfail:CONTACT:DEF: THreshold <NRf> <NRf> = 0 ~ 100
例	:FIPROBE:PASSFAIL:CONTACT:DEF: THRESHOLD 0 :FIPROBE:PASSFAIL:CONTACT:DEF: THRESHOLD? -> :FIPROBE:PASSFAIL:CONTACT:DEF: THRESHOLD 0

**:FIPRobe:PASSfail:CONTACT:SCR:ENABLE**

機能 ファイバー検査プローブの Contact 部における傷を判定する / 判定しないを、設定 / 問い合わせします。

構文 :FIPRobe:PASSfail:CONTACT:SCR:  
ENABLE <Boolean>

例 :FIPROBE:PASSFAIL:CONTACT:SCR:  
ENABLE ON  
:FIPROBE:PASSFAIL:CONTACT:SCR:  
ENABLE?  
-> :FIPROBE:PASSFAIL:CONTACT:SCR:  
ENABLE 1

**:FIPRobe:PASSfail:CONTACT:SCR:THRESHOLD**

機能 ファイバー検査プローブの Contact 部における傷を判定する際のしきい値を設定 / 問い合わせします。

構文 :FIPRobe:PASSfail:CONTACT:SCR:  
THreshold <NRF>  
<NRF> = 0 ~ 100

例 :FIPROBE:PASSFAIL:CONTACT:SCR:  
THRESHOLD 0  
:FIPROBE:PASSFAIL:CONTACT:SCR:  
THRESHOLD?  
-> :FIPROBE:PASSFAIL:CONTACT:SCR:  
THRESHOLD 0

**:FIPRobe:PASSfail:CORE:DEF1:ENABLE**

機能 ファイバー検査プローブの Core 部における 3 μm 以下の汚れを判定する / 判定しないを、設定 / 問い合わせします。

構文 :FIPRobe:PASSfail:CORE:DEF1:  
ENABLE <Boolean>

例 :FIPROBE:PASSFAIL:CORE:DEF1:  
ENABLE ON  
:FIPROBE:PASSFAIL:CORE:DEF1:ENABLE?  
-> :FIPROBE:PASSFAIL:CORE:DEF1:  
ENABLE 1

**:FIPRobe:PASSfail:CORE:DEF1:THRESHOLD**

機能 ファイバー検査プローブの Core 部における 3 μm 以下の汚れを判定する際のしきい値を設定 / 問い合わせします。

構文 :FIPRobe:PASSfail:CORE:DEF1:  
THreshold <NRF>  
<NRF> = 0 ~ 100

例 :FIPROBE:PASSFAIL:CORE:DEF1:  
THRESHOLD 0  
:FIPROBE:PASSFAIL:CORE:DEF1:  
THRESHOLD?  
-> :FIPROBE:PASSFAIL:CORE:DEF1:  
THRESHOLD 0

**:FIPRobe:PASSfail:CORE:DEF2:ENABLE**

機能 ファイバー検査プローブの Core 部における 3 μm より大きい汚れを判定する / 判定しないを、設定 / 問い合わせします。

構文 :FIPRobe:PASSfail:CORE:DEF2:  
ENABLE <Boolean>

例 :FIPROBE:PASSFAIL:CORE:DEF2:  
ENABLE ON  
:FIPROBE:PASSFAIL:CORE:DEF2:ENABLE?  
-> :FIPROBE:PASSFAIL:CORE:DEF2:  
ENABLE 1

**:FIPRobe:PASSfail:CORE:DEF2:THRESHOLD**

機能 ファイバー検査プローブの Core 部における 3 μm より大きい汚れを判定する際のしきい値を設定 / 問い合わせします。

構文 :FIPRobe:PASSfail:CORE:DEF2:  
THreshold <NRF>  
<NRF> = 0 ~ 100

例 :FIPROBE:PASSFAIL:CORE:DEF2:  
THRESHOLD 0  
:FIPROBE:PASSFAIL:CORE:DEF2:  
THRESHOLD?  
-> :FIPROBE:PASSFAIL:CORE:DEF2:  
THRESHOLD 0

**:FIPRobe:PASSfail:CORE:DEFAny:ENABLE**

機能 ファイバー検査プローブの Core 部における汚れを判定する / 判定しないを、設定 / 問い合わせします。

構文 :FIPRobe:PASSfail:CORE:DEFAny:  
ENABLE <Boolean>

例 :FIPROBE:PASSFAIL:CORE:DEFANY:  
ENABLE ON  
:FIPROBE:PASSFAIL:CORE:DEFANY:  
ENABLE?  
-> :FIPROBE:PASSFAIL:CORE:DEFANY:  
ENABLE 1

**:FIPRobe:PASSfail:CORE:DEFAny:THRESHOLD**

機能 ファイバー検査プローブの Core 部における汚れを判定する際のしきい値を設定 / 問い合わせします。

構文 :FIPRobe:PASSfail:CORE:DEFAny:  
THreshold <NRF>  
<NRF> = 0 ~ 100

例 :FIPROBE:PASSFAIL:CORE:DEFANY:  
THRESHOLD 0  
:FIPROBE:PASSFAIL:CORE:DEFANY:  
THRESHOLD?  
-> :FIPROBE:PASSFAIL:CORE:DEFANY:  
THRESHOLD 0

## 5.6 FIPRobe グループ

### :FIPRobe:PASSfail:Core:SCR1:ENABLE

機能 ファイバー検査プローブの Core 部における 3 μm 以下の傷を判定する / 判定しないを、設定 / 問い合わせします。

構文 :FIPRobe:PASSfail:Core:SCR1:ENABLE <Boolean>

例 :FIPROBE:PASSFAIL:Core:SCR1:ENABLE ON :FIPROBE:PASSFAIL:Core:SCR1:ENABLE? -> :FIPROBE:PASSFAIL:Core:SCR1:ENABLE 1

### :FIPRobe:PASSfail:Core:SCR1:THreshold

機能 ファイバー検査プローブの Core 部における 3 μm 以下の傷を判定する際のしきい値を設定 / 問い合わせします。

構文 :FIPRobe:PASSfail:Core:SCR1:THreshold <NRf> <NRf> = 0 ~ 100

例 :FIPROBE:PASSFAIL:Core:SCR1:THRESHOLD 0 :FIPROBE:PASSFAIL:Core:SCR1:THRESHOLD? -> :FIPROBE:PASSFAIL:Core:SCR1:THRESHOLD 0

### :FIPRobe:PASSfail:Core:SCR2:ENABLE

機能 ファイバー検査プローブの Core 部における 3 μm より大きい傷を判定する / 判定しないを、設定 / 問い合わせします。

構文 :FIPRobe:PASSfail:Core:SCR2:ENABLE <Boolean>

例 :FIPROBE:PASSFAIL:Core:SCR2:ENABLE ON :FIPROBE:PASSFAIL:Core:SCR2:ENABLE? -> :FIPROBE:PASSFAIL:Core:SCR2:ENABLE 1

### :FIPRobe:PASSfail:Core:SCR2:THreshold

機能 ファイバー検査プローブの Core 部における 3 μm より大きい傷を判定する際のしきい値を設定 / 問い合わせします。

構文 :FIPRobe:PASSfail:Core:SCR2:THreshold <NRf> <NRf> = 0 ~ 100

例 :FIPROBE:PASSFAIL:Core:SCR2:THRESHOLD 0 :FIPROBE:PASSFAIL:Core:SCR2:THRESHOLD? -> :FIPROBE:PASSFAIL:Core:SCR2:THRESHOLD 0

### :FIPRobe:PASSfail:Core:SCRAny:ENABLE

機能 ファイバー検査プローブの Core 部における傷を判定する / 判定しないを、設定 / 問い合わせします。

構文 :FIPRobe:PASSfail:Core:SCRAny:ENABLE <Boolean>

例 :FIPROBE:PASSFAIL:Core:SCRANY:ENABLE ON :FIPROBE:PASSFAIL:Core:SCRANY:ENABLE? -> :FIPROBE:PASSFAIL:Core:SCRANY:ENABLE 1

### :FIPRobe:PASSfail:Core:SCRAny:THreshold

機能 ファイバー検査プローブの Core 部における傷を判定する際のしきい値を設定 / 問い合わせします。

構文 :FIPRobe:PASSfail:Core:SCRAny:THreshold <NRf> <NRf> = 0 ~ 100

例 :FIPROBE:PASSFAIL:Core:SCRANY:THRESHOLD 0 :FIPROBE:PASSFAIL:Core:SCRANY:THRESHOLD? -> :FIPROBE:PASSFAIL:Core:SCRANY:THRESHOLD 0

### :FIPRobe:PASSfail:EXECute

機能 ファイバー検査プローブの合否判定を実行します。

構文 :FIPRobe:PASSfail:EXECute

例 :FIPROBE:PASSFAIL:EXECUTE

### :FIPRobe:PASSfail:FBerType

機能 ファイバー検査プローブの光ファイバーケーブルの種類を設定 / 問い合わせします。

構文 :FIPRobe:PASSfail:FBerType {SM|MM}

例 SM : シングルモードファイバー  
MM : マルチモードファイバー  
:FIPROBE:PASSFAIL:FBERTYPE SM  
:FIPROBE:PASSFAIL:FBERTYPE?  
-> :FIPROBE:PASSFAIL:FBERTYPE SM

**:FIPRobe:PASSfail:STANDARD**

機能 ファイバー検査プローブの合否判定に使用する規格を設定 / 問い合わせします。

構文 :FIPRobe:PASSfail:STANDARD {SPC|UPC|APC|USER}

SPC : SPC 球面研磨

UPC : UPC 球面研磨

APC : APC 斜め球面研磨

USER : ユーザー定義 (取得のみ)  
手動で判定実行としきい値を設定

例 :FIPROBE:PASSFAIL:STANDARD SPC  
:FIPROBE:PASSFAIL:STANDARD?  
-> :FIPROBE:PASSFAIL:STANDARD SPC

**:FIPRobe:STATE**

機能 ファイバー検査プローブの画像状態を設定 / 問い合わせします。

構文 :FIPRobe:STATE {VIDEO|STILL}

VIDEO : 動画

STILL : 静止画

例 :FIPROBE:STATE VIDEO  
:FIPROBE:STATE?  
-> :FIPROBE:STATE VIDEO

## 5.7 FSYSystem グループ

FSYSystem グループは、ファイルの保存、操作に関するグループです。

システム全体で一貫した絶対パスでのファイル操作を提供します。絶対パスによる柔軟なファイルアクセスが可能です。

### :FSYSystem:DATE?

機能	ファイルの日付を取得します。
構文	:FSYSystem:DATE?
例	1. :FSYSystem:PARAM:PATH "/INTERNAL/AAA/ BBB" 2. :FSYSystem:PARAM:NAME "xxx.SOR" 3. :FSYSystem:DATE? -> :FSYSystem:DATE "2024/11/06 13:10" 結果: /INTERNAL/AAA/BBB/xxx.SOR の作成日付を取得 します。
解説	次のコマンドでパスを設定したあとに使用して ください。 :FSYSystem:PARAm:PATH :FSYSystem:PARAm:NAME

### :FSYSystem:EXIST?

機能	指定されたフォルダー / ファイルが存在するかど うかを問い合わせます。
構文	:FSYSystem:EXIST?
例	1 : 指定フォルダー / ファイルが存在する 0 : 指定フォルダー / ファイルが存在しない <b>Case1：フォルダー指定</b> 1. :FSYSystem:PARAM:PATH "/INTERNAL/AAA/ BBB" 2. :FSYSystem:PARAM:NAME "CCC" 3. :FSYSystem:EXIST? ->:FSYSystem:EXIST 1 結果: /INTERNAL/AAA/BBB/CCC フォルダーがあれば 1、 なければ 0 を返します。 <b>Case2：ファイル指定</b> 1. :FSYSystem:PARAM:PATH "/INTERNAL/AAA/ BBB" 2. :FSYSystem:PARAM:NAME "xxx.SOR" 3. :FSYSystem:EXIST? ->:FSYSystem:EXIST 1 結果: /INTERNAL/AAA/BBB/xxx.SOR ファイルがあれば 1、なければ 0 を返します 次のコマンドでパスを設定したあとに使用して ください。 :FSYSystem:PARAm:PATH :FSYSystem:PARAm:NAME
解説	

### :FSYSystem:FILE:COPY

機能	ファイルをコピーします。
構文	:FSYSystem:FILE:COPY
例	1. :FSYSystem:PARAM:PATH "/INTERNAL/AAA/ BBB" 2. :FSYSystem:PARAM:NAME "xxx.SOR" 3. :FSYSystem:PARAM:DESTINATION: PATH "/INTERNAL/DDD/EEE" 4. :FSYSystem:FILE:COPY 結果: /INTERNAL/AAA/BBB/xxx.SOR が、 /INTERNAL/DDD/EEE フォルダー内にコピーされ て、/INTERNAL/DDD/EEE/xxx.SOR として配置さ れます。 解説
解説	• 次のコマンドでパスを設定したあとに使用し てください。 :FSYSystem:PARAm:PATH :FSYSystem:PARAm:NAME :FSYSystem:PARAm:DESTination:PATH • コピー先に同名のファイルが存在した場合は上 書きします。

### :FSYSystem:FILE:DELETE

機能	ファイルを削除します。
構文	:FSYSystem:FILE:DELetE
例	1. :FSYSystem:PARAM:PATH "/INTERNAL/AAA/ BBB" 2. :FSYSystem:PARAM:NAME "xxx.SOR" 3. :FSYSystem:FILE:DELETE 結果: /INTERNAL/AAA/BBB/xxx.SOR の xxx.SOR が削除 されます。 解説
解説	次のコマンドでパスを設定したあとに使用して ください。 :FSYSystem:PARAm:PATH :FSYSystem:PARAm:NAME

**:FSYSstem:FILE:GET?**

機能	ファイルを OTDR から取得します。( ファイル受信 )
構文	:FSYSstem:FILE:GET?
例	<pre>1. :FSYSTEM:PARAM:PATH "/INTERNAL/AAA/     BBB" 2. :FSYSTEM:PARAM:NAME "xxx.SOR" 3. :FSYSTEM:FILE:GET?     -&gt; #220ABCDEFGH1J1234567890</pre>
結果 :	/INTERNAL/AAA/BBB/xxx.SOR をブロックデータ形式で取得します。
解説	<ul style="list-style-type: none"> <li>次のコマンドでパスを設定したあとに使用してください。</li> <li>:FSYSstem:PARAm:PATH</li> <li>:FSYSstem:PARAm:NAME</li> <li>指定したファイルをブロックデータ形式で送信します。</li> </ul> <p><b>#220ABCDEFGH1J1234567890</b></p>

**:FSYSstem:FILE:MOVE**

機能	ファイルを移動します。
構文	:FSYSstem:FILE:MOVE
例	<pre>1. :FSYSTEM:PARAM:PATH "/INTERNAL/AAA/     BBB" 2. :FSYSTEM:PARAM:NAME "xxx.SOR" 3. :FSYSTEM:PARAM:DESTINATION:     PATH "/INTERNAL/DDD/EEE" 4. :FSYSTEM:FILE:MOVE</pre>
結果 :	/INTERNAL/AAA/BBB/xxx.SOR が、/INTERNAL/DDD/EEE フォルダー内に移動して、/INTERNAL/DDD/EEE/xxx.SOR として配置されます。
解説	<ul style="list-style-type: none"> <li>次のコマンドでパスを設定したあとに使用してください。</li> <li>:FSYSstem:PARAm:PATH</li> <li>:FSYSstem:PARAm:NAME</li> <li>:FSYSstem:PARAm:DESTination:PATH</li> <li>移動先に同名のファイルが存在した場合は上書きします。</li> </ul>

**:FSYSstem:FILE:RENAmE**

機能	ファイル名を変更します。
構文	:FSYSstem:FILE:RENAmE <文字列> <文字列>=変更後のファイル名
例	<pre>1. :FSYSTEM:PARAM:PATH "/INTERNAL/AAA/     BBB" 2. :FSYSTEM:PARAM:NAME "xxx.SOR" 3. :FSYSTEM:FILE:RENAME "yyy.SOR"</pre>
結果 :	/INTERNAL/AAA/BBB/xxx.SOR の xxx.SOR の名前が yyy.SOR に変わり、/INTERNAL/AAA/BBB/yyy.SOR となります。
解説	<ul style="list-style-type: none"> <li>次のコマンドでパスを設定したあとに使用してください。</li> <li>:FSYSstem:PARAm:PATH</li> <li>:FSYSstem:PARAm:NAME</li> <li>引数に変更後のファイル名を入力してください。</li> <li>既に同名のファイルが存在する場合は、変更に失敗します。</li> </ul>

**:FSYSstem:FILE:SEND**

機能	ファイルを OTDR に送信します。
構文	:FSYSstem:FILE:SEND <ブロックデータ>
例	<pre>1. :FSYSTEM:PARAM:PATH "/INTERNAL/AAA/     BBB" 2. :FSYSTEM:PARAM:NAME "xxx.SOR" 3. :FSYSTEM:FILE:     SEND #220ABCDEFGH1J1234567890</pre>
結果 :	/INTERNAL/AAA/BBB/xxx.SOR として、ファイルが OTDR に送信されます。
解説	<ul style="list-style-type: none"> <li>次のコマンドでパスを設定したあとに使用してください。</li> <li>:FSYSstem:PARAm:PATH</li> <li>:FSYSstem:PARAm:NAME</li> <li>OTDR に対して送信したいファイルのバイナリをブロックデータ形式で引数に入力してください。</li> </ul> <p><b>#220ABCDEFGH1J1234567890</b></p>

## 5.7 FSYSstem グループ

### :FSYSstem:FOLDer:COPIY

機能	フォルダーをコピーします。
構文	:FSYSstem:FOLDer:COPIY
例	1. :FSYSstem:PARAM:PATH "/INTERNAL/AAA/ BBB" 2. :FSYSstem:PARAM:NAME "CCC" 3. :FSYSstem:PARAM:DESTination: PATH "/INTERNAL/DDD/EEE" 4. :FSYSstem:FOLDer:COPIY 結果: /INTERNAL/AAA/BBB/CCC が、 /INTERNAL/DDD/EEE フォルダー内にコピーされ て、/INTERNAL/DDD/EEE/CCC として配置されま す。 解説 • 次のコマンドでパスを設定したあとに使用し てください。 :FSYSstem:PARAm:PATH :FSYSstem:PARAm:NAME :FSYSstem:PARAm:DESTination:PATH • コピー元のフォルダー内のフォルダー / ファイ ルを含めてコピーします。 • コピー先に同名のファイルが存在した場合は 上書きします。

### :FSYSstem:FOLDer:DELetE

機能	フォルダーを削除します。
構文	:FSYSstem:FOLDer:DELetE
例	1. :FSYSstem:PARAM:PATH "/INTERNAL/AAA/ BBB" 2. :FSYSstem:PARAM:NAME "CCC" 3. :FSYSstem:FOLDer:DELetE 結果: /INTERNAL/AAA/BBB/CCC の CCC フォルダーが 削除されます。 解説 次のコマンドでパスを設定したあとに使用して ください。 :FSYSstem:PARAm:PATH :FSYSstem:PARAm:NAME

### :FSYSstem:FOLDer:MAKE

機能	フォルダーを作成します。
構文	:FSYSstem:FOLDer:MAKE
例	1. :FSYSstem:PARAM:PATH "/INTERNAL/AAA/ BBB" 2. :FSYSstem:PARAM:NAME "CCC" 3. :FSYSstem:FOLDer:MAKE 結果: /INTERNAL/AAA/BBB/CCC のフォルダーが作成さ れます。 /INTERNAL/AAA フォルダー、/INTERNAL/AAA/ BBB フォルダーが存在しない場合は自動で作成さ れます。 解説 • 次のコマンドでパスを設定したあとに使用してく ださい。 :FSYSstem:PARAm:PATH :FSYSstem:PARAm:NAME • :FSYSstem:PARAm:PATH で指定したフォルダ ーが存在しない場合は自動で作成されます。

### :FSYSstem:FOLDer:MOVE

機能	フォルダーを移動させます。
構文	:FSYSstem:FOLDer:MOVE
例	1. :FSYSstem:PARAM:PATH "/INTERNAL/AAA/ BBB" 2. :FSYSstem:PARAM:NAME "CCC" 3. :FSYSstem:PARAM:DESTination: PATH "/INTERNAL/DDD/EEE" 4. :FSYSstem:FOLDer:MOVE 結果: /INTERNAL/AAA/BBB/CCC が、 /INTERNAL/DDD/EEE フォルダー内に移動して、/ INTERNAL/DDD/EEE/CCC として配置されます。 解説 • 次のコマンドでパスを設定したあとに使用してく ださい。 :FSYSstem:PARAm:PATH :FSYSstem:PARAm:NAME :FSYSstem:PARAm:DESTination:PATH • 移動元のフォルダー内のフォルダー / ファイル を含めて移動します。 • 移動先に同名のファイルが存在した場合は上 書きします。

**:FSYSstem:FOLDer:RENAME**

機能	フォルダーネームを変更します。
構文	:FSYSstem:FOLDer:RENAME <文字列> <文字列> = 変更後のフォルダーネーム
例	1. :FSYSTEM:PARAM:PATH "/INTERNAL/AAA/ BBB" 2. :FSYSTEM:PARAM:NAME "CCC" 3. :FSYSTEM:FOLDER:RENAME "FFF" 結果: /INTERNAL/AAA/BBB/CCC の CCC フォルダーの 名前が FFF に変わり、/INTERNAL/AAA/BBB/FFF となります。
解説	<ul style="list-style-type: none"> <li>次のコマンドでパスを設定したあとに使用してください。 :FSYSstem:PARAm:PATH</li> <li>:FSYSstem:PARAm:NAME</li> <li>引数に変更後のフォルダーネームを入力してください。</li> <li>既に同名のフォルダーが存在する場合は、変更に失敗します。</li> </ul>

**:FSYSstem:FREE?**

機能	ドライブの空き容量を確認します。
構文	:FSYSstem:FREE?
例	1. :FSYSTEM:PARAM:PATH "/INTERNAL/AAA/ BBB/CCC" 2. :FSYSTEM:FREE? -> :FSYSTEM:FREE 190.709E+06
結果:	/INTERNAL ドライブの空き容量を取得します。 (190.709MB)
解説	<ul style="list-style-type: none"> <li>次のコマンドでパスを設定したあとに使用してください。 :FSYSstem:PARAm:PATH</li> <li>:FSYSstem:PARAm:PATH で設定したパスが所属するドライブの空き容量を表示します。 単位は byte です。</li> </ul> <p>例:</p> <pre>"/INTERNAL" -&gt; /INTERNAL の容量 "/INTERNAL/AAA/BBB/CCC" -&gt; /INTERNAL の容量 "/INTERNAL/AAA/BBB/xxx.SOR" -&gt; /INTERNAL の容量 "USB1/DDD/EEE" -&gt; USB メモリー 1 の容量</pre>

**:FSYSstem:LIST?**

機能	指定したパスのフォルダー / ファイルの一覧情報を取得します。
構文	:FSYSstem:LIST?
例	1. :FSYSTEM:PARAM:PATH "/INTERNAL/AAA/ BBB/CCC" 2. :FSYSTEM:LIST? -> :FSYS:LIST 5,EEE/FFF,aaa.SOR,bbb. SOR,ccc.BMP
結果:	/INTERNAL/AAA/BBB/CCC 内のフォルダー / ファイルの一覧を文字列で取得します。
解説	<ul style="list-style-type: none"> <li>次のコマンドでパスを設定したあとに使用してください。 :FSYSstem:PARAm:PATH</li> <li>「個数, ファイル (またはフォルダー), …, ファイル (またはフォルダー)」のように返します。 フォルダーには最後に "/" がつきます。</li> <li>:FSYSstem:PARAm:PATH でファイルが指定された場合は「-1」を返します。</li> </ul>

**:FSYSstem:LOAD**

機能	OTDR 内のファイルを OTDR に読み込みます。
構文	:FSYSstem:LOAD
例	1. :FSYSTEM:PARAM:PATH "/INTERNAL/AAA/ BBB" 2. :FSYSTEM:PARAM:NAME "xxx.SOR" 3. :FSYSTEM:LOAD
結果:	/INTERNAL/AAA/BBB/xxx.SOR が再生されます。
解説	<p>次のコマンドでパスを設定したあとに使用してください。 :FSYSstem:PARAm:PATH :FSYSstem:PARAm:NAME</p>

**:FSYSstem:PARAm:DESTination:PATH**

機能	ファイル操作時の宛先となるフォルダーパスを絶対パスで指定します。
構文	:FSYSstem:PARAm:DESTination: PATH <文字列>
例	:FSYSstem:PARAm:DESTination:PATH? :FSYSTEM:PARAM:DESTINATION: PATH "/INTERNAL/DDD/EEE" :FSYSTEM:PARAM:DESTINATION:PATH? -> :FSYSTEM:PARAM:DESTINATION: PATH "/INTERNAL/DDD/EEE"
解説	<ul style="list-style-type: none"> <li>ドライブ名を含む絶対パスで指定してください。</li> <li>パスの区切り及び先頭には "/" をつけてください。</li> <li>各ドライブの識別子</li> </ul> <p>/INTERNAL : 内蔵メモリー /SD : 外付け microSD メモリーカード /USB1 : USB メモリー 1 /USB2 : USB メモリー 2</p>

## 5.7 FSYSstem グループ

<b>:FSYSstem:PARAm:NAME</b>	
機能	ファイル操作時の対象となるフォルダー / ファイルの名前を指定します。 ファイル名の場合は拡張子を含めてください。
構文	:FSYSstem:PARAm:NAME <文字列> :FSYSstem:PARAm:NAME?
例	<p><b>Case1：フォルダー指定</b></p> <pre>:FSYSstem:PARAm:NAME "CCC" :FSYSstem:PARAm:NAME? -&gt; :FSYSstem:PARAm:NAME "CCC"</pre> <p><b>Case2：ファイル指定</b></p> <pre>:FSYSstem:PARAm:NAME "xxx.SOR" :FSYSstem:PARAm:NAME? -&gt; :FSYSstem:PARAm:NAME "xxx.SOR"</pre>
解説	フォルダー / ファイル名を指定してください。 ファイル名の場合は拡張子を含めてください。
<b>:FSYSstem:PARAm:PATH</b>	
機能	ファイル操作時の対象となるフォルダー / ファイルが所属するフォルダーパスを絶対パスで指定します。
構文	:FSYSstem:PARAm:PATH <文字列> :FSYSstem:PARAm:PATH?
例	:FSYSstem:PARAm:PATH "/INTERNAL/AAA/ BBB" :FSYSstem:PARAm:PATH? -> :FSYSstem:PARAm:PATH "/INTERNAL/ AAA/BBB"
解説	<ul style="list-style-type: none"> <li>ドライブ名を含む絶対パスで指定してください。</li> <li>パスの区切り及び先頭には "/" をつけてください。</li> <li>各ドライブの識別子</li> </ul> <p>/INTERNAL : 内蔵メモリー  /SD : 外付け microSD メモリーカード  /USB1 : USB メモリー 1  /USB2 : USB メモリー 2</p>
<b>:FSYSstem:SAVE</b>	
機能	カレント波形のデータ (SOR、CSV、BMP、PDF、…) を OTDR に保存します。
構文	:FSYSstem:SAVE
例	1. :FSYSstem:PARAm:PATH "/INTERNAL/AAA/ BBB/CCC" 2. :FSYSstem:PARAm:NAME "1550_0123. BMP" 3. :FSYSstem:SAVE
解説	<p><b>結果：</b>  /INTERNAL/AAA/BBB/CCC の CCC フォルダー内に、1550_0123.BMP として BMP ファイルが保存されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>次のコマンドでパスを設定したあとに使用してください。  :FSYSstem:PARAm:PATH  :FSYSstem:PARAm:NAME</li> <li>保存タイプは指定した保存名の拡張子から自動で判定します。  対応する拡張子は以下のとおりです。</li> </ul> <p>.SOR : SOR 形式  .CSV : CSV( 波形 )  .SET : 測定設定ファイル  .CFG : 機器設定ファイル  .BMP : ビットマップ形式  .JPG : JPEG 形式  .PDF : PDF( レポート ) 形式</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>:FSYSstem:PARAm:PATH で指定したフォルダーが存在しない場合は自動で作成されます。</li> <li>セーブ後のエラー確認は、  :STATUS:CONDition? でファイルアクセス中の状態が終わってから :STATus:ERRor? でエラーを確認してください。</li> </ul>
<b>:FSYSstem:SIZE?</b>	
機能	ファイルのサイズを取得します。
構文	:FSYSstem:SIZE?
例	1. :FSYSstem:PARAm:PATH "/INTERNAL/AAA/ BBB" 2. :FSYSstem:PARAm:NAME "xxx.SOR" 3. :FSYSstem:SIZE?
解説	<p><b>結果：</b>  /INTERNAL/AAA/BBB/xxx.SOR のファイルサイズを取得します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>次のコマンドでパスを設定したあとに使用してください。  :FSYSstem:PARAm:PATH  :FSYSstem:PARAm:NAME</li> <li>単位は byte です。</li> </ul>

**:FSYSem:WAVE:GET?**

機能 カレント波形のデータ (SOR、CSV、BMP、PDF、…)  
を取得します。(データ受信)

構文 :FSYSem:WAVE:GET?

例 1. :FSYSTEM:WAVE:TYPE BMP  
2. :FSYSTEM:WAVE:GET?  
-> #220ABCDEFGHIJ1234567890

結果:  
OTDRの測定結果画面のBMP画像データをプロックデータで取得します。

解説

- 次のコマンドでパスを設定したあとに使用してください。
- :FSYSem:WAVE:TYPE
- カレント波形のデータを :FSYSem:WAVE:TYPE で指定した形式のプロックデータで送信します。

**#220ABCDEFGHIJ1234567890**

**:FSYSem:WAVE:TYPE**

機能 OTDRのカレント波形を通信コマンド経由で取得する際の、ファイル形式を設定します。

構文 :FSYSem:WAVE:TYPE {SOR|CSV\_WAVE|CSV\_EVENT|SET|CFG|BMP|JPG|PDF}

:FSYSem:WAVE:TYPE?  
SOR: SOR 形式  
CSV\_WAVE: CSV(波形)  
CSV\_EVENT: CSV(イベント)  
SET: 測定設定ファイル  
CFG: 機器設定ファイル  
BMP: ビットマップ形式  
JPG: JPEG 形式  
PDF: PDF 形式

例 :FSYSTEM:WAVE:TYPE SOR  
:FSYSTEM:WAVE:TYPE?  
-> :FSYSTEM:WAVE:TYPE SOR

解説 :FSYSem:WAVE:GET? を使う前に、このコマンドでファイル形式を指定してください。

**:FSYSem:WAVE:VALID?**

機能 測定波形データが存在する / 存在しないを確認します。

構文 :FSYSem:WAVE:VALID?

例 :FSYSTEM:WAVE:VALID?  
-> :FSYSTEM:WAVE:VALID 1

解説 測定波形データ  
0: 無効 (測定波形データが存在しない)  
1: 有効 (測定波形データが存在する)

## 5.8 LABel グループ

LABel グループは、ファイルを識別するラベルの設定に関するグループです。フロントパネルでの操作と同じ設定、実行および設定内容の問い合わせができます。

### :LABel:CABLE:CODE

機能 ケーブルコードを設定 / 問い合わせします。  
構文 :LABel:CABLE:CODE <文字列>  
:LABel:CABLE:CODE?  
<文字列> = 36 文字以内  
例 :LABEL:CABLE:CODE "123"  
:LABEL:CABLE:CODE  
-> :LAB:CABLE:CODE "123"

### :LABel:CABLE:ID

機能 ケーブル ID を設定 / 問い合わせします。  
構文 :LABel:CABLE:ID <文字列>  
:LABel:CABLE:ID?  
<文字列> = 36 文字以内  
例 :LABEL:CABLE:ID "123"  
:LABEL:CABLE:ID?  
-> :LABEL:CABLE:ID "123"

### :LABel:COMPany

機能 会社名を設定 / 問い合わせします。  
構文 :LABel:COMPany <文字列>  
:LABel:COMPany?  
<文字列> = 36 文字以内  
例 :LABEL:COMPANY "123"  
:LABEL:COMPANY?  
-> :LABEL:COMPANY "123"

### :LABel:DFLag:CURRent

機能 カレントデータフラグを設定 / 問い合わせします。  
構文 :LABel:DFLag:CURRent {BC|RC|OT|CC}  
:LABel:DFLag:CURRent?  
BC: as-Built Condition (施設時)  
RC: as-Repaired Condition (修理時)  
OT: Other (その他)  
CC: Current Condition (現在状態)  
例 :LABEL:DFLAG:CURRENT BC  
:LABEL:DFLAG:CURRENT?  
-> :LABEL:DFLAG:CURRENT BC

### :LABel:DIRection

機能 測定方向を設定 / 問い合わせします。  
構文 :LABel:DIRection {DIRECTION\_AB|  
DIRECTION\_BA}  
:LABel:DIRection?  
DIRECTION\_AB : A->B  
DIRECTION\_BA : B->A  
例 :LABEL:DIRECTION DIRECTION\_AB  
:LABEL:DIRECTION?  
-> :LABEL:DIRECTION DIRECTION\_AB

### :LABel:FIBer:ID

機能 ファイバー ID を設定 / 問い合わせします。  
構文 :LABel:FIBer:ID <文字列>  
:LABel:FIBer:ID?  
<文字列> = 36 文字以内  
例 :LABEL:FIBER:ID "123"  
:LABEL:FIBER:ID?  
-> :LABEL:FIBER:ID "123"

### :LABel:FIBer:TYPE

機能 ファイバータイプを設定 / 問い合わせします。  
構文 :LABel:FIBer:TYPE {SMF|DSF|  
NZ\_DSF|MMF}  
:LABel:FIBer:TYPE?  
SMF : シングルモード光ファイバー  
DSF : 分散シフトシングルモード  
ファイバー  
NZ\_DSF : 非零分散シフトシングルモード  
ファイバー  
MMF : マルチモード光ファイバー  
例 :LABEL:FIBER:TYPE SMF  
:LABEL:FIBER:TYPE?  
-> :LABEL:FIBER:TYPE SMF

### :LABel:ID:USEfile

機能 ファイバー ID としてファイル ID を使うか、ファイバー ID はファイル ID とは別に使うかを設定 / 問い合わせします。  
構文 :LABel:ID:USEfile <Boolean>  
:LABel:ID:USEfile?  
1 : ファイバー ID としてファイル ID を使う  
0 : ファイバー ID はファイル ID とは別に使う  
例 :LABEL:ID:USEFILE 1  
:LABEL:ID:USEFILE?  
-> :LABEL:ID:USEFILE 1

**:LABel:LABel**

機能 ラベルを設定 / 問い合わせします。  
 構文 :LABel:LABel <文字列>  
      :LABel:LABel?  
      <文字列> = 36 文字以内  
 例   :LABEL:LABEL "123"  
      :LABEL:LABEL?  
      ->:LABEL:LABEL "123"

**:LABel:LOCation:ORIGINating**

機能 開始位置ラベルを設定 / 問い合わせします。  
 構文 :LABel:LOCation:ORIGINating <文字列>  
      :LABel:LOCation:ORIGINating?  
      <文字列> = 36 文字以内  
 例   :LABEL:LOCATION:ORIGINATING "123"  
      :LABEL:LOCATION:ORIGINATING?  
      -> :LABEL:LOC:ORIGINATING "123"

**:LABel:LOCation:TERMinating**

機能 終了位置ラベルを設定 / 問い合わせします。  
 構文 :LABel:LOCation:TERMinating <文字列>  
      :LABel:LOCatIon:TERMinating?  
      <文字列> = 36 文字以内  
 例   :LABEL:LOCATION:TERMINATING "123"  
      :LABEL:LOCATION:TERMINATING?  
      -> :LABEL:LOCATION:TERMINATING "123"

**:LABel:OPERator**

機能 氏名を設定 / 問い合わせします。  
 構文 :LABEL:OPERator <文字列>  
      :LABEL:OPERator?  
      <文字列> = 36 文字以内  
 例   :LABEL:OPERATOR "123"  
      :LABEL:OPERATOR?  
      -> :LABEL:OPERATOR "123"

## 5.9 LIGHTsource グループ

LIGHTsource グループは、光源に関するグループです。フロントパネルでの操作と同じ設定、実行および設定内容の問い合わせができます。

### **:LIGHTsource:ABORT**

機能 光源の設定 OFF を実行します。試験光の発光を停止します。  
構文 :LIGHTsource:ABORT  
例 :LIGHTSOURCE:ABORT

### **:LIGHTsource:EXECute**

機能 光源の設定 ON を実行します。試験光の発光を開始します。  
構文 :LIGHTsource:EXECute  
例 :LIGHTSOURCE:EXECUTE

### **:LIGHTsource:MODulation**

機能 光源の変調周波数を設定 / 問い合わせします。  
構文 :LIGHTsource:MODulation {MOD\_CW|  
MOD\_270HZ|MOD\_1KHZ|MODE\_2KHZ}  
:LIGHTsource:MODulation?  
例 :LIGHTSOURCE:MODULATION MOD\_CW  
:LIGHTSOURCE:MODULATION?  
-> :LIGHTSOURCE:MODULATION MOD\_CW  
解説 :LIGHTsource:WAVelength で設定した波長が  
0.850 um または 1.300 um の場合、変調周波数には CW と 270 Hz しか選択できません。

### **:LIGHTsource:STATE**

機能 光源の設定 ON/OFF を実行します。試験光の発光を停止 / 開始します。  
構文 :LIGHTsource:STATE <Boolean>  
例 :LIGHT:SOURCE ON  
:LIGHT:SOURCE? -> LIGHT:SOURCE 1  
解説 OFF :LIGHTsource:ABORt と同等です。  
ON :LIGHTsource:EXECute と同等です。

### **:LIGHTsource:WAVelength**

機能 光源の波長を設定 / 問い合わせします。  
構文 :LIGHTsource:WAVelength <NRf>  
:LIGHTsource:WAVelength?  
<NRf> = 0.850 um ~ 1.650 um  
(850E-9 ~ 1650E-9)  
例 :LIGHTSOURCE:WAVELENGTH 0.85UM  
:LIGHTSOURCE:WAVELENGTH 1650E-9  
:LIGHTSOURCE:WAVELENGTH 1.650E-6  
:LIGHTSOURCE:WAVELENGTH?  
-> :LIGHTSOURCE:WAVELENGTH 1550E-9  
解説 形名によって設定できる波長が異なります。

## 5.10 MENU グループ

MENU グループは、ファンクションの設定、および設定内容の問い合わせができます。

### **:MENU:ERRor:CLEar**

機能 エラーダイアログを消去します。  
構文 :MENU:ERRor:CLEar  
例 :MENU:ERROR:CLEAR

### **:MENU:FUNCTION**

機能 ファンクションモードを設定 / 問い合わせします。  
構文 :MENU:FUNCTION {TOP|OTDR|LIGHT|OPC|  
PMETER|VLS|FIP}  
:MENU:FUNCTION?  
TOP : トップメニュー  
OTDR : OTDR  
LIGHT : 光源  
OPC : パワーチェッカー<sup>\*1</sup>  
PMETER : パワーメーター<sup>\*2</sup>  
VLS : 可視光源<sup>\*3</sup>  
FIP : ファイバー検査プローブ  
\*1 パワーチェッcker (/PC オプション) を搭載しているときに選択できます。  
\*2 パワーメーター (/SPM、または /HPM オプション) を搭載しているときに選択できます。  
\*3 可視光源 (VLS オプション) を搭載しているときに選択できます。  
例 :MENU:FUNCTION TOP  
:MENU:FUNCTION?  
-> :MENU:FUNCTION TOP

### **:MENU:MARKer**

機能 マーカーモードを設定 / 問い合わせします。  
構文 :MENU:MARKer {MARKER|LINE}  
:MENU:MARKer?  
MARKER : マーカー<sup>\*</sup>  
LINE : ライン  
例 :MENU:MARKER MARKER  
:MENU:MARKER? -> :MENU:MARKER MARKER

## 5.11 MISC グループ

MISC グループは、日付や言語、電源管理に関するグループです。フロントパネルでの操作と同じ設定、および設定内容の問い合わせができます。

### :MISC:ALARmsound

機能 警告音を設定 / 問い合わせします。  
構文 :MISC:ALARmsound <Boolean>  
例 :MISC:ALARmsound?  
:MISC:ALARMSOUND OFF  
:MISC:ALARMSOUND?  
-> :MISC:ALARMSOUND 0

### :MISC:BACKlightoff

機能 バッテリ動作時の自動バックライトオフ設定を設定 / 問い合わせします。  
構文 :MISC:BACKlightoff <Boolean>  
例 :MISC:BACKLIGHTOFF ON  
:MISC:BACKLIGHTOFF?  
-> :MISC:BACKLIGHTOFF 1  
解説 OTDR 測定中の場合、スクリーンセーブになります。

### :MISC:BRIGHTness:AC

機能 AC アダプタ接続時の LCD 輝度を設定 / 問い合わせします。  
構文 :MISC:BRIGHTness:AC {BRIGHT|NORMAL|DARK|OFF}  
:MISC:BRIGHTness:AC?  
BRIGHT: 高輝度  
NORMAL: 標準  
DARK: 省電力  
OFF: なし  
例 :MISC:BRIGHTNESS:AC NORMAL  
:MISC:BRIGHTNESS:AC?  
-> :MISC:BRIGHTNESS:AC NORMAL

### :MISC:BRIGHTness:BATTery

機能 バッテリ動作時の LCD 輝度を設定 / 問い合わせします。  
構文 :MISC:BRIGHTness:BATTery {BRIGHT|NORMAL|DARK|OFF}  
:MISC:BRIGHTness:BATTery?  
BRIGHT: 高輝度  
NORMAL: 標準  
DARK: 省電力  
OFF: なし  
例 :MISC:BRIGHTNESS:BATTERY NORMAL  
:MISC:BRIGHTNESS:BATTERY?  
-> :MISC:BRIGHTNESS:BATTERY NORMAL  
解説 パラメータは :MISC:BRIGHTness:AC と同様です。

### :MISC:DATE:DAY

機能 日を設定 / 問い合わせします。  
構文 :MISC:DATE:DAY <NRf>  
<NRf> = 1 ~ 31 (1 ステップ)  
例 :MISC:DATE:DAY?  
:MISC:DATE:DAY 1  
:MISC:DATE:DAY? -> :MISC:DATE:DAY 1  
解説 :MISC:DATE:SET の実行時に有効になります。

### :MISC:DATE:GET?

機能 日付、時刻を問い合わせます。  
構文 :MISC:DATE:GET?  
例 :MISC:DATE:GET?  
-> :MISC:DATE:GET 2025/01/31 23:59:59

### :MISC:DATE:HOUR

機能 時を設定 / 問い合わせします。  
構文 :MISC:DATE:HOUR <NRf>  
<NRf> = 0 ~ 23 (1 ステップ)  
例 :MISC:DATE:HOUR?  
:MISC:DATE:HOUR 17  
:MISC:DATE:HOUR?  
-> :MISC:DATE:HOUR 12  
解説 :MISC:DATE:SET の実行時に有効になります。

### :MISC:DATE:MINute

機能 分を設定 / 問い合わせします。  
構文 :MISC:DATE:MINute <NRf>  
<NRf> = 0 ~ 59 (1 ステップ)  
例 :MISC:DATE:MINute?  
:MISC:DATE:MINUTE 5  
:MISC:DATE:MINUTE?  
-> :MISC:DATE:MINUTE 59  
解説 :MISC:DATE:SET の実行時に有効になります。

### :MISC:DATE:MODE

機能 日付の表示タイプを設定 / 問い合わせします。  
構文 :MISC:DATE:MODE {OFF|TYPE1|TYPE2|TYPE3}  
例 :MISC:DATE:MODE?  
TYPE1 : 2024/08/29 12:16  
TYPE2 : 08/29/2024 12:16  
TYPE3 : 2024/AUG/29 12:16  
:> :MISC:DATE:MODE TYPE1  
:> :MISC:DATE:MODE?  
-> :MISC:DATE:MODE TYPE1

**:MISC:DATE:MONTH**

機能 月を設定 / 問い合わせします。  
 構文 :MISC:DATE:MONTH <NRf>  
 <NRf> = 1 ~ 12  
 :MISC:DATE:MONTH?  
 例 :MISC:DATE:MONTH 1  
 :MISC:DATE:MONTH?  
 -> :MISC:DATE:MONTH 1  
 解説 :MISC:DATE:SET の実行時に有効になります。

**:MISC:DATE:SECond**

機能 秒を設定 / 問い合わせします。  
 構文 :MISC:DATE:SECond <NRf>  
 <NRf> = 0 ~ 59 (1 ステップ)  
 例 :MISC:DATE:SECOND 0  
 :MISC:DATE:SECOND?  
 -> :MISC:DATE:SECOND 0  
 解説 :MISC:DATE:SET の実行時に有効になります。

**:MISC:DATE:SET**

機能 日付、時刻の変更を実行します。  
 構文 :MISC:DATE:SET  
 例 :MISC:DATE:SET

**:MISC:DATE:YEAR**

機能 年を設定 / 問い合わせします。  
 構文 :MISC:DATE:YEAR <NRf>  
 <NRf> = 2006 ~ 2035 (1 ステップ)  
 :MISC:DATE:YEAR?  
 例 :MISC:DATE:YEAR 2025  
 :MISC:DATE:YEAR?  
 -> :MISC:DATE:YEAR 2025  
 解説 :MISC:DATE:SET の実行時に有効になります。

**:MISC:LANGuage**

機能 言語を設定 / 問い合わせします。  
 構文 :MISC:LANGuage {JAPANESE|ENGLISH}  
 :MISC:LANGuage?  
 例 :MISC:LANGUAGE ENGLISH  
 :MISC:LANGUAGE?  
 -> :MISC:LANGUAGE ENGLISH  
 解説 以下の言語を設定できます。  
 • 仕様コードが -HE の場合  
 ENGLISH : 英語  
 FRENCH : フランス語  
 GERMANY : ドイツ語  
 ITALY : イタリア語  
 SPANISH : スペイン語  
 DUTCH : オランダ  
 FINNISH : フィンランド語  
 NORWEGIAN : ノルウェー語  
 POLISH : ポーランド語  
 CZECH : チェコ語  
 SWEDISH : スウェーデン  
 TURKEY : トルコ語  
 PORTUGUESE : ポルトガル語  
 TCHINESE : 繁体中国語  
 BRAZILIAN : ポルトガル語 (ブラジル)  
 ROMANIAN : ルーマニア語  
 INDONESIAN : インドネシア語  
 VIETNAMESE : ベトナム語  
 HUNGARIAN : ハンガリー語  
 • 仕様コードが -HJ の場合  
 JAPANESE : 日本語  
 ENGLISH : 英語  
 • 仕様コードが -HC の場合  
 CHINESE : 簡体中国語  
 ENGLISH : 英語  
 • 仕様コードが -HM の場合  
 CHINESE : 簡体中国語  
 • 仕様コードが -HK の場合  
 KOREAN : 韓国語  
 ENGLISH : 英語  
 • 仕様コードが -HR の場合  
 RUSSIAN : ロシア語  
 ENGLISH : 英語

## 5.11 MISC グループ

### **:MISC:POWersave:BATTery**

機能 バッテリ動作時のパワーセーブを設定 / 問い合わせします。

構文 :MISC:POWersave:BATTery {OFF|A1MIN|A5MIN|A10MIN|A30MIN}

:MISC:POWersave:BATTery?

OFF: なし

A1MIN: 1分後に自動電源オフ

A5MIN: 5分後に自動電源オフ

A10MIN: 10分後に自動電源オフ

A30MIN: 30分後に自動電源オフ

例 :MISC:POWERSAVE:BATTERY A1MIN

:MISC:POWERSAVE:BATTERY?

-> :MISC:POWERSAVE:BATTERY OFF

解説 OTDR 測定中は自動電源オフは行われません。

### **:MISC:RLOSSmode**

機能 反射表示を設定 / 問い合わせします。

構文 :MISC:RLOSSmode {NORMAL|NTT}

:MISC:MARKer?

NORMAL: 反射減衰量

NTT: 反射量

例 :MISC:RLOSSMODE NORMAL

:MISC:RLOSSMODE?

-> :MISC:RLOSSMODE NORMAL

## 5.12 NETWork グループ

NETWork グループは、LAN 設定に関するグループです。フロントパネルでの操作と同じ設定、および設定内容の問い合わせができます。

### :NETWork:CONTrol:PASSWORD

機能 パスワードを設定 / 問い合わせします。  
構文 :NETWork:CONTrol:PASSWORD <文字列>  
例 :NETWORK:CONTROLL:PASSWORD "ABC"  
:NETWORK:CONTROLL:PASSWORD?  
-> :NETWORK:CONTROLL:PASSWORD "ABC"  
解説 • :NETWork:STATe が OFF の場合は設定できません。  
• 本コマンドは再接続後、有効になります。  
• ユーザー名が "anonymous" のときはパスワード設定は不要です。

### :NETWork:CONTrol:TIMEout

機能 タイムアウト時間を設定 / 問い合わせします。  
構文 :NETWork:CONTrol:TIMEout {<NRf> |  
INFinite}  
:NETWork:CONTrol:TIMEout?  
<NRf> = 1 ~ 7200 (s)  
例 :NETWORK:CONTROL:TIMEOUT 30  
:NETWORK:CONTROL:TIMEOUT?  
-> :NETWORK:CONTROL:TIMEOUT 30  
解説 • 単位は s (秒) です。  
• :NETWork:STATe が OFF の場合は設定できません。  
• 本コマンドは再接続後、有効になります。  
• /LAN オプション付きの機種で有効です。

### :NETWork:CONTrol:USERname

機能 ユーザー名を設定 / 問い合わせします。  
構文 :NETWork:CONTrol:USERname <文字列>  
例 :NETWORK:CONTROL:  
USERNAME "anonymous"  
:NETWORK:CONTROL:USERNAME?  
-> :NETWORK:CONTROL:  
USERNAME "anonymous"  
解説 • :NETWork:STATe が OFF の場合は設定できません。  
• 本コマンドは再接続後、有効になります。

### :NETWork:DHCP

機能 DHCP の ON/OFF を設定 / 問い合わせします。  
構文 :NETWork:DHCP <Boolean>  
:NETWork:DHCP?  
OFF または 0: 無効  
ON または 1: 有効  
例 :NETWORK:DHCP ON  
:NETWORK:DHCP? -> :NETWORK:DHCP 1  
解説 • :NETWork:STATe が OFF の場合は設定できません。  
• 本コマンドは再接続後、有効になります。  
• /LAN オプション付きの機種で有効です。

### :NETWork:GATEway

機能 ゲートウェイを設定 / 問い合わせします。  
構文 :NETWork:GATEway <文字列>  
:NETWork:GATEway?  
例 :NETWORK:GATEWAY "255.255.255.0"  
:NETWORK:GATEWAY?  
-> :NETWORK:GATEWAY "255.255.255.0"  
解説 • :NETWork:STATe が OFF の場合は設定できません。  
• :NETWork:DHCP が OFF の場合は設定できません。  
• 本コマンドは再接続後、有効になります。  
• /LAN オプション付きの機種で有効です。

### :NETWork:IPADDress

機能 IP アドレスを設定 / 問い合わせします。  
構文 :NETWork:IPADDress <文字列>  
:NETWork:IPADDress?  
例 :NETWORK:IPADDRESS "192.168.0.1"  
:NETWORK:IPADDRESS?  
-> :NETWORK:IPADDRESS "192.168.0.1"  
解説 • :NETWork:STATe が OFF の場合は設定できません。  
• :NETWork:DHCP が OFF の場合は設定できません。  
• 本コマンドは再接続後、有効になります。  
• /LAN オプション付きの機種で有効です。

## 5.12 NETWork グループ

### :NETWork:NETMask

機能 ネットマスクを設定 / 問い合わせします。  
 構文 :NETWork:NETMask <文字列>  
      :NETWork:NETMask?  
 例 :NETWORK:NETMASK "255.255.255.0"  
      :NETWORK:NETMASK?  
      -> :NETWORK:NETMASK "255.255.255.0"  
 解説 • :NETWork:STATe が OFF の場合は設定できません。  
   • :NETWork:DHCp が OFF の場合は設定できません。  
   • 本コマンドは再接続後、有効になります。  
   • /LAN オプション付きの機種で有効です。

### :NETWork:STATE

機能 イーサネット通信の ON/OFF を設定 / 問い合わせします。  
 構文 :NETWork:STATE <Boolean>  
      :NETWork:STATE?  
      OFF または 0: 無効  
      ON または 1: 有効  
 例 :NETWORK:STATE ON  
      :NETWORK:STATE? -> :NETWORK:STATE 1  
 解説 • 本コマンドは再接続後、有効になります。  
   • /LAN オプション付きの機種で有効です。

### :NETWork:WLAN:ACCesspoint:SSID

機能 ネットワークの WLAN アプリケーションの識別名 (SSID) を設定 / 問い合わせします。  
 構文 :NETWork:WLAN:ACCesspoint:  
      SSID <文字列>  
      :NETWork:WLAN:ACCesspoint:SSID?  
 例 :NETWORK:WLAN:ACCESSPOINT:  
      SSID "12345678"  
      :NETWORK:WLAN:ACCESSPOINT:SSID?  
      -> :NETWork:WLAN:ACCESSPOINT:  
       SSID "12345678"

### :NETWork:WLAN:ACCesspoint:ENCrypt

機能 ネットワークの WLAN アプリケーションの暗号化モードを設定 / 問い合わせします。  
 構文 :NETWork:WLAN:ACCesspoint:  
      ENCrypt {NONE|WPA2 \_ PSK}  
      :NETWork:WLAN:ACCesspoint:ENCrypt?  
 例 :NETWORK:WLAN:ACCESSPOINT:  
      ENCRYPT WPA2 \_ PSK  
      :NETWORK:WLAN:ACCESSPOINT:ENCRYPT?  
      -> :NETWork:WLAN:ACCESSPOINT:  
       ENCRYPT WPA2 \_ PSK

### :NETWork:WLAN:ACCesspoint:PASSWORD

機能 ネットワークの WLAN アプリケーションのパスワードを設定 / 問い合わせします。  
 構文 :NETWork:WLAN:ACCesspoint:  
      PASSWORD <文字列>  
      :NETWork:WLAN:ACCesspoint:PASSWORD?  
 例 :NETWORK:WLAN:ACCESSPOINT:  
      PASSWORD "12345678"  
      :NETWORK:WLAN:ACCESSPOINT:PASSWORD?  
      -> :NETWORK:WLAN:ACCESSPOINT:  
       PASSWORD "12345678"

### :NETWork:WLAN:ACCesspoint:CHannel

機能 ネットワークの WLAN アプリケーションのチャネルを設定 / 問い合わせします。  
 構文 :NETWork:WLAN:ACCesspoint:  
      CHannel {AUTO|CH<x>}  
      :NETWork:WLAN:ACCesspoint:CHannel?  
      <x> = 1 ~ 11  
 例 :NETWORK:WLAN:ACCESSPOINT:  
      CHANNEL CH1  
      :NETWORK:WLAN:ACCESSPOINT:CHANNEL?  
      -> :NETWORK:WLAN:ACCESSPOINT:  
       CHANNEL CH1

### :NETWork:WLAN:ACCesspoint:IPADDress

機能 ネットワークの WLAN アプリケーションの IP アドレスを設定 / 問い合わせします。  
 構文 :NETWork:WLAN:ACCesspoint:  
      IPAddress <文字列>  
      :NETWork:WLAN:ACCesspoint:IPAddress?  
 例 :NETWORK:WLAN:ACCESSPOINT:  
      IPADDRESS "192.168.0.1"  
      :NETWORK:WLAN:ACCESSPOINT:IPADDRESS?  
      -> :NETWORK:WLAN:ACCESSPOINT:  
       IPADDRESS "192.168.0.1"

### :NETWork:WLAN:ACCesspoint:NETMask

機能 ネットワークの WLAN アプリケーションのネットマスクを設定 / 問い合わせします。  
 構文 :NETWork:WLAN:ACCesspoint:  
      NETMask <文字列>  
      :NETWork:WLAN:ACCesspoint:NETMask?  
 例 :NETWORK:WLAN:ACCESSPOINT:  
      NETMASK "255.255.255.0"  
      :NETWORK:WLAN:ACCESSPOINT:NETMASK?  
      -> :NETWORK:WLAN:ACCESSPOINT:  
       NETMASK "255.255.255.0"

**:NETWork:WLAN:ACCesspoint:DHCPSStar  
taddr**

機能	ネットワークの WLAN アプリケーションの DHCP サーバが割り振る IP アドレスの開始アドレスを設定 / 問い合わせします。
構文	:NETWork:WLAN:ACCesspoint: DHCPStartaddr <文字列> :NETWork:WLAN:ACCesspoint: DHCPStartaddr?
例	:NETWORK:WLAN:ACCESSPOINT: DHCPSTARTADDR "192.168.0.100" :NETWORK:WLAN:ACCESSPOINT: DHCPSTARTADDR? -> :NETWORK:WLAN:ACCESSPOINT: DHCPSTARTADDR "192.168.0.100"

**:NETWork:WLAN:ACCesspoint:STATE**

機能	ネットワークの WLAN アプリケーションの使用を設定 / 問い合わせします。
構文	:NETWork:WLAN:ACCesspoint: STATE <Boolean> :NETWork:WLAN:ACCesspoint:STATE?
例	:NETWORK:WLAN:ACCESSPOINT:STATE ON :NETWORK:WLAN:ACCESSPOINT:STATE? -> :NETWORK:WLAN:ACCESSPOINT:STATE 1
解説	WLAN アプリケーションの使用を ON にすると、WLAN アプリケーションが使用可能になります。

**:NETWork:WLAN:COMMON:FWVersion?**

機能	WLAN モジュールの FW バージョンを問い合わせます。
構文	:NETWork:WLAN:COMMON:FWVersion?
例	:NETWork:WLAN:COMMON:FWVersion? -> :NETWork:WLAN:COMMON: FWVersion 1695438116

**:NETWork:WLAN:COMMON:HWVersion?**

機能	WLAN モジュールの HW バージョンを問い合わせます。
構文	:NETWork:WLAN:COMMON:HWVersion?
例	:NETWork:WLAN:COMMON:HWVersion? -> :NETWork:WLAN:COMMON: HWVersion 18448

**:NETWork:WLAN:COMMON:MACaddress?**

機能	WLAN モジュールの MAC アドレスを問い合わせます。
構文	:NETWork:WLAN:COMMON:MACaddress?
例	:NETWork:WLAN:COMMON:MACADDRESS? -> :NETWork:WLAN:COMMON: MACADDRESS "XXXXXXXXXXXX"

**:NETWork:WLAN:STATION:AUToconnect**

機能	ネットワークの自動再接続の ON/OFF を設定 / 問い合わせします。
構文	:NETWork:WLAN:STATION: AUToconnect <Boolean> :NETWork:WLAN:STATION:AUToconnect?
例	:NETWORK:WLAN:STATION:AUToCONNECT ON :NETWORK:WLAN:STATION:AUToCONNECT? -> :NETWORK:WLAN:STATION:AUToCONNECT 1

**:NETWork:WLAN:STATION:CONNect**

機能	ネットワークの WLAN ステーションモードを起動します。
構文	:NETWork:WLAN:STATION:CONNect :NETWORK:WLAN:STATION:CONNECT

**:NETWork:WLAN:STATION:DHCp**

機能	WLAN ステーションモードの DHCP の ON/OFF を設定 / 問い合わせします。
構文	:NETWORK:WLAN:STATION:DHCp <Boolean> :NETWork:WLAN:STATION:DHCp?
例	:NETWORK:WLAN:STATION:DHCp ON :NETWORK:WLAN:STATION:DHCp? -> :NETWORK:WLAN:STATION:DHCp 1

**:NETWork:WLAN:STATION:DISConnect**

機能	WLAN ステーションモードを停止します。
構文	:NETWork:WLAN:STATION:DISConnect :NETWORK:WLAN:STATION:DISCONNECT

**:NETWork:WLAN:STATION:GATEway**

機能	WLAN ステーションモードのゲートウェイを設定 / 問い合わせします。
構文	:NETWork:WLAN:STATION: GATEway <文字列> :NETWork:WLAN:STATION:GATEway? :NETWORK:WLAN:STATION: GATEWAY "255.255.255.0" :NETWORK:WLAN:STATION:GATEWAY? -> :NETWORK:WLAN:STATION: GATEWAY "255.255.255.0"

**:NETWork:WLAN:STATION:IPADDress**

機能	WLAN ステーションモードの IP アドレスを設定 / 問い合わせします。
構文	:NETWork:WLAN:STATION: IPADDress <文字列> :NETWork:WLAN:STATION:IPADDress? :NETWORK:WLAN:STATION: IPADDRESS "192.168.0.1" :NETWORK:WLAN:STATION:IPADDRESS? -> :NETWORK:WLAN:STATION: IPADDRESS "192.168.0.1"

## 5.12 NETWork グループ

### **:NETWork:WLAN:STATION:NETMask**

機能 WLAN ステーションモードのネットマスクを設定 / 問い合わせします。  
構文 :NETWork:WLAN:STATION:  
      NETMask <文字列>  
例 :NETWork:WLAN:STATION:  
      NETMASK "255.255.255.0"  
      :NETWork:WLAN:STATION:NETMask?  
      -> :NETWork:WLAN:STATION:  
          NETMASK "255.255.255.0"

### **:NETWork:WLAN:STATION:PASSWORD**

機能 WLAN ステーションモードのパスワードを設定 / 問い合わせします。  
構文 :NETWork:WLAN:STATION:  
      PASSWORD <文字列>  
例 :NETWork:WLAN:STATION:  
      PASSWORD "12345678"  
      :NETWork:WLAN:STATION:PASSWORD?  
      -> :NETWork:WLAN:STATION:  
          PASSWORD "12345678"

### **:NETWork:WLAN:STATION:SSID**

機能 WLAN ステーションモードの SSID を設定 / 問い合わせします。  
構文 :NETWork:WLAN:STATION:SSID <文字列>  
例 :NETWork:WLAN:STATION:SSID?  
      :NETWork:WLAN:STATION:SSID "12345678"  
      :NETWork:WLAN:STATION:SSID?  
      -> :NETWork:WLAN:STATION:  
          SSID "12345678"

### **:NETWork:WLAN:STATION:STATE?**

機能 WLAN ステーションモードの状態を問い合わせます。  
構文 :NETWork:WLAN:STATION:STATE?  
例 :NETWork:WLAN:STATION:STATE?  
      -> :NETWork:WLAN:STATION:STATE 1

### **:NETWork:WLAN:STATION:USEFixedssid**

機能 WLAN ステーションモードの固定 SSID の ON/OFF を設定 / 問い合わせします。  
構文 :NETWork:WLAN:STATION:  
      USEFixedssid <Boolean>  
例 :NETWork:WLAN:STATION:USEFixedssid?  
      :NETWork:WLAN:STATION:  
          USEFIXEDSSID ON  
      :NETWork:WLAN:STATION:USEFIXEDSSID?  
      -> :NETWork:WLAN:STATION:  
          USEFIXEDSSID 1

## 5.13 OSWitch グループ

OSWitch グループは、光スイッチ制御に関するグループです。フロントパネルでの操作と同じ設定、および設定内容の問い合わせができます。本機能は、AQ3550 光スイッチボックス接続時に有効です。

### :OSWitch:ENABLE?

機能 光スイッチが本機器に接続されているかを問い合わせます。  
構文 :OSWitch:ENABLE?  
0: 未接続状態  
1: 接続状態  
例 :OSWITCH:ENABLE? -> :OSWITCH:ENABLE 1  
解説 光スイッチの接続状態を出力します。

### :OSWitch:LINK:ENABLE

機能 光スイッチの連携を設定 / 問い合わせします。  
構文 :OSWitch:LINK:ENABLE <Boolean>  
:OSWitch:LINK:ENABLE?  
例 :OSWITCH:LINK:ENABLE 1  
:OSWITCH:LINK:ENABLE?  
-> :OSWITCH:LINK:ENABLE 1  
解説 本機器に接続されている光スイッチに対する光スイッチ連携機能の有効 / 無効を切り替えます。

### :OSWitch:LINK:NUMBER<x>

機能 光スイッチの連携チャンネルを設定 / 問い合わせします。  
構文 :OSWitch:LINK:NUMBER<x> <Boolean>  
:OSWitch:LINK:NUMBER<x>?  
<x> = 1 ~ 12  
例 :OSWITCH:LINK:NUMBER12 1  
:OSWITCH:LINK:NUMBER12?  
-> :OSWITCH:LINK:NUMBER12 1  
解説 本機器に接続されている光スイッチに対する光スイッチ連携機能について、チャンネル番号ごとの設定の有効 / 無効を切り替えます。

### :OSWitch:CHANNEL:NUMBER?

機能 本機器に接続されている光スイッチのチャンネル数 (入出力ポート) を問い合わせます。  
構文 :OSWitch:CHANNEL:NUMBER?  
例 :OSWITCH:CHANNEL:NUMBER?  
-> :OSWITCH:CHANNEL:NUMBER 12  
解説 光スイッチのチャンネル数を出力します。

### :OSWitch:CHANnel:SElect

機能 本機器に接続されている光スイッチのチャンネル番号を設定 / 問い合わせします。  
構文 :OSWitch:CHANnel:SElect <NRf>  
<NRf> = 1 ~ 12  
:OSWitch:CHANnel:SElect?  
例 :OSWITCH:CHANNEL:SELECT 8  
:OSWITCH:CHANNEL:SELECT?  
-> :OSWITCH:CHANNEL:SELECT 8  
解説 測定対象の光ファイバーケーブルが接続されている光スイッチのチャネル番号を選択できます。

## 5.14 PMETER グループ

PMETER グループは、光パワーメーターに関するグループです。フロントパネルでの操作と同じ設定、および設定内容の問い合わせができます。本機能は、/SPM、/HPM オプション付きの機種で有効です。

### :PMETER:AVERage:TIMes

機能 パワーメーターの平均化回数を設定 / 問い合わせします。  
構文 :PMETER:AVERage:TIMes {T1|T10|T50|T100}  
例 :PMETER:AVERage:TIMes?  
T1 : 1  
T10 : 10  
T50 : 50  
T100 : 100  
例 :PMETER:AVERage:TIMes T1  
:PMETER:AVERage:TIMes?  
-> :PMETER:AVERage:TIMes T1

### :PMETER:DREF

機能 パワーメーターの Dref を実行します。  
構文 :PMETER:DREF  
例 :PMETER:DREF

### :PMETER:LINK:STATE

機能 光源パワーメーター設定連動機能を設定 / 問い合わせします。  
構文 :PMETER:LINK:STATE <Boolean>  
例 :PMETER:LINK:STATE ON  
:PMETER:LINK:STATE?  
-> :PMETER:LINK:STATE 1

### :PMETER:MAXMin?

機能 パワーメーターの最大値、最小値に関するすべての設定値を問い合わせます。  
構文 :PMETER:MAXMin?  
例 :PMETER:MAXMIN?  
-> :PMETER:MAXMIN

### :PMETER:MAXMin:MAX?

機能 最大値を問い合わせます。  
構文 :PMETER:MAXMin:MAX?  
例 :PMETER:MAXMIN:MAX?  
-> :PMETER:MAXMIN:MAX 5.00  
解説 :PMETER:MAXMin:STATe が ON のときだけ問い合わせできます。

### :PMETER:MAXMin:MIN?

機能 最小値を問い合わせます。  
構文 :PMETER:MAXMin:MIN?  
例 :PMETER:MAXMIN:MIN?  
-> :PMETER:MAXMIN:MIN -5.00  
解説 :PMETER:MAXMin:STATe が ON のときだけ問い合わせできます。

### :PMETER:MAXMin:STATE

機能 MAX、MIN 表示の ON/OFF を設定 / 問い合わせします。  
構文 :PMETER:MAXMin:STATE <Boolean>  
例 :PMETER:MAXMin:STATE ON  
:PMETER:MAXMin:STATE?  
-> :PMETER:MAXMin:STATE 1

### :PMETER:MEASurement:DATA?

機能 パワーメーターの測定結果を問い合わせます。  
構文 :PMETER:MEASurement:DATA?  
例 :PMETER:MEASUREMENT:DATA?  
-> :PMETER:MEASUREMENT:DATA -26.5

### :PMETER:MODulation

機能 パワーメーターの変調を設定 / 問い合わせします。  
構文 :PMETER:MODulation {MOD\_270HZ|  
MOD\_CW|MOD\_1KHZ|MOD\_2KHZ}  
例 :PMETER:MODULATION MOD\_270HZ  
:PMETER:MODULATION?  
-> :PMETER:MODULATION MOD\_270HZ

### :PMETER:OFFSet

機能 パワーメーターのオフセットを設定 / 問い合わせします。  
構文 :PMETER:OFFSet <NRf>  
:PMETER:OFFSet?  
<NRf> = -9.900 ~ 9.900 (0.001 ステップ)  
例 :PMETER:OFFSET -9.900  
:PMETER:OFFSET?  
-> :PMETER:OFFSET -9.900

### :PMETER:REFerence

機能 パワーメーターの基準値を設定 / 問い合わせします。  
構文 :PMETER:REFerence <NRf>  
:PMETER:REFerence?  
<NRf> = -80.00 ~ 40.00 (0.01 ステップ) [dBm]  
例 :PMETER:REFERENCE -80.00  
:PMETER:REFERENCE?  
-> :PMETER:REFERENCE -80.00

**:PMETER:THreshold:LOWER**

機能 パワーメーターの下限しきい値を設定 / 問い合わせします。  
 構文 :PMETER:THreshold:LOWER <NRf>  
 <NRf> = -80.00 ~ 40.00 (0.01 ステップ) [dBm]  
 例 :PMETER:THRESHOLD:LOWER -80.00  
 :PMETER:THRESHOLD:LOWER?  
 -> :PMETER:THRESHOLD:LOWER -80.00

**:PMETER:THreshold:UPPer**

機能 パワーメーターの上限しきい値の設定 / 問い合わせします。  
 構文 :PMETER:THreshold:UPPer <NRf>  
 <NRf> = -80.00 ~ 40.00 (0.01 ステップ) [dBm]  
 例 :PMETER:THRESHOLD:UPPER -80.00  
 :PMETER:THRESHOLD:UPPER?  
 -> :PMETER:THRESHOLD:UPPER -80.00

**:PMETER:UNIT**

機能 パワーメーター表示単位を設定 / 問い合わせします。  
 構文 :PMETER:UNIT {DB|DBM|W}  
 :PMETER:UNIT?  
 例 :PMETER:UNIT DB  
 :PMETER:UNIT? -> :PMETER:UNIT DB

**:PMETER:WAVelength:DETaIl**

機能 パワーメーターの波長設定が詳細に設定されている場合の波長を設定 / 問い合わせします。  
 構文 :PMETER:WAVelength:DETaIl <NRf>  
 :PMETER:WAVelength:DETaIl?  
 <NRf> = 0.850um ~ 1.650um  
 (850E-09 ~ 1650E-09)  
 例 :PMETER:WAVELENGTH:DETAIl 0.85UM  
 :PMETER:WAVELENGTH:DETAIl 1650E-09  
 :PMETER:WAVELENGTH:DETAIl 1.650E-06  
 :PMETER:WAVELENGTH:DETAIl?  
 -> :PMETER:WAVELENGTH:DETAIl 1550E-09  
 解説 波長設定方式に簡易または CWDM を選択している場合、本コマンドを実行すると、詳細に設定されます。

**:PMETER:ZERoset**

機能 パワーメーターのゼロセットを実行します。  
 構文 :PMETER:ZERoset  
 例 :PMETER:ZEROSET

## 5.15 PMONitor グループ

PMONitor グループは、パワーモニターに関するグループです。フロントパネルでの操作と同じ設定、および設定内容の問い合わせができます。

### :PMONitor:DREF

機能 パワーモニターの Dref を実行します。  
構文 :PMONitor:DREF  
例 :PMONITOR:DREF

### :PMONitor:MAX?

機能 パワーモニターのスケール最大値を問い合わせます。  
構文 :PMONitor:MAX?  
例 :PMONITOR:MAX? -> :PMONITOR:MAX -5.0

### :PMONitor:MEASurement:DATA?

機能 パワーモニターの測定結果を問い合わせます。  
構文 :PMONitor:MEASurement:DATA?  
例 :PMONITOR:MEASUREMENT:DATA?  
-> :PMONITOR:MEASUREMENT:DATA -26.5

### :PMONitor:MIN?

機能 パワーモニターのスケール最小値を問い合わせます。  
構文 :PMONitor:MIN?  
例 :PMONITOR:MIN? -> :PMONITOR:MIN -50.0

### :PMONitor:OFFSet

機能 パワーモニターのオフセットを設定 / 問い合わせします。  
構文 :PMONitor:OFFSet <NRf>  
:PMONitor:OFFSet?  
<NRf> = -9.9 ~ 9.9  
例 :PMONITOR:OFFSET -5.0  
:PMONITOR:OFFSET?  
-> :PMONITOR:OFFSET -3.0

### :PMONitor:REFerence

機能 パワーモニターのリファレンスを設定 / 問い合わせします。  
構文 :PMONitor:REFerence <NRf>  
:PMONitor:REFerence?  
<NRf> = -50.0 ~ -5.0  
例 :PMONITOR:REFERENCE -45.00  
:PMONITOR:REFERENCE?  
-> :PMONITOR:REFERENCE -44.1

### :PMONitor:THreshold:LOWer

機能 パワーモニターのしきい値下限値を設定 / 問い合わせします。  
構文 :PMONitor:THreshold:Lower <NRf>  
:PMONitor:THreshold:Lower?  
<NRf> = -50.0 ~ -5.0  
例 :PMONITOR:THRESHOLD:LOWER -10  
:PMONITOR:THRESHOLD:LOWER?  
-> :PMONITOR:THRESHOLD:LOWER -10.0

### :PMONitor:THreshold:UPPer

機能 パワーモニターのしきい値上限値を設定 / 問い合わせします。  
構文 :PMONitor:THreshold:Upper <NRf>  
:PMONitor:THreshold:Upper?  
<NRf> = -50.0 ~ -5.0  
例 :PMONITOR:THRESHOLD:UPPER -10  
:PMONITOR:THRESHOLD:UPPER?  
-> :PMONITOR:THRESHOLD:UPPER -10.0

### :PMONitor:UNIT

機能 パワーモニターの表示単位を設定 / 問い合わせします。  
構文 :PMONitor:UNIT {DB|DBM|W}  
:PMONitor:UNIT?  
DB : dB 単位  
DBM : dBm 単位  
W : W 単位  
例 :PMONITOR:UNIT DB  
:PMONITOR:UNIT? -> :PMONITOR:UNIT DB

### :PMONitor:WAVelength

機能 パワーモニターの波長を設定 / 問い合わせします。  
構文 :PMONitor:WAVelength <NRf>  
:PMONitor:WAVelength?  
<NRf> = 0.850 um ~ 1.650 um  
(850E-09 ~ 1650E-09)  
例 :PMONITOR:WAVELLENGTH 0.85UM  
:PMONITOR:WAVELLENGTH 1650E-09  
:PMONITOR:WAVELLENGTH 1.650E-06  
:PMONITOR:WAVELLENGTH?  
-> :PMONITOR:WAVELANGTH 1550E-09

### :PMONitor:ZEROset

機能 パワーモニターのゼロセットを実行します。  
構文 :PMONitor:ZEROset  
例 :PMONITOR:ZEROSET

## 5.16 REPOrt グループ

REPOrt グループは、レポートに関するグループです。フロントパネルでの操作と同じ設定、および設定内容の問い合わせができます。

### :REPOrt:EXECute

機能 レポート作成を実行します。  
構文 :REPOrt:EXECute  
例 :REPORT:EXECUTE  
解説 レポート作成結果は、:FSYStem:PARAm:PATH により指定された場所に保存されます。

### :REPOrt:SET:EVENT:CONDITION

機能 レポート設定のイベント検出条件を設定 / 問い合わせをします。  
構文 :REPOrt:SET:EVENT:  
CONDITION <Boolean>  
例 :REPORT:SET:EVENT:CONDITION ON  
:REPORT:SET:EVENT:CONDITION?  
-> :REPORT:SET:EVENT:CONDITION 1

### :REPOrt:SET:EVENT:LIST

機能 レポート設定のイベントリストを設定 / 問い合わせをします。  
構文 :REPOrt:SET:EVENT:LIST <Boolean>  
例 :REPORT:SET:EVENT:LIST ON  
:REPORT:SET:EVENT:LIST?  
-> :REPORT:SET:EVENT:LIST 1

### :REPOrt:SET:FIBer

機能 レポート設定のファイバー端面画像を設定 / 問い合わせをします。  
構文 :REPOrt:SET:FIBer {OFF|AUTO}  
例 :REPORT:SET:FIBER AUTO  
:REPORT:SET:FIBER?  
-> :REPORT:SET:FIBER AUTO

### :REPOrt:SET:JUDGE

機能 レポート設定の Pass Fail 判定条件を設定 / 問い合わせをします。  
構文 :REPOrt:SET:JUDGE <Boolean>  
例 :REPORT:SET:JUDGE ON  
:REPORT:SET:JUDGE?  
-> :REPORT:SET:JUDGE 1

### :REPOrt:SET:MAP

機能 レポート設定の MAP 表示の設定 / 問い合わせをします。  
構文 :REPOrt:SET:MAP <Boolean>  
:REPORT:SET:MAP?  
例 :REPORT:SET:MAP ON  
:REPORT:SET:MAP?  
-> :REPORT:SET:MAP 1

### :REPOrt:SET:MEASure:CONDITION

機能 レポート設定の測定条件を設定 / 問い合わせをします。  
構文 :REPOrt:SET:MEASure:  
CONDITION <Boolean>  
例 :REPORT:SET:MEASURE:CONDITION ON  
:REPORT:SET:MEASURE:CONDITION?  
-> :REPORT:SET:MEASURE:CONDITION 1

### :REPOrt:SET:MEASure:INFO

機能 レポート設定の測定情報を設定 / 問い合わせをします。  
構文 :REPOrt:SET:MEASure:INFO <Boolean>  
例 :REPORT:SET:MEASURE:INFO ON  
:REPORT:SET:MEASURE:INFO?  
-> :REPORT:SET:MEASURE:INFO 1

### :REPOrt:SET:MEASure:RESULT

機能 レポート設定の測定結果を設定 / 問い合わせをします。  
構文 :REPOrt:SET:MEASure:RESULT <Boolean>  
例 :REPORT:SET:MEASURE:RESULT ON  
:REPORT:SET:MEASURE:RESULT?  
-> :REPORT:SET:MEASURE:RESULT 1

### :REPOrt:SET:OVERview

機能 レポート設定のオーバービューを設定 / 問い合わせをします。  
構文 :REPOrt:SET:OVERview <Boolean>  
例 :REPORT:SET:OVERVIEW ON  
:REPORT:SET:OVERVIEW?  
-> :REPORT:SET:OVERVIEW 1

### :REPOrt:SET:WAVE

機能 レポート設定の波形を設定 / 問い合わせをします。  
構文 :REPOrt:SET:WAVE <Boolean>  
例 :REPORT:SET:WAVE ON  
:REPORT:SET:WAVE?  
-> :REPORT:SET:WAVE 1

## 5.17 SETup グループ

SETup グループは、設定値の初期化に関するグループです。設定値を工場出荷時の状態と同じ設定にできます。

### **:SETup:ALLinit**

機能 すべての設定値を工場出荷状態に戻し、内蔵メモリーをフォーマットします。  
構文 :SETup:ALLInit  
例 :SETUP:ALLINIT

### **:SETup:INITialize**

機能 すべての設定値を工場出荷時の状態に戻します。  
構文 :SETup:INITialize  
例 :SETUP:INITIALIZE

## 5.18 STATus グループ

STATus グループは、通信のステータス機能に関する設定と問い合わせを行うグループです。このグループに相当するフロントパネルキーはありません。

### **:STATus?**

機能 通信のステータス機能に関する設定をすべて問い合わせます。

構文 :STATus?

例 :STATUS?  
-> :STATUS:QENABLE 1;QMESSAGE 1

### **:STATus:CONDition?**

機能 状態レジスタの内容を問い合わせます。

構文 :STATus:CONDition?

例 :STATUS:CONDITION? -> 16

解説 状態レジスタについては、「6.1 状態レジスタ」をご覧ください。

### **:STATus:ERRor?**

機能 発生したエラーのコードとメッセージの内容(エラーキューの先頭)を問い合わせます。

構文 :STATus:ERRor?

例 :STATUS:ERROR?  
-> 113,"Undefined header"

### **:STATus:QENable**

機能 エラー以外のメッセージをエラーキューに格納するかしないかを設定/問い合わせします。

構文 :STATus:QENable <Boolean>

例 :STATUS:QENABLE?  
:STATUS:QENABLE ON  
:STATUS:QENABLE? -> :STATUS:QENABLE 1

### **:STATus:QMESSage**

機能 :STATus:ERRor? の応答にメッセージ内容を付けるか付けないかを設定/問い合わせします。

構文 :STATus:QMESSage <Boolean>

例 :STATUS:QMESSAGE?  
:STATUS:QMESSAGE OFF  
:STATUS:QMESSAGE?  
-> :STATUS:QMESSAGE 0

## 5.19 SYSTem グループ

SYSTem グループは、起動に関するグループです。このグループに相当するフロントパネルキーはありません。

### **:SYSTem:REBoot**

機能 システムを再起動します。  
構文 :SYSTem:REBoot  
例 :SYSTEM:REBOOT  
解説 通信が切れるので、PC 側で TmcFinish( 切断 ) 命令を実行してください。

### **:SYSTem:SAVE**

機能 システム設定を保存します。  
構文 :SYSTem:SAVE  
例 :SYSTEM:SAVE

### **:SYSTem:SHUTdown**

機能 本機器をシャットダウンします。  
構文 :SYSTem:SHUTdown  
例 :SYSTEM:SHUTDOWN  
解説 通信が切れるので、PC 側で TmcFinish( 切断 ) 命令を実行してください。

## 5.20 VLS グループ

VLS グループは、可視光源に関するグループです。本機能は、VLS オプション付きの機種で有効です。フロントパネルでの操作と同じ設定、実行および設定内容の問い合わせができます。

### **:VLS:ABORT**

機能 可視光源の発光を停止します。  
構文 :VLS:ABORT  
例 :VLS:ABORT

### **:VLS:EXECUTE**

機能 可視光源の発光を開始します。  
構文 :VLS:EXECUTE  
例 :VLS:EXECUTE

### **:VLS:MODulation**

機能 可視光源の変調周波数を設定 / 問い合わせします。  
構文 :VLS:MODulation {CW|2Hz}  
例 :VLS:MODulation?  
:VLS:MODULATION CW  
:VLS:MODULATION? -> :VLS:MODULATION CW

### **:VLS:STATE**

機能 可視光源の発光を開始 / 停止します  
構文 :VLS:STATE <Boolean>  
例 :VLS:STATE?  
:VLS:STATE ON  
:VLS:STATE? -> :VLS:STATE 1  
解説 :VLS:STATE ON は :VLS:EXECUTE と同等です。  
:VLS:STATE OFF は :VLS:ABORT と同等です。  
:VLS:STATE? により、発光状態を問い合わせできます。

## 5.21 WAvedata グループ

WAvedata グループは、波形データに関するグループです。このグループに相当するフロントパネルキーはありません。

### :WAvedata:DISPLAY:SEND:ASCII?

機能 表示波形データをアスキiformで問い合わせます。  
構文 :WAvedata:DISPLAY:SEND:ASCII?  
例 :WAVEDATA:DISPLAY:SEND:ASCII?  
-> 0.000,1.234,....  
解説 アスキiformで波形データを画面表示分要求します。  
戻り値フォーマット：XXXXX,XXXXX,....  
戻り値例：45.000dB のときは、45000

### :WAvedata:DISPLAY:SEND:BINary?

機能 表示波形データをバイナリ形式 (unit 配列) で問い合わせます。  
構文 :WAvedata:DISPLAY:SEND:BINary?  
例 :WAVEDATA:DISPLAY:SEND:BINARY?  
-> #6123456ABCDEFGHJ1234567890....  
解説 ブロックデータ (バイナリ形式) で波形データを画面表示分要求します。  
戻り値は、0.001 dB 単位の値を 1000 倍した整数として得ることができます。1 データは 4 Byte で上位バイトから下位バイトの順で出力します (0.001 dB 単位)。たとえば 1000 という値は、1.000 dB を意味します。

### :WAvedata:DISPLAY:SEND:BINUshort?

機能 表示波形データをバイナリ形式 (ushort 配列) で問い合わせます。  
構文 :WAvedata:DISPLAY:SEND:BINUshort?  
例 :WAvedata:DISPLAY:SEND:BINUshort?  
-> #6123456ABCDEFGHJ1234567890  
解説 ブロックデータ (バイナリ形式) で波形データを画面表示分要求します。  
戻り値は、0.00 1dB 単位の値を 1000 倍した整数として得ることができます。1 データは 2 Byte で上位バイトから下位バイトの順で出力します (0.001 dB 単位)。たとえば 1000 という値は、1.000 dB を意味します。

### :WAvedata:LENGTH?

機能 波形データ数を問い合わせます。  
構文 :WAvedata:LENGTH?  
例 :WAVEDATA:LENGTH?  
-> :WAVEDATA:LENGTH 25000

### :WAvedata:OLDType:DISPLAY:SEND?

機能 表示波形データを Dot4 形式で問い合わせます。  
構文 :WAvedata:OLDType:DISPLAY:SEND?  
例 :WAVEDATA:OLDTYPE:DISPLAY:SEND?  
-> #42000....  
解説 ブロックデータ (バイナリ形式) で波形データを画面表示分要求します。  
戻り値は、データ × 250 の整数部を上位バイト、下位バイトの順で交互に出力 (0.001 dB 単位) します。

### :WAvedata:OLDType:SEND?

機能 波形データを Dot4 形式で問い合わせます。  
構文 :WAvedata:OLDType:SEND?  
例 :WAVEDATA:OLDTYPE:SEND?  
-> #6123456ABCDEFGHJ1234567890....  
解説 ブロックデータ (バイナリ形式) で波形データを全数要求します。  
戻り値は、データ × 250 の整数部を上位バイト、下位バイトの順で交互に出力 (0.001 dB 単位) します。

### :WAvedata:SEND:ASCII?

機能 波形データをアスキiformで問い合わせます。  
構文 :WAvedata:SEND:ASCII?  
例 :WAVEDATA:SEND:ASCII?  
-> 0.000,1.234,....  
解説 アスキiformで波形データを全数要求します。  
戻り値フォーマット：XX.XXX,XX.XXX,....

### :WAvedata:SEND:BINary?

機能 波形データをバイナリ形式 (uint 配列) で問い合わせます。  
構文 :WAvedata:SEND:BINary?  
例 :WAVEDATA:SEND:BINARY?  
-> #6123456ABCDEFGHJ1234567890....  
解説 ブロックデータ (バイナリ形式) で波形データを全数要求します。  
戻り値は、0.001 dB 単位の値を 1000 倍した整数として得ることができます。1 データは 4 Byte で上位バイトから下位バイトの順で出力します (0.001 dB 単位)。たとえば 1000 という値は、1.000 dB を意味します。

**:WAvedata:SEND:BINUshort?**

機能 波形データをバイナリ形式 (ushort 配列) で問い合わせます。

構文 :WAvedata:SEND:BINUshort?

例 :WAvedata:SEND:BINUshort?  
-> #6123456ABCDEFGHJ1234567890

解説 ブロックデータ (バイナリ形式) で波形データを全数要求します。  
戻り値は、0.001 dB 単位の値を 1000 倍した整数として得ることができます。1 データは 2 Byte で上位バイトから下位バイトの順で出力します。(0.001 dB 単位)。たとえば 1000 という値は、1.000 dB を意味します。

**:WAvedata:SEND:SIZE**

機能 波形データの取得数を設定 / 問い合わせします。

構文 :WAvedata:SEND:SIZE <NRf>  
:WAvedata:SEND:SIZE?  
<NRf> = 1 ~ 測定点数

例 :WAVEDATA:SEND:SIZE 20000  
:WAVEDATA:SEND:SIZE?  
-> :WAVEDATA:SEND:SIZE 20000

解説 設定範囲を超えた数値の場合は丸められます。

**:WAvedata:SEND:START**

機能 波形データの開始距離を設定 / 問い合わせします。

構文 :WAvedata:SEND:START <NRf>  
:WAvedata:SEND:START?  
<NRf> = 0 ~ 測定距離 (m)

例 :WAVEDATA:SEND:START 20000  
:WAVEDATA:SEND:START?  
-> :WAVEDATA:SEND:START 20000

解説 設定範囲を超えた数値の場合は丸められます。

## 5.22 共通コマンドグループ

### \*CLS (Clear Status)

機能	ステータスバイトレジスタにサマリーが反映されるすべてのイベントステータスレジスタをクリアします。
構文	*CLS
例	*CLS
解説	<ul style="list-style-type: none"><li>出力キューを除くすべてのキューと MAV サマリーメッセージを除くすべてのイベントレジスタをクリアします。</li><li>本コマンド実行後、OCIS(Operation Complete Command Idle State) および、OQIS(Operation Complete Query Idle State) になります。</li></ul>

### \*ESE (Standard Event Status Enable)

機能	標準イベントイネーブルレジスタを設定 / 問い合せします。
構文	*ESE<wsp><integer>
例	*ESE? <integer> = 0 ~ 255 *ESE 251 *ESE? -> 251
解説	<ul style="list-style-type: none"><li>ビットのセットされている項目が有効になります。</li><li>次の場合に初期値になります。 電源投入時 "0" をセットしたとき</li><li>次の場合は設定値を変更しません。 *RST (Reset) *CLS (Clear Status) デバイスクリア (DCL, SDC)</li><li>初期値は 0 です。</li></ul>

### \*ESR? (Standard Event Status Register)

機能	標準イベントステータスレジスタの値を問い合わせ、同時にクリアします。
構文	*ESR?
例	*ESR? -> 251

本クエリーの戻り値は、\*ESE (Standard Event Status Enable) には影響されません。

### \*IDN? (Identification)

機能	機器のタイプとファームウェアバージョンを問い合わせます。
構文	*IDN?
例	*IDN?
解説	-> YOKOGAWA, AQ7290, SN123456789, F1.01 カンマで区切られた4フィールドのデータを出力します。
	フィールド 1 : 製造業者 "YOKOGAWA"
	フィールド 2 : モデル "AQ7290"
	フィールド 3 : 本機器のシリアルナンバー "SN123456789"
	フィールド 4 : ファームウェアバージョン "F1.01"

### \*OPT? (Option)

機能	オプション情報を問い合わせます。
構文	*OPT?
例	*OPT? -> SPM, LAN SPM : 標準光/パワーメーター HPM : ハイパワー光パワーメーター PC : パワーチェッカー (AQ7293F のポート 2 は非対応) VLS : 可視光源 FST : ファイバー端面検査機能 MNT : 簡易監視機能 LAN : イーサネット SB : ショルダーベルト
解説	搭載されているオプションをカンマ (,) 区切りで返します。

### \*RST (Reset)

機能	デバイスリセットを実行し、本機器を既知の状態(初期状態)に戻します。
構文	*RST
例	*RST
解説	<ul style="list-style-type: none"><li>処理中の動作を停止し、ただちに本機器を既知の設定値(初期値)にします。</li><li>以下の項目は変更されません。 出力キュー *SRE (Service Request Enable) *ESE (Standard Event Status Enable) 本機器の仕様に影響するキャリブレーションデータ</li><li>通信設定はリセットされません。</li></ul>

**\*SRE (Service Request Enable)**

機能	サービスリクエストイネーブルレジスタを設定 / 問い合わせします。
構文	*SRE <wsp><integer> *SRE? <integer> = 0 ~ 255
例	*SRE 250 *SRE? -> 250
解説	<ul style="list-style-type: none"> <li>ビットのセットされている項目が有効になります。</li> <li>次の場合に初期値になります。</li> </ul> <p>電源投入時 "0" をセットしたとき</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>次の場合は設定値を変更しません。</li> </ul> <p>*RST (Reset) *CLS (Clear Status) デバイスクリア (DCL, SDC)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>初期値は 0 です。</li> </ul>

**\*STB? (Read Status Byte)**

機能	ステータスバイトレジスタの現在値を問い合わせます。
構文	*STB?
例	*STB? -> 251

解説 レジスタ内容を読み出しても、STB はクリアしません。

**\*TST? (Self Test)**

機能	本機器のセルフテストを実行します。
構文	*TST?
例	*TST? -> *TST
解説	正常なときは「0」、異常があるときは「1」が返されます。

## 6.1 状態レジスタ

状態レジスタは、機器の内部状態を表すレジスタです。

状態レジスタ

:STATus:CONDition?

15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
0	0	0	PRT	LS	PME	PMZ	PMM	0	AR	PC	FIA	AS	FILE	AVE	REAL

状態レジスタの各ビットの意味は、次のとおりです。

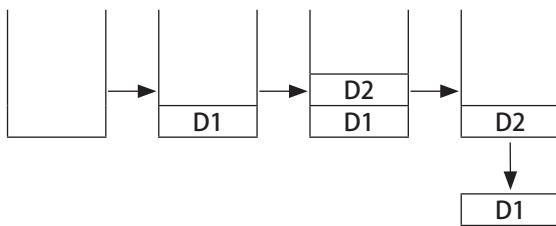
ビット 0	REAL	リアルタイム測定中は1になります。
ビット 1	AVE	平均化測定中は1になります。
ビット 2	FILE	ファイルアクセス中は1になります。
ビット 3	AS	オートサーチ中は1になります。
ビット 4	FIA	現用光チェック中は1になります。
ビット 5	PC	プラグチェック中は1になります。
ビット 6	AR	オートレンジ測定中は1になります。
ビット 8	PMM	パワーメータ測定中は1になります。
ビット 9	PMZ	パワーメータゼロセット中は1になります。
ビット 10	PME	パワーメータ測定エラー中は1になります。
ビット 11	LS	光源が発光中は1になります。
ビット 12	PRT	印刷中は1になります。

## 6.2 出力キューとエラーキュー

### 出力キュー

出力キューは、問い合わせ(クエリー)に対する応答メッセージを格納します。以下の例のように、データは順番に蓄えられ、古いものから読み出されます。読み出す以外にも、電源を再投入したときも、出力キューは空になります。

なお、\*CLS コマンドでは出力キューを空にすることはできません。出力キューが空であるかどうかは、ステータスバイトのビット 4(MAV) で確認できます。



### エラーキュー

エラーキューは、エラーが発生したときにその番号とメッセージを格納します。たとえば、コントローラが間違ったプログラムメッセージを送信したら、エラーが表示されたときに「113、"Undefined header"」という番号とエラーメッセージがエラーキューに格納されます。

エラーキューの内容は、:STATus:ERRor? クエリーで読み出すことができます。エラーキューは出力キューと同様に古いものから読み出されます。

エラーキューがあふれたときは、最後のメッセージを「350、"Queue overflow"」というメッセージに置き替えます。

読み出す以外にも次のときにエラーキューは空になります。

- \*CLS コマンドを受信したとき
- 電源の再投入

なお、エラーキューが空であるかどうかは、ステータスバイトのビット 2(EAV) で確認できます。

## 付録 1 エラーメッセージ

ここでは、通信に関するエラーメッセージについて説明します。

- ・本機器本体には日本語 / 英語のどちらでも表示できますが、PC などで読み出したときは英語で表示されます。
- ・サービスが必要なときは、お買い求め先まで修理をお申しつけください。
- ・ここに記載しているエラーメッセージは、通信に関するものに限定しています。通信以外のエラーメッセージについては、ユーザーズマニュアル IM AQ7290-01JA をご覧ください。

### 実行エラー Error in Execution

コード	メッセージ
50	*OPC/? がメッセージの途中にあります。 *OPC/? exists in message.
102	構文が間違っています。 Syntax error.
103	<DATA SEPARATOR> がありません。 Invalid separator.
104	<DATA> の種類が間違っています。 Data type error.
108	<DATA> が多すぎます。 Parameter not allowed.
109	必要な <DATA> がありません。 Missing parameter.
111	<HEADER SEPARATOR> がありません。 Header separator error.
112	<mnemonic> が長すぎます。 Program mnemonic too long.
113	そのような命令はありません。 Undefined header.
114	<HEADER> の数値が間違っています。 Header suffix out of range.
120	数値の仮数部分がありません。 Numeric data error.
123	指数が大きすぎます。 Exponent too large.
124	有効桁数が多すぎます。 Too many digits.
128	数値データは使えません。 Numeric data not allowed.
131	単位が間違っています。 Invalid suffix.
134	単位のつづりが長すぎます。 Suffix too long.
138	単位は使えません。 Suffix not allowed.
141	そのような選択肢はありません。 Invalid character data.
144	<CHARACTER DATA> のつづりが長すぎます。 Character data too long.
148	<CHARACTER DATA> は使えません。 Character data not allowed.
150	<STRING DATA> の右の区切りがありません。 String data error.

## 付録1 エラーメッセージ

コード	メッセージ
151	<STRING DATA> の内容が不適切です。 Invalid string data.
158	<STRING DATA> は使えません。 String data not allowed.
161	<BLOCK DATA> のデータ長が合っていません。 Invalid block data.
168	<BLOCK DATA> は使えません。 Block data not allowed.
171	<EXPRESSION DATA> の中に許されない文字があります。 Invalid expression.
178	<EXPRESSION DATA> は使えません。 Expression data not allowed.
181	プレースホルダがマクロの外にあります。 Invalid outside macro definition.
221	設定内容に矛盾があります。 Setting conflict.
222	データの値が範囲外です。 Data out of range.
223	データの値が不適当です。 Data invalid.
224	データの値が不適当です。 Illegal parameter value.
241	ハードウェアが実装されていません。 Hardware missing.
260	<EXPRESSION DATA> が間違っています。 Expression error.
270	マクロのネストが深すぎます。 Macro error.
272	マクロでは使用できません。 Macro execution error.
273	マクロラベルが不適当です。 Improper macro label.
275	マクロが長すぎます。 Macro definition too long.
276	マクロが再帰呼び出しされました。 Macro recursion error.
277	マクロの二重定義はできません。 Macro redefinition not allowed.
278	そのようなマクロは定義されていません。 Macro header not found.
350	エラーキューがオーバーフローしました。 Queue overflow.
410	応答の送信が中断されました。 Query INTERRUPTED.
420	送信できる応答がありません。 Query UNTERMINATED.
430	送受信がデッドロックしました。 Query DEADLOCKED.
440	応答を要求する順番が間違っています。 Query UNTERMINATED after indefinite response.

## 付録 2 旧機種 (AQ7280、AQ1210 シリーズなど) のコマンドの互換性情報

AQ7280、AQ1210 シリーズなどの旧機種のコマンドの一部は、機能の互換性の影響により、本機器での使用は推奨されていません。本機器では次の代替コマンドをご使用ください。

### 非推奨コマンド (旧機種のコマンド)

- FILE グループ
- NETWork:WLANSMode グループ
- NETWork:WLANCommon グループ

### 代替コマンド (本機器のコマンド)

- FSYSem グループ
- NETWork:WLAN:ACCesspoint グループ
- NETWork:WLAN:COMMON グループ

### 非推奨コマンドと代替コマンドの対応表

#### FILE グループ

カレントフォルダーを基準とした相対パスで、ファイルの保存、読み込み、操作をするコマンドです。本機器では FSYSem グループのコマンドをお使いください。

#### Note

- FSYSem グループは、システム全体で一貫した絶対パスでファイルを操作するコマンドです。
- FSYSem グループのコマンドで、旧機種の FILE グループのコマンドと類似の操作が可能ですが、一部の動作やパラメータが異なります。詳細は 5.7 節で FSYSem グループのコマンドをご確認ください。

機能	非推奨コマンド	代替コマンド
	FILE グループ (付 -6 ページ参照)	→ FSYSem グループ (5.7 節参照)
ファイルの削除を実行します。	:FILE:DELeTe:EXECute	:FSYSem:FOLDer:DELeTe :FSYSem:FILE:DELeTe
カレントドライブの空き容量を問い合わせます。	:FILE:DRIVE:FREE?	:FSYSem:FREE?
カレントドライブ設定を設定 / 問い合わせします。	:FILE:DRIVE:SET	FSYSem グループでは不要 (カレントの概念がありません) :FSYSem:PARAm:PATH :FSYSem:PARAm:DESTination:PATH
指定されたファイルを取得します。	:FILE:FILE:GET?	:FSYSem:FILE:GET?
指定されたファイルが存在するかどうか確認します。	:FILE:FILE:EXIST?	:FSYSem:EXIST?
ファイル取得、ファイルサイズ取得、ファイル送信で扱うファイル名を指定します。	:FILE:FILE:NAME	:FSYSem:PARAm:PATH :FSYSem:PARAm:DESTination:PATH
指定されたファイルのサイズを取得します。	:FILE:FILE:SIZE?	:FSYSem:SIZE?
カレントフォルダーの一覧を取得します。	:FILE:FOLDer:LIST?	:FSYSem:LIST?
フォルダーの作成を実行します。	:FILE:FOLDer:MAKE	:FSYSem:FOLDer:MAKE

## 付録 2 旧機種 (AQ7280、AQ1210 シリーズなど) のコマンドの互換性情報

機能	代替コマンド
非推奨コマンド FILE グループ (付-6 ページ参照)	代替コマンド → FSYStem グループ (5.7 節参照)
カレントフォルダー名を設定 / 問い合わせします。 (現在位置から相対で 1 階層づつ移動します。 ".. " で 1 階層上に戻ります。)	FSYStem グループでは不要 (カレントの概念がありません)
:FILE: FOLDer: PATH	:FSYStem: PARAm: PATH
	:FSYStem: PARAm: DESTination: PATH
ファイルの再生を実行します。	
:FILE: LOAD: EXECute	:FSYStem: LOAD
保存時のコメントを設定 / 問い合わせします。	
:FILE: SAVE: COMMENT1 ~	:FSYStem: SAVE では不要
:FILE: SAVE: COMMENT10	:FSYStem: PARAm: NAME
ファイルの保存を実行します。	
:FILE: SAVE: EXECute	:FSYStem: SAVE
保存時の管理番号を設定 / 問い合わせします。	
:FILE: SAVE: ID	:FSYStem: SAVE では不要
	:FSYStem: PARAm: NAME
保存時のファイル名に使用するアイテムを設定 / 問い合わせします。	
:FILE: SAVE: ITEM<x>	:FSYStem: SAVE では不要
	:FSYStem: PARAm: NAME
ファイル保存のセパレータを設定 / 問い合わせします。	
:FILE: SAVE: SEParator	:FSYStem: SAVE では不要
	:FSYStem: PARAm: NAME
保存時のサブ番号を設定 / 問い合わせします。	
:FILE: SAVE: SUB	:FSYStem: SAVE では不要
	:FSYStem: PARAm: NAME
保存時のファイル名タイプを設定 / 問い合わせします。	
:FILE: SAVE: TYPE	:FSYStem: SAVE では不要
	:FSYStem: PARAm: NAME
SOR ファイルイメージの有効 / 無効を問い合わせます。	
:FILE: SOR: VALid?	:FSYStem: WAVE: VALid?
SOR ファイルイメージを取得します。	
:FILE: SOR: GET?	:FSYStem: WAVE: GET?
カレントフォルダーのサブフォルダ一覧を取得します。	
:FILE: SUBFolder: LIST?	:FSYStem: LIST?
保存時のファイルタイプを設定 / 問い合わせします。	
:FILE: TYPE	:FSYStem: SAVE では不要
	:FSYStem: PARAm: NAME の拡張子から自動で判別します。

## NETWork:WLAnApmode グループ

無線 LAN のアクセスポイントモードの設定に関する AQ1210 シリーズのコマンドです。

本機器では、NETWork:WLAn:ACCesspoint グループのコマンドをお使いください。

機能	代替コマンド
非推奨コマンド NETWork:WLAnApmode グループ (付-12 ページ参照)	代替コマンド → NETWork:WLAn:ACCesspoint グループ (5-50 ページ参照)
WLAN AP Mode の SSID を設定 / 問い合わせします。	
:NETWork: WLAnApmode: SSID	:NETWork: WLAn: ACCesspoint: SSID
WLAN AP Mode の暗号化タイプを設定 / 問い合わせします。	
:NETWork: WLAnApmode: ENCrypt	:NETWork: WLAn: ACCesspoint: ENCrypt

## 付録2 旧機種(AQ7280、AQ1210シリーズなど)のコマンドの互換性情報

機能	非推奨コマンド	代替コマンド
	NETWork:WLAnApmode グループ(付-12ページ参照)	→ NETWork:WLAn:ACCesspoint グループ(5-50ページ参照)
	WLAN AP Mode のパスワードを設定/問い合わせします。	
	:NETWork:WLAnApmode:PASSword	:NETWork:WLAn:ACCesspoint:PASSword
	WLAN AP Mode のチャンネルを設定します。	
	:NETWork:WLAnApmode:Channel	:NETWork:WLAn:ACCesspoint:Channel
	WLAN AP Mode の IP アドレスを設定/問い合わせします。	
	:NETWork:WLAnApmode:IPAdddress	:NETWork:WLAn:ACCesspoint:IPAdddress
	WLAN AP Mode のネットマスクを設定/問い合わせします。	
	:NETWork:WLAnApmode:NETMask	:NETWork:WLAn:ACCesspoint:NETMask
	WLAN AP Mode の DHCP サーバーが割り振る IP アドレスの開始アドレスを設定/問い合わせします。	
	:NETWork:WLAnApmode:DHCPSstartaddr	:NETWork:WLAn:ACCesspoint:DHCPSstartaddr
	WLAN AP Mode を ON/OFF します。	
	:NETWork:WLAnApmode:STATE	:NETWork:WLAn:ACCesspoint:STATE

## NETWork:WLAnCommon グループ

WLAN モジュールの設定に関する AQ1210 シリーズのコマンドです。

本機器では、NETWork:WLAn:COMMON グループのコマンドをお使いください。

機能	非推奨コマンド	代替コマンド
	NETWork:WLAnCommon グループ(付-13ページ参照)	→ NETWork:WLAn:COMMON グループ(5-51ページ参照)
	WLAN モジュールの FW バージョンを問い合わせます。	
	:NETWork:WLAnCommon:FWVersion?	:NETWork:WLAn:COMMON:FWVersion?
	WLAN モジュールの HW バージョンを問い合わせます。	
	:NETWork:WLAnCommon:HWVersion?	:NETWork:WLAn:COMMON:HWVersion?
	WLAN モジュールの MAC アドレスを問い合わせます。	
	:NETWork:WLAnCommon:MACaddress?	:NETWork:WLAn:COMMON:MACaddress?

## 付録 3 非推奨コマンド(旧機種のコマンド)

次のコマンドグループは、AQ7280、AQ1210 シリーズなどの旧機種で使われているコマンドです。

- FILE グループ
- NETWork:WLANApmode グループ
- NETWork:WLANCommon グループ

本機器では、機能の互換性の影響により別のコマンドに変更されているため、これらのコマンドの使用は推奨されていません。

本機器で使用できる代替コマンドは、各コマンドの「解説」、付録 2 の「非推奨コマンドと代替コマンドの対応表」をご覧ください。

### FILE グループ

FILE グループは、AQ7280、AQ1210 シリーズなどで使われてきたコマンドです。データを保存したり、そのデータを読み込んだりする操作に関するグループで、カレントフォルダーを基準としたファイル操作を行います。

フロントパネルでの操作と同じ設定・実行、および設定内容の問い合わせができます。

#### Note

本機器の FSYSstem グループのコマンドで、旧機種の FILE グループのコマンドと類似の操作が可能ですが、一部の動作やパラメータが異なります。詳細は、「5.7 FSYSstem グループ」をご確認ください。

#### :FILE:DELetE:EXECute

機能 ファイルの削除を実行します。  
構文 :FILE:DELetE:EXECute <文字列>  
<文字列> = ファイル名またはフォルダーネ名  
例 :FILE:DELetE:EXECute "0001.SOR"  
解説 フォルダーも削除できます。  
本機器では次のコマンドをお使いください。  
:FSYSstem:FOLDer:DELetE  
:FSYSstem:FILE:DELetE

#### :FILE:DRIVe:FREE?

機能 カレントドライブの空き容量を問い合わせます。  
構文 :FILE:DRIVe:FREE?  
例 :FILE:DRIVe:FREE? -> 1234567  
解説 値はバイト数です。  
本機器では次のコマンドをお使いください。  
:FSYSstem:FREE?

#### :FILE:DRIVe:SET

機能 カレントドライブ設定を設定 / 問い合わせします。  
構文 :FILE:DRIVe:SET {INTERNAL|SD|USB1|USB2}  
:FILE:DRIVe:SET?  
INTERNAL : 内蔵メモリー  
SD : SD メモリーカード (外部メモリー)  
USB1 : USB メモリー 1  
USB2 : USB メモリー 2  
例 :FILE:DRIVe:SET USB1  
:FILE:DRIVe:SET?  
-> :FILE:DRIVe:SET INTERNAL  
解説 レポートの出力先もこのコマンドで指定したドライブになります。  
本機器では次のコマンドをお使いください。  
FSYSstem グループではカレントドライブの設定は不要 (カレントの概念がありません)。  
:FSYSstem:PARAm:PATH  
:FSYSstem:PARAm:DESTination:PATH

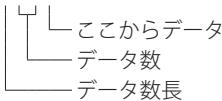
**Note**

本機器のFSYStem グループのコマンドで、旧機種のFILE グループのコマンドと類似の操作が可能ですが、一部の動作やパラメータが異なります。詳細は、「5.7 FSYStem グループ」をご確認ください。

**:FILE:FILE:EXIST?**

機能 指定されたファイルが存在するかどうか確認します。  
 構文 :FILE:FILE:EXIST?  
 例 :FILE:FILE:EXIST?  
 -> :FILE:FILE:EXIST 1  
 解説 ファイルが存在する場合は1、ファイルが存在しない場合は0を返します。  
 本機器では次のコマンドをお使いください。  
 :FSYStem:EXIST?

**:FILE:FILE:GET?**

機能 指定されたファイルを問い合わせます。  
 構文 :FILE:FILE:GET?  
 例 :FILE:FILE:GET?  
 -> #220ABCDEFGH1234567890  
 解説 読み込みデータの先頭にロックデータヘッダーが付加されます。  
 #220ABCDEFGH1234567890  
  
 本機器では次のコマンドをお使いください。  
 :FSYStem:FILE:GET?

**:FILE:FILE:NAME**

機能 ファイル取得、ファイルサイズ取得、ファイル送信で扱うファイル名を指定します。  
 構文 :FILE:FILE:NAME <文字列>  
 :FILE:FILE:NAME?  
 例 :FILE:FILE:NAME "0.SOR"  
 :FILE:FILE:NAME?  
 -> :FILE:FILE:NAME "0.sor"  
 解説 • 次に示す文字はフォルダーネームに使えません。  
 "、\*、/、:、<、>、?、¥、|  
 • 次に示す文字列はフォルダーネームに使えません。  
 "AUX"、"CON"、"PRN"、"NUL"、"CLOCK"、  
 "LPT1"、"LPT2"、"LPT3"、"LPT4"、"LPT5"、  
 "LPT6"、"LPT7"、"LPT8"、"LPT9"、"COM1"、  
 "COM2"、"COM3"、"COM4"、"COM5"、  
 "COM6"、"COM7"、"COM8"、"COM9"  
 本機器では次のコマンドをお使いください。  
 :FSYStem:PARAm:PATH  
 :FSYStem:PARAm:DESTination:PATH

**:FILE:FILE:SIZE?**

機能 指定されたファイルのサイズを問い合わせます。  
 構文 :FILE:FILE:SIZE?  
 例 :FILE:FILE:SIZE?  
 -> :FILE:FILE:SIZE 230781  
 解説 本機器では次のコマンドをお使いください。  
 :FSYStem:SIZE?

**:FILE:FOLDer:LIST?**

機能 カレントフォルダーライフを問い合わせます。  
 構文 :FILE:FOLDer:LIST?  
 例 :FILE:FOLDer:LIST?  
 -> :FILE:FOLDER:  
 LIST "3,ABC.SOR,DEF.SOR,MACRO/"  
 解説 「個数、ファイルまたはフォルダー、…、ファイルまたはフォルダー」のように返します。フォルダーの場合はフォルダーネームの最後に「/」をつけて返します。  
 本機器では次のコマンドをお使いください。  
 :FSYStem:LIST?

**:FILE:FOLDer:MAKE**

機能 フォルダの作成を実行します。  
 構文 :FILE:FOLDer:MAKE <文字列>  
 <文字列> = フォルダーネーム  
 例 :FILE:FOLDer:MAKE "Data"  
 解説 本機器では次のコマンドをお使いください。  
 :FSYStem:FOLDer:MAKE

### 付録3 非推奨コマンド(旧機種のコマンド)

#### Note

本機器のFSYStem グループのコマンドで、旧機種のFILE グループのコマンドと類似の操作が可能ですが、一部の動作やパラメータが異なります。詳細は、「5.7 FSYStem グループ」をご確認ください。

#### :FILE:FOLDer:PATH

機能	カレントフォルダ名を設定 / 問い合わせします。
構文	:FILE:FOLDer:PATH <文字列> <文字列> = フォルダ名
例	:FILE:FOLDer:PATH "AQ7280" :FILE:FOLDer:PATH? -> :FILE:FOLDer:PATH "AQ7280"
解説	<ul style="list-style-type: none"><li>現在位置から相対で1階層づつ移動します (".." で1階層上に戻ります)。</li><li>次に示す文字はフォルダ名に使えません。"、*、/、:、&lt;、&gt;、?、¥、 </li><li>次に示す文字列はフォルダ名に使えません。"AUX"、"CON"、"PRN"、"NUL"、"CLOCK"、"LPT1"、"LPT2"、"LPT3"、"LPT4"、"LPT5"、"LPT6"、"LPT7"、"LPT8"、"LPT9"、"COM1"、"COM2"、"COM3"、"COM4"、"COM5"、"COM6"、"COM7"、"COM8"、"COM9"</li><li>レポートの出力先もこのコマンドで指定したパスになります。</li></ul> <p>本機器では次のコマンドをお使いください。 FSYStem グループではカレントフォルダ名の設定は不要(カレントの概念がありません。)</p> <p>:FSYStem:PARAm:PATH :FSYStem:PARAm:DESTination:PATH</p>

#### :FILE:LOAD:EXECute

機能	ファイルの再生を実行します。
構文	:FILE:LOAD:EXECute <文字列> <文字列> = ファイル名
例	:FILE:LOAD:EXECUTE "0001.SOR"
解説	本機器では次のコマンドをお使いください。 :FSYStem:LOAD

#### :FILE:SAVE:COMMent1

機能	保存時のコメント1を設定 / 問い合わせします。
構文	:FILE:SAVE:COMMent1 <文字列> :FILE:SAVE:COMMent1?
例	:FILE:SAVE:COMMent1 "AQ7280" :FILE:SAVE:COMMent1? -> "AQ7280"
解説	最大で30文字設定できます。 本機器では次のコマンドをお使いください。 :FSYStem:SAVE ではコメントの設定は不要 :FSYStem:PARAm:NAME

#### :FILE:SAVE:COMMent2

機能	保存時のコメント2を設定 / 問い合わせします。
構文	:FILE:SAVE:COMMent2 <文字列> :FILE:SAVE:COMMent2?
例	:FILE:SAVE:COMMent2 "AQ7280" :FILE:SAVE:COMMent2? -> "AQ7280"
解説	最大で30文字設定できます。 本機器では次のコマンドをお使いください。 :FSYStem:SAVE ではコメントの設定は不要 :FSYStem:PARAm:NAME

#### :FILE:SAVE:COMMent3

機能	保存時のコメント3を設定 / 問い合わせします。
構文	:FILE:SAVE:COMMent3 <文字列> :FILE:SAVE:COMMent3?
例	:FILE:SAVE:COMMent3 "AQ7280" :FILE:SAVE:COMMent3? -> "AQ7280"
解説	最大で30文字設定できます。 本機器では次のコマンドをお使いください。 :FSYStem:SAVE ではコメントの設定は不要 :FSYStem:PARAm:NAME

#### :FILE:SAVE:COMMent4

機能	保存時のコメント4を設定 / 問い合わせします。
構文	:FILE:SAVE:COMMent4 <文字列> :FILE:SAVE:COMMent4?
例	:FILE:SAVE:COMMent4 "AQ7280" :FILE:SAVE:COMMent4? -> "AQ7280"
解説	最大で30文字設定できます。 本機器では次のコマンドをお使いください。 :FSYStem:SAVE ではコメントの設定は不要 :FSYStem:PARAm:NAME

#### :FILE:SAVE:COMMent5

機能	保存時のコメント5を設定 / 問い合わせします。
構文	:FILE:SAVE:COMMent5 <文字列> :FILE:SAVE:COMMent5?
例	:FILE:SAVE:COMMent5 "AQ7280" :FILE:SAVE:COMMent5? -> "AQ7280"
解説	最大で30文字設定できます。 本機器では次のコマンドをお使いください。 :FSYStem:SAVE ではコメントの設定は不要 :FSYStem:PARAm:NAME

**Note**

本機器のFSYStem グループのコマンドで、旧機種のFILE グループのコマンドと類似の操作が可能ですが、一部の動作やパラメータが異なります。詳細は、「5.7 FSYStem グループ」をご確認ください。

**:FILE:SAVE:COMMent6**

機能 保存時のコメント 6 を設定 / 問い合わせします。  
 構文 :FILE:SAVE:COMMent6 <文字列>  
      :FILE:SAVE:COMMent6?  
 例 :FILE:SAVE:COMMENT6 "AQ7280"  
      :FILE:SAVE:COMMENT6? -> "AQ7280"  
 解説 最大で 30 文字設定できます。  
      本機器では次のコマンドをお使いください。  
      :FSYStem:SAVE ではコメントの設定は不要  
      :FSYStem:PARAm:NAME

**:FILE:SAVE:COMMent7**

機能 保存時のコメント 7 を設定 / 問い合わせします。  
 構文 :FILE:SAVE:COMMent7 <文字列>  
      :FILE:SAVE:COMMent7?  
 例 :FILE:SAVE:COMMENT7 "AQ7280"  
      :FILE:SAVE:COMMENT7? -> "AQ7280"  
 解説 最大で 30 文字設定できます。  
      本機器では次のコマンドをお使いください。  
      :FSYStem:SAVE ではコメントの設定は不要  
      :FSYStem:PARAm:NAME

**:FILE:SAVE:COMMent8**

機能 保存時のコメント 8 を設定 / 問い合わせします。  
 構文 :FILE:SAVE:COMMent8 <文字列>  
      :FILE:SAVE:COMMent8?  
 例 :FILE:SAVE:COMMENT8 "AQ7280"  
      :FILE:SAVE:COMMENT8? -> "AQ7280"  
 解説 最大で 30 文字設定できます。  
      本機器では次のコマンドをお使いください。  
      :FSYStem:SAVE ではコメントの設定は不要  
      :FSYStem:PARAm:NAME

**:FILE:SAVE:COMMent9**

機能 保存時のコメント 9 を設定 / 問い合わせします。  
 構文 :FILE:SAVE:COMMent9 <文字列>  
      :FILE:SAVE:COMMent9?  
 例 :FILE:SAVE:COMMENT9 "AQ7280"  
      :FILE:SAVE:COMMENT9? -> "AQ7280"  
 解説 最大で 30 文字設定できます。  
      本機器では次のコマンドをお使いください。  
      :FSYStem:SAVE ではコメントの設定は不要  
      :FSYStem:PARAm:NAME

**:FILE:SAVE:COMMent10**

機能 保存時のコメント 10 を設定 / 問い合わせします。  
 構文 :FILE:SAVE:COMMent10 <文字列>  
      :FILE:SAVE:COMMent10?  
 例 :FILE:SAVE:COMMENT10 "AQ7280"  
      :FILE:SAVE:COMMENT10? -> "AQ7280"  
 解説 最大で 30 文字設定できます。  
      本機器では次のコマンドをお使いください。  
      :FSYStem:SAVE ではコメントの設定は不要  
      :FSYStem:PARAm:NAME

**:FILE:SAVE:EXECute**

機能 ファイルの保存を実行します。  
 構文 :FILE:SAVE:EXECute  
 例 :FILE:SAVE:EXECUTE  
 解説 保存後のエラー確認は、STATus:CONDition? で  
      ファイルアクセス中の状態が終わってから、  
      STATus:ERRor でエラーを確認してください。  
      (6.1 節 状態レジスタ参照)  
      本機器では次のコマンドをお使いください。  
      :FSYStem:SAVE

**:FILE:SAVE:ID**

機能 保存時の管理番号を設定 / 問い合わせします。  
 構文 :FILE:SAVE:ID <NRf>  
      :FILE:SAVE:ID?  
      <NRf> = 0 ~ 9999  
 例 :FILE:SAVE:ID 100  
      :FILE:SAVE:ID? -> :FILE:SAVE:ID 100  
 解説 本機器では次のコマンドをお使いください。  
      :FSYStem:SAVE では管理番号の設定は不要  
      :FSYStem:PARAm:NAME

### 付録3 非推奨コマンド(旧機種のコマンド)

#### Note

本機器のFSYStem グループのコマンドで、旧機種のFILE グループのコマンドと類似の操作が可能ですが、一部の動作やパラメータが異なります。詳細は、「5.7 FSYStem グループ」をご確認ください。

#### :FILE:SAVE:ITEM<x>

機能 保存する項目を設定 / 問い合わせします。  
構文 :FILE:SAVE:ITEM<x> {NONE|WAVELENGTH|  
ID|COMMENT1|COMMENT2|COMMENT3|  
COMMENT4|COMMENT5|COMMENT6|COMMENT7|  
COMMENT8|COMMENT9|COMMENT10|COMPANY|  
OPERATOR|CABLEID|FIBERID|FIBERTYPE|  
CABLECODE|ORIGINATING|TERMINATING}  
:FILE:SAVE:ITEM<x>?  
<x> = 1 ~ 10  
NONE : なし  
WAVELENGTH : 波長  
ID : 管理番号  
COMMENT1 ~ 10 : コメント 1 ~ 10  
COMPANY : 会社名  
OPERATOR : 氏名  
CABLEID : ケーブル ID  
FIBERID : ファイバー ID  
FIBERTYPE : ファイバータイプ  
CABLECODE : ケーブルコード  
ORIGINATING : 開始位置  
TERMINATING : 終了位置  
例 :FILE:SAVE:ITEM1 WAVELENGTH  
:FILE:SAVE:ITEM1?  
-> :FILE:SAVE:ITEM WAVELENGTH  
解説 <x> = 1 のときは、NONE は設定できません。  
本機器では次のコマンドをお使いください。  
:FSYStem:SAVE では保存する項目の設定は不要  
:FSYStem:PARAm:NAME

#### :FILE:SAVE:SEParator

機能 保存時のセパレータを設定 / 問い合わせします。  
構文 :FILE:SAVE:SEParator {NONE|UNDERBAR|  
TILDE|HAT}  
:FILE:SAVE:SEParator?  
NONE : なし  
UNDERBAR : アンダーバー(\_)  
TILDE : チルダ (~)  
HAT : ハット (^)  
例 :FILE:SAVE:SEPARATOR UNDERBAR  
:FILE:SAVE:SEPARATOR?  
-> :FILE:SAVE:SEPARATOR UNDERBAR  
解説 本機器では次のコマンドをお使いください。  
:FSYStem:SAVE ではセパレータの設定は不要  
:FSYStem:PARAm:NAME

#### :FILE:SAVE:SUB

機能 保存時のサブ番号を設定 / 問い合わせします。  
構文 :FILE:SAVE:SUB {OFF|AB|AC|AD|AE|AF|  
AG|AH}  
:FILE:SAVE:SUB?  
OFF : OFF AE : a-e  
AB : a-b AF : a-f  
AC : a-c AG : a-g  
AD : a-d AH : a-h  
例 :FILE:SAVE:SUB AH  
:FILE:SAVE:SUB? -> :FILE:SAVE:SUB OFF  
解説 本機器では次のコマンドをお使いください。  
:FSYStem:SAVE ではサブ番号の設定は不要  
:FSYStem:PARAm:NAME

#### :FILE:SAVE:TYPE

機能 保存時のファイル名タイプを設定 / 問い合わせします。  
構文 :FILE:SAVE:TYPE {NO|COMMENT|CMNO|  
NOCM|CMWLNO|NOCMWL|WLCMNO}  
:FILE:SAVE:TYPE?  
NO : 番号  
COMMENT : コメント  
CMNO : コメント + 番号  
NOCM : 番号 + コメント  
CMWLNO : コメント + 波長 + 番号  
NOCMWL : 番号 + コメント + 波長  
WLCMNO : 波長 + コメント + 番号  
例 :FILE:SAVE:TYPE COMMENT  
:FILE:SAVE:TYPE?  
-> :FILE:SAVE:TYPE CMWLNO  
解説 • :FILE:SAVE:ITEM<x> の簡易設定です。  
• 番号 (管理番号 : ID)、コメント (COMMENT)、  
波長 (WAVELENGTH) 以外の項目の場合は、  
"UNKNOWN" を返します。  
本機器では次のコマンドをお使いください。  
:FSYStem:SAVE ではファイル名タイプの設定は  
不要  
:FSYStem:PARAm:NAME

**Note**

本機器のFSYStem グループのコマンドで、旧機種のFILE グループのコマンドと類似の操作が可能ですが、一部の動作やパラメータが異なります。詳細は、「5.7 FSYStem グループ」をご確認ください。

**:FILE:SOR:GET?**

機能 SOR ファイルイメージを問い合わせます。  
 構文 :FILE:SOR:GET?  
 例 :FILE:SOR:GET? -> #6123456ABCDEFGHJ  
 解説
 

- SOR 測定データが有効に設定されているときに取得できます。
- :FILE:SOR:VALId? コマンドを使って、SOR 測定データが有効かどうかを確認できます。
- ブロックデータ(バイナリ形式)で SOR ファイルイメージを取得します。

 本機器では次のコマンドをお使いください。  
 :FSYStem:WAVE:GET?

**:FILE:SOR:VALId?**

機能 SOR ファイルイメージの有効/無効を問い合わせます。  
 構文 :FILE:SOR:VALId?  
 例 :FILE:SOR:VALId?  
 解説
 

```
-> :FILE:SOR:VALID 1
```

測定データ  
 0:無効  
 1:有効

 本機器では次のコマンドをお使いください。  
 :FSYStem:WAVE:VALId?

**:FILE:SUBFolder:LIST?**

機能 カレントフォルダーのサブフォルダーリストを問い合わせます。  
 構文 :FILE:SUBFolder:LIST?  
 例 :FILE:SUBFOLDER:LIST?  
 解説
 

```
-> :FILE:SUBFOLDER:  

  LIST "3,ABC/,DEF/,MACRO/"
```

「個数、ファイル(またはフォルダー)、…、ファイル(またはフォルダー)」のように返します。  
 フォルダーリストは最後に「/」をつけて返します。

 本機器では次のコマンドをお使いください。  
 :FSYStem:LIST?

**:FILE:TYPE**

機能 保存時のファイルタイプを設定/問い合わせします。  
 構文 :FILE:TYPE {SET|SOR|CSV\_WAVE|CSV\_EVENT|BMP|PNG|JPG|CFG}  
 :FILE:TYPE?  
 例 SET: 設定ファイル  
 SOR: Telcordia SR-4731 に準拠した形式のファイル  
 CSV\_WAVE: CSV 形式(波形)のファイル  
 CSV\_EVENT: CSV 形式(イベント)のファイル  
 BMP: BMP 形式のファイル  
 PNG: PNG 形式のファイル  
 JPG: JPG 形式のファイル  
 CFG: システム設定の情報ファイル  
 :FILE:TYPE SOR  
 :FILE:TYPE? -> :FILE:TYPE CSV\_WAVE  
 解説 SOR、CSV\_WAVE、CSV\_EVENT は OTDR の機能を使用しているときだけ有効になります。  
 本機器では次のコマンドをお使いください。  
 :FSYStem:SAVE ではファイルタイプの設定は不要  
 :FSYStem:PARAm:NAME の拡張子から自動で判別します。

## NETWork:WLANApmode グループ

無線 LAN のアクセスポイントモードの設定に関する、AQ1210 シリーズのコマンドです。  
本機器では、将来、非公開となる予定です。

### :NETWork:WLANApmode:SSID

機能 ネットワークの WLAN アプリケーションの識別名 (SSID) を設定 / 問い合わせします。  
構文 :NETWork:WLANApmode:SSID <文字列>  
:NETWork:WLANApmode:SSID?  
例 :NETWORK:WLANAPMODE:SSID "12345678"  
:NETWORK:WLANAPMODE:SSID?  
-> :NETWork:WLANAPMODE:SSID "12345678"  
解説 本機器では次のコマンドをお使いください。  
:NETWork:WLAN:ACCesspoint:SSID

### :NETWork:WLANApmode:ENCrypt

機能 ネットワークの WLAN アプリケーションの暗号化モードを設定 / 問い合わせします。  
構文 :NETWork:WLANApmode:ENCrypt {NONE|WPA2 \_ PSK}  
:NETWork:WLANApmode:ENCrypt?  
例 :NETWORK:WLANAPMODE:ENCRYPT WPA2 \_ PSK  
:NETWORK:WLANAPMODE:ENCRYPT?  
-> :NETWORK:WLANAPMODE:  
ENCRYPT WPA2 \_ PSK  
解説 本機器では次のコマンドをお使いください。  
:NETWork:WLAN:ACCesspoint:ENCrypt

### :NETWork:WLANApmode:PASSword

機能 ネットワークの WLAN アプリケーションのパスワードを設定 / 問い合わせします。  
構文 :NETWork:WLANApmode:PASSword <文字列>  
:NETWork:WLANApmode:PASSword?  
例 :NETWORK:WLANAPMODE:  
PASSWORD "12345678"  
:NETWORK:WLANAPMODE:PASSWORD?  
-> :NETWORK:WLANAPMODE:  
PASSWORD "12345678"  
解説 本機器では次のコマンドをお使いください。  
:NETWork:WLAN:ACCesspoint:PASSword

### :NETWork:WLANApmode:CHannel

機能 ネットワークの WLAN アプリケーションのチャネルを設定 / 問い合わせします。  
構文 :NETWork:WLANApmode:CHannel {AUTO|CH<x>}  
:NETWork:WLANApmode:CHannel?  
<x> = 1 ~ 11  
例 :NETWORK:WLANAPMODE:CHANNEL CH1  
:NETWORK:WLANAPMODE:CHANNEL?  
-> :NETWORK:WLANAPMODE:CHANNEL CH1  
解説 本機器では次のコマンドをお使いください。  
:NETWork:WLAN:ACCesspoint:CHannel

### :NETWork:WLANApmode:IPADdress

機能 ネットワークの WLAN アプリケーションの IP アドレスを設定 / 問い合わせします。  
構文 :NETWork:WLANApmode:IPADdress <文字列>  
:NETWork:WLANApmode:IPADdress?  
例 :NETWORK:WLANAPMODE:  
IPADDRESS "192.168.0.1"  
:NETWORK:WLANAPMODE:IPADDRESS?  
-> :NETWORK:WLANAPMODE:  
IPADDRESS "192.168.0.1"  
解説 本機器では次のコマンドをお使いください。  
:NETWork:WLAN:ACCesspoint:IPADdress

### :NETWork:WLANApmode:NETMask

機能 ネットワークの WLAN アプリケーションのネットマスクを設定 / 問い合わせします。  
構文 :NETWork:WLANApmode:NETMask <文字列>  
:NETWork:WLANApmode:NETMask?  
例 :NETWORK:WLANAPMODE:  
NETMASK "255.255.255.0"  
:NETWORK:WLANAPMODE:NETMASK?  
-> :NETWORK:WLANAPMODE:  
NETMASK "255.255.255.0"  
解説 本機器では次のコマンドをお使いください。  
:NETWork:WLAN:ACCesspoint:NETMask

### :NETWork:WLANApmode:DHCPSstartaddr

機能 ネットワークの WLAN アプリケーションの DHCP サーバが割り振る IP アドレスの開始アドレスを設定 / 問い合わせします。  
構文 :NETWork:WLANApmode:  
DHCPSstartaddr <文字列>  
:NETWork:WLANApmode:DHCPSstartaddr?  
例 :NETWORK:WLANAPMODE:  
DHCPSTARTADDR "192.168.0.100"  
:NETWORK:WLANAPMODE:DHCPSSTARTADDR?  
-> :NETWORK:WLANAPMODE:  
DHCPSTARTADDR "192.168.0.100"  
解説 本機器では次のコマンドをお使いください。  
:NETWork:WLAN:ACCesspoint:DHCPSstartaddr

**:NETWork:WLANSmode:STATE**

機能 ネットワークの WLAN アプリケーションの使用を設定 / 問い合わせします。

構文 :NETWork:WLANSmode:STATE <Boolean>

例 :NETWork:WLANSmode:STATE?

:NETWORK:WLANSMODE:STATE ON

:NETWORK:WLANSMODE:STATE?

-> :NETWORK:WLANSMODE:STATE 1

解説 WLAN アプリケーションの使用を ON にすると、WLAN アプリケーションが使用可能になります。

本機器では次のコマンドをお使いください。

:NETWork:WLANS:ACCesspoint:STATE

**NETWork:WLANSCommon グループ**

WLAN モジュールの設定に関する、AQ1210 シリーズのコマンドです。

本機器では、将来、非公開となる予定です。

**:NETWork:WLANSCommon:FWVersion?**

機能 WLAN モジュールのファームウェアのバージョンを問い合わせます。

構文 :NETWork:WLANSCommon:FWVersion?

例 :NETWORK:WLANSCOMMON:FWVERSION?

-> :NETWORK:WLANSCOMMON:

FWVERSION 1695438116

解説 本機器では次のコマンドをお使いください。

:NETWork:WLANS:COMMON:FWVersion?

**:NETWork:WLANSCommon:HWVersion?**

機能 WLAN モジュールのハードウェアのバージョンを問い合わせます。

構文 :NETWork:WLANSCommon:HWVersion?

例 :NETWORK:WLANSCOMMON:HWVERSION?

-> :NETWORK:WLANSCOMMON:

HWVERSION 18448

解説 本機器では次のコマンドをお使いください。

:NETWork:WLANS:COMMON:HWVersion?

**:NETWork:WLANSCommon:MACaddress?**

機能 WLAN モジュールの MAC アドレスを問い合わせます。

構文 :NETWork:WLANSCommon:MACaddress?

例 :NETWORK:WLANSCOMMON:MACADDRESS?

-> :NETWORK:WLANSCOMMON:

MACADDRESS "XXXXXXXXXXXX"

解説 本機器では次のコマンドをお使いください。

:NETWork:WLANS:COMMON:MACaddress?

# 索引

数字		ページ
10進数		4-8
A		ページ
ACQuire グループ		5-13, 5-44, 5-56, 5-61, 5-62
B		ページ
Boolean		4-10
D		ページ
dB 表示桁		5-29
DHCP サーバ (WLAN アクセスポイント)		5-51
DHCP( ネットワーク )		5-49
DISPlay グループ		5-29
F		ページ
FILE グループ		付-6
FIPRobe グループ		5-31
I		ページ
IP アドレス (WLAN アクセスポイント)		5-50
IP アドレス (ネットワーク)		5-49
L		ページ
LABEL グループ		5-42
LCD 輝度		5-46
LIGHTsource グループ		5-44
M		ページ
MAX		5-54
MENU グループ		5-45
MIN		5-54
N		ページ
NRf		4-10
P		ページ
Pass/Fail 判定 ( ファイバー端面の )		5-31
S		ページ
SSID(WLAN アクセスポイント)		5-50
STP ケーブル		2-3
T		ページ
TCP/IP の設定		2-6
U		ページ
USB インタフェース		1-2
UTP ケーブル		2-3
W		ページ
WAvedata グループ		5-62
ア		ページ
空き容量		5-39
イ		ページ
アクセスポイントモード設定		3-4
アッテネーション		5-13
暗号化モード (WLAN アクセスポイント )		5-50
エ		ページ
イーサネットインターフェース		2-2
イーサネット設定		2-4
イーサネット通信の ON/OFF		5-50
移動 ( カーソル / マーカの )		5-20
イベント挿入		5-21
イベントタイプ		5-21
イベントの削除		5-21
エ		ページ
エラーキュー		5-59, 6-2
エラーコードとメッセージ		5-59
エラーダイアログ		5-45
オ		ページ
応答		4-7
応答メッセージ		4-2
オプション情報		5-64
オフセット ( パワーメーターの )		5-54
カ		ページ
カーソル dB 値		5-17
カーソル位置		5-17
カーソルの消去		5-17
カーソルの表示形式		5-29
カーソルリンク		5-17
開始位置 ( 区間データの )		5-24
開始位置ラベル		5-43
会社名		5-42
拡大率		5-30
下限しきい値 ( パワーメーターの )		5-55
画面色		5-29
カレントデータフラグ		5-42
カレント波形データの保存		5-40
キ		ページ
基準点 ( 区間データの )		5-24
共通コマンドヘッダー		4-4
距離		4-9
距離 ( カレントイベントの )		5-20
距離 ( 区間データの )		5-23
距離原点		5-23
距離表示桁		5-29
距離レンジ		5-13, 5-14
近似直線		5-29
近似法 ( イベント )		5-18
近似法 ( 区間解析の )		5-23
近似法 ( マーカー )		5-22
ク		ページ
クエリー		4-1
区間解析データ		5-23
区間屈折率		5-21
区間データの基準点		5-23
グループ		4-5
群屈折率		5-23

## 索引

<b>ケ</b>	<b>ページ</b>	
警告音	5-46	
ゲートウェイ (ネットワーク)	5-49	
ケーブル ID	5-42	
ケーブルコード	5-42	
言語	5-47	
<b>コ</b>	<b>ページ</b>	
光源	5-44	
光源パワーメーター設定連動機能	5-54	
工場出荷時の状態	5-58	
後方散乱光レベル	5-17	
<b>サ</b>	<b>ページ</b>	
サービスリクエストイネーブルレジスタ	5-65	
再起動	5-60	
サンプリング間隔	5-16	
<b>シ</b>	<b>ページ</b>	
時間	4-9	
自動イベント検出	5-13	
自動検出	5-17	
自動検出イベント	5-17	
自動バックライトオフ	5-46	
自動保存	5-13	
氏名	5-43	
シャットダウン	5-60	
終了位置 (区間データの)	5-23	
終了位置ラベル	5-43	
出力キュー	6-2	
上位クエリー	4-6	
上限しきい値 (パワーメーターの)	5-55	
状態レジスタ	5-59, 6-1	
省略形	4-7	
初期値	5-58	
<b>ス</b>	<b>ページ</b>	
ステーションモード	3-5	
ステータス機能	5-59	
ステータスピアトリレジスタ	5-64, 5-65	
スナップショット	5-24	
スプリッタ分岐数 (カレントイベントの)	5-20	
スプリッタ分岐数 (フルトイベントの)	5-21	
<b>セ</b>	<b>ページ</b>	
接続損失	5-20, 5-22	
接続損失のしきい値	5-27	
接続損失のしきい値 (フルトイベントの)	5-26	
セルフテスト	5-65	
ゼロセット (パワーメーターの)	5-55	
<b>ソ</b>	<b>ページ</b>	
測定開始位置	5-14	
測定結果 (パワーメーターの)	5-54	
測定波長	5-16	
損失	4-9	
損失 (区間データの)	5-24	
<b>タ</b>	<b>ページ</b>	
タイムアウト時間	2-6, 5-49	
<b>チ</b>	<b>ページ</b>	
チャンネル (WLAN アクセスポイント)	5-50	
<b>テ</b>	<b>ページ</b>	
データ	4-8	
デッドロック	4-3	
デバイスリセット	5-64	
<b>二</b>	<b>ページ</b>	
2 次カーソル	5-29	
<b>ネ</b>	<b>ページ</b>	
ネットマスク (WLAN アクセスポイント)	5-50	
ネットマスク (ネットワーク)	5-50	
ネットワーク設定	2-4, 3-4, 3-6	
<b>ハ</b>	<b>ページ</b>	
波形データ	5-62	
パスワード (WLAN アクセスポイント)	5-50	
パスワード (ネットワーク)	5-49	
波長	4-9, 5-44	
波長設定 (パワーメーターの)	5-55	
発光の開始	5-44	
発光の停止 (可視光源の)	5-61	
発光の停止 (可視光源の)	5-61	
パルス幅	5-13, 5-15	
パワーセーブ	5-48	
反射減衰量	5-20, 5-22	
反射減衰量 (区間データの)	5-24	
反射減衰量のしきい値	5-26	
反射減衰量のしきい値 (フルトイベントの)	5-26	
反射減衰量の飽和	5-22	
反射減衰量の飽和 (区間データの)	5-24	
反射表示	5-48	
反射量	5-22	
反射量の飽和	5-22	
<b>ヒ</b>	<b>ページ</b>	
日付、時刻の変更	5-47	
表示開始距離	5-29	
表示開始レベル	5-29	
表示スケールの初期化	5-30	
表示単位 (パワーメーターの)	5-55	
標準イベントイネーブルレジスタ	5-64	
標準イベントステータスレジスタ	5-64	
<b>フ</b>	<b>ページ</b>	
ファームウェアバージョン	5-64	
ファイバー ID	5-42	
ファイバー終端	5-25	
ファイバータイプ	5-42	
ファイルの削除	5-36	
ファイルの取得	5-37	
ファンクションモード	5-45	
フォーマット (内蔵メモリーの)	5-58	
フルダーラーの作成	5-38	
フルダーラー / ファイル名の指定	5-40	
フルトイベント	5-21	
光プラグ	5-14	
プログラムメッセージ	4-1	
ブロックデータ	4-10	
<b>ヘ</b>	<b>ページ</b>	
平均化回数	5-13	
平均化回数 (パワーメーターの)	5-54	
平均化時間	5-14	

---

平均化実処理回数 .....	5-13
平均化測定 .....	5-14
平均化単位 .....	5-14
平均化方法 .....	5-14
ヘッダーを付けない応答 .....	4-7
変調 .....	5-54
変調周波数 .....	5-44

<b>ホ</b>	<b>ページ</b>
ポート番号 .....	2-2
補助マーカー .....	5-23

<b>マ</b>	<b>ページ</b>
マーカー .....	5-18, 5-23
マーカー情報の表示 .....	5-30
マーカーの消去 .....	5-22
マーカーモード .....	5-45

<b>メ</b>	<b>ページ</b>
命令 .....	4-4
メッセージ .....	4-1

<b>モ</b>	<b>ページ</b>
文字データ .....	4-9
文字列データ .....	4-10

<b>ユ</b>	<b>ページ</b>
ユーザー名 .....	5-49

<b>リ</b>	<b>ページ</b>
リアルタイム測定 .....	5-15
リファレンス (パワーメーターの) .....	5-54
リモートコントロールの解除 (USB 通信) .....	1-4
リモートコントロールの解除 (WLAN/LTE) .....	3-7
リモートコントロールの解除 (イーサネット) .....	2-5
リモート / ローカル切り替え .....	1-2, 2-2, 3-2

<b>ル</b>	<b>ページ</b>
累積損失 .....	5-20